

平成6年度
事業報告書

自 平成6年4月1日

至 平成7年3月31日

社団法人 日本病院会

目 次

平成6年度事業報告

第1	会務報告	1
第2	会 議	8
第3	委員会・部会	45
第4	広 報	79
第5	定例研究会	87
第6	全国研究会	93
第7	セミナー	96
第8	診療録管理課程通信教育	104
第9	事務長養成課程通信教育	106
第10	海外視察研究会	108
第11	医療従事者無料職業紹介事業	109
第12	病院幹部医会	110
第13	調 査 室	111
第14	第44回日本病院学会	112
第15	第35回日本人間ドック学会	115
第16	第20回日本診療録管理学会	121
第17	'94国際モダンホスピタルショウ	128
第18	1994年国際病院連盟汎地域会議	132
第19	アジア病院連盟	153
第20	他団体との連絡協議及び連合	159
第21	日本病院会政治連盟会務報告	163
第22	要望・提言	164
	役員名簿	194
	委員会等所掌一覧表	202
	委員会委員名簿	203
	研究会委員名簿	213
	会員状況	221

第1 会務報告

平成6年
4月3日
～8日

国際病院連盟が米テキサス州で世界保健フォーラム・グラス会議を開催、16カ国20名が参加し、日本から三宅浩之委員長が出席

5日 エイズ対策本部が募集していたストップエイズキャンペーン（SAC）のロゴマークを決定。全国から看護学生等19件の応募があり、会長賞1点、佳作2点を選定

14日 連立与党HIVワーキングチーム（高桑栄松座長）のヒアリングに河北博文副会長、渡辺晃委員長が出席、エイズの診療体制等を説明

15日 診療録管理研究会（木村明委員長）を千葉大学で開催、6年度研究会がスタート

20日 平成6年の「桜を見る会」が新宿御苑で開かれ、当会から加納繁美・岸口繁理事が招待される

23日 診療録管理通信教育の第40回認定証授与式を開催し、77名を認定、診療録管理士として登録する。昭和49年の開始以来延べ1,996人を登録

27日 全国病院団体連合（諸橋芳夫代表幹事）が総会を開催、6年度事業計画等を協議、決定

29日 平成6年春の叙勲で、当会推せんの織本正慶常任理事が勲四等瑞宝章を受賞

5月3日
～9日 日中医学交流旅行団（高橋勝三団長）が長春、ハルビン、北京等を訪問、21名が参加

6日 看護業務改善推進連絡会（河北博文座長）が最終委員会を開催、業務改善のマニュアル冊子とビデオ完成を報告

11日 春の園遊会を赤坂御苑で開催、当会から楯塚登喜郎元理事が招待

12日 全国病院団体連合が厚生省へ要望書提出、臨床研修病院の医療法の位置づけ、診療報酬大幅引上げ、消費税負担の解消、中医協に代表など

21日 代議員会・総会を開催、平成5年度事業報告と決算を承認。終了後岩崎榮参与から「病院機能評価と病院経営をめぐる」の特別講演

6月6日 日本私立医科大学協会（吉岡守正会長）と当会の両正副会長他が懇談、病院の消費税負担問題をめぐり、担当者による合同委員会の開催など合意

25日 カナダ医療視察旅行（高橋淑郎コーディネーター）の一行19名が出発、7月5日までの行程

25日 合同理事会開催。終了後、広瀬輝夫前ニューヨーク医科大学臨床外科学教授から「アメリカ医療の展望」と題して特別講演

30日 厚生省保険局へ10月診療報酬改定で意見・要望提出。付添看護の廃止、基準看護の見直し、

給食の負担導入等で社会保険・老人保健委員会（西村昭男委員長）と給食委員会（原田充善委員長）がまとめる

- 7月7日 '94国際モダンホスピタルショウを東京・池袋のサンシャインシティ文化会館で開催。「医療と生活をつなげる — 21世紀への保健、医療、福祉の展開」をテーマに、海外22社を含む157社が出展、3日間のべ51,740人が来場、池袋開催としては過去最大の来場者
～9日
- 23日 事務長養成課程通信教育の認定証授与式を開催
- 30日 病院長・幹部職員セミナーを東京・ダイヤモンドホテルで開催、特別講演3題（小田清一、水野肇、二木立）とシンポジウム2題（医療費改定の影響、看護業務の改善）で159名が参加
～31日
- 8月2日 自民党国民生活局主催で病院・医業団体との懇談会。当会からは消費税のゼロ税率適用ほか税制改正、平成7年度予算について要望
- 12日 国際エイズ会議（7日から横浜で）の最終日のサテライトシンポジウムで、当会SAC委員会主催の「医療従事者のためのエイズ対策ワークショップ」を開催
- 23日 全国病院団体連合が消費税のゼロ税率適用、7年度予算（医療費改定、病院増改築の補助金増額等）で要望、諸橋代表幹事が厚生省当局へ
- 25日 平成6年度厚生科学研究「付添看護の実態把握に関する研究」の第一回会合、当会から伊藤研常任理事が参画
- 9月3日 台湾病院協会第27回定期総会に高橋勝三常任理事が出席、4日までの日程
- 8日 第20回日本診療録管理学会（学会長・大村一郎国立呉病院名誉院長）が広島県・呉市文化ホールで開催、「診療録管理、医療変革への対応」をテーマに、924名参加
～9日
- 14日 厚生省・病院機能評価基本問題検討会が報告書、第三者評価機構の設置などを提言、河北副会長が参画
- 29日 大韓病院協会の第10回病院管理総合学術大会に三宅委員長が出席、30日まで
- 10月4日 第44回日本病院学会（学会長・諸橋芳夫会長）が「世界に通ずる医療をめざして — 理想と現実」をテーマに、パシフィコ横浜で開催、学会長講演、特別講演2、シンポジウム2、公開講演3、ほか一般演題等で、延べ6,000名が参加
～5日
- 6日 病院学会に引続いて1994年国際病院連盟汎地域会議（諸橋芳夫学会長）を同会場で開催、「ヘルスケア — その理想と現実」をテーマに基調講演2、学会長講演、特別講演1、パネルディベート1、公開シンポジウム1、その他病院見学、バンケット、アトラクション
～8日

等のプログラムで37カ国522名が参加

- 12日 平成6年度厚生科学研究事業「病院機能評価結果と病院経営収支との関係に関する研究」が初会合、主任研究者として諸橋会長
- 20日 第35回日本人間ドック学会（学会長・笹森典雄牧田総合病院附属健診センター院長）が東京の日本青年館で開催、「多様化する人間ドックへの対応 ― 総合健康評価の確立」をテーマに、1,800名が参加、一般演題は197題と過去最多。
- 22日 厚生省・医療保険審議会委員の2期目依頼があり、引続き河北副会長を推せん
- 22日 筑波大学附属病院が当会に入会。国立大学病院（文部省）として第一号会員となり、これで実質的に全ての経営主体が当会に参加することになった。
- 22日 診療録管理通信教育の認定証授与式。今回認定者は80名で、延べ2,000名を突破した。
- 28日 消防庁予防課に規制緩和で要望、防災対策部会（織本正慶部会長）がまとめる
- 11月2日 米国エイズ医療事情視察団（コーディネータ・高柳和江日本医大助教授）が13名の参加でボストン、ニューヨーク等を訪問
- 3日 平成6年秋の叙勲、当会推せんの登内真副会長が勲三等瑞宝章を受章
- 7日 勲日本顕彰会の平成6年度社会貢献者表彰式で当会推せんの酒井隆子元日本診療録管理士協会会長が受章
- 16日 平成6年度厚生省エイズ対策研究推進事業の中の「エイズ診療拠点病院の整備に関する研究」が初会合、分担研究者として当会河北副会長が参画
- 17日 改革・政策委員会（中野寛成委員長）、厚生部会の平成7年度予算・税制要望ヒアリングに諸橋会長が出席
- 30日 自民党医療基本問題調査会（丹羽雄哉会長）の正副会長・顧問会議の消費税ヒアリングに河北副会長が出席
- 12月1日 選挙告示。任期満了に伴う役員改選について通知
- 1日 厚生省・病院経営指標策定方法等検討委員会の第1回会合、当会から梶原優監事が参画
- 1日 厚生省・医療法人制度検討会が報告書、持ち分の定めのある社団の出資額限度方式の導入等、あるいは財団、特定医療法人について現状と課題を提言。医療法改正に向け病院団体代表委員は引続き懇談会で継続。当会から伊藤常任理事が参画
- 5日 第14次の大韓病院協会医療保険研修団一行8名が来日、10日まで国立医療・病院管理研究所ほかで研修
- 6日 厚生省・薬剤師養成に係る実務研修受け入れ体制の整備等に関する調査検討委員会が初会合、当会から河北副会長が参画

- 9日 厚生省・血液問題検討会の初会合、製造物責任（PL）法と関連し輸血用血液製剤の安全性について検討、当会から登内真副会長が参画
- 9日 最近の諸問題で記者会見、諸橋会長ほか関係役員が出席し、13社の記者と懇談。諸橋会長は「日本の医療の10不可思議」を発表
- 10日 新党結成大会（新進党）を横浜で開催、諸橋会長が招待出席
- 17日 事務所の移転（老朽化と狹隘化のため）に伴う定款改正案について、書面審理で会員に賛否を求め、集計、賛同をえる
- 19日 厚生省の医制120年開催、正副会長に招待

平成7年
1月17日

早朝、兵庫県南部地震（阪神大震災）が発生、その後戦後最大の被害に拡大する。当会に直ちに災害対策本部を設置し防災対策部会委員の現地派遣、各地会員病院から応援スタッフの派遣等対応。全半壊の会員病院に御見舞金、依田副会長・大道常任理事が御見舞いに伺う

- 26日 厚生省・医療審議会が委員改選後初総会、医療計画の見直し等審議開始。当会から大道常任理事が引続いて参画
- 30日 厚生省の国立病院・療養所の政策医療、再編成等に関する懇談会の初会合、当会から諸橋会長が参画

2月8日 阪神大震災被害病院対策に関する自民党社会部会正副部会長会議に登内副会長出席、復興のための要望事項を提出

- 13日 厚生省・病院職員教育システム検討委員会の初会合、当会から中後勝常任理事が参画
- 16日 全国病院団体連合主催の「国民医療を守る全国病院大会」を東京半蔵門の東條会館で開催、400名参加、診療報酬大幅引上げ、阪神大震災復興の特別立法等を決議し各方面へ陳情
- 25日 合同理事会を開催、平成7年度事業計画・予算案及び事務所移転に伴う定款改正案を承認。また阪神大震災で中止を決めた第45回日本病院学会（神戸市開催、岡本道雄学会長）は、その後市当局の要請もあり“災害学会”として再開する方向で調整することとした。

3月1日 前日に事務所移転、1日から業務開始。所在地は東京都千代田区一番町13-3、日交一番町ビル2階（約167坪）で、旧事務所（千代田区麴町2-14）に近く、昨春竣工の新築ビル

- 6日 当会事務所でエイズ・ウォームライン開所式を厚生省松村保健医療局長、稲葉エイズ結核感染症課長を迎え開催、医療従事者向けの相談窓口業務を開始する。

- 13日 厚生省・医療統計のあり方に関する検討会が報告書。医療施設調査、社会医療診療行為別調査等を検討、患者調査について提言。当会から河北副会長が参画
- 14日 教育委員会・研究会委員長会議を開催、平成6年度研究会活動のまとめと7年度計画について討議
- 25日 医療制度委員会（伊賀六一委員長）が「高齢社会に臨む基本姿勢 ― いわゆる公的介護保険をめぐって」の報告書を答申
- 25日 代議員会・総会を開催、平成7年度事業計画・予算案と、事務所移転に伴う定款改正を承認
- 25日 役員改選。会長に諸橋会長が再任されたほか、副会長、常任理事、理事、監事、代議員会議長・副議長を選出した。また顧問・参与の委嘱も決定

庶務・人事

1. 平成6年春の叙勲・褒章受章者

〔勲三等瑞宝章〕	後藤 ^{やすお} 保郎	元兵庫県立尼崎病院院長（元理事）	兵庫	70
〔勲四等旭日小綬章〕	関 守	元城西病院院長（元代議員）	長野	78
〔 “ ” 〕	高木 ^{つぐお} 紹夫	元深谷赤十字病院院長（元理事・代議員）	埼玉	74
〔勲四等瑞宝章〕	織本 正慶	織本病院会長（常任理事）	東京	71
〔 “ ” 〕	たまき 玉置 英夫	玉置病院院長	和歌山	71
〔勲五等瑞宝章〕	大木 晁	太田記念病院放射線技師	福島	67
〔 “ ” 〕	塩原千世香	日吉病院総婦長	神奈川	70
〔 “ ” 〕	福地 彰	尾中病院診療放射線技師	山口	67
〔 “ ” 〕	古川 ツネ	針生ヶ丘病院看護部副部長	福島	66
〔勲六等宝冠章〕	青木 喜子	大道病院看護部長	大阪	63
〔 “ ” 〕	池田 昭子	大阪府済生会泉尾病院総婦長	大阪	63
〔 “ ” 〕	伊藤江津子	横浜船員保険病院総婦長	神奈川	59
〔紫綬褒章〕	高久 史麿	国立国際医療センター総長	東京	63

2. 平成6年秋の叙勲・褒章受章者

〔勲三等瑞宝章〕	登内 真	総合病院土浦協同病院院長（副会長）	茨城	76
〔 “ ” 〕	青木 猛	元長野赤十字病院院長（元代議員）	長野	71
〔勲四等瑞宝章〕	つぎいちろう 北原次一郎	元社会保険群馬中央総合病院院長（元理事）	群馬	71
〔 “ ” 〕	寺田 一郎	元国保水原郷病院院長（元理事・代議員）	新潟	71
〔勲五等瑞宝章〕	けいこ 内田 卿子	元聖路加国際病院総婦長（参与）	東京	66
〔勲六等宝冠章〕	村上 圭子	名古屋第一赤十字病院看護副部長	愛知	62
〔藍綬褒章〕	のぶひろ 深井 延浩	赤穂 ^{じんせん} 仁泉病院院長	兵庫	65

人 事

1. 参 与

（就 任）

寺田 守	公立陶生病院名誉院長	6年5月21日
見藤 隆子	日本看護協会会長	”
斎藤 侑也	日本病院薬剤師会会長	”

(退 任)

北川 定謙 元国立医療・病院管理研究所長 6年7月23日

2. 常任理事

(就 任)

西村 昭男 日鋼記念病院 6年4月23日

土尾 章 澁野辺総合病院 ”

原田 充善 川口市立医療センター 6年6月25日

3. 理 事

(就 任)

木村 明 新潟市民病院 6年5月21日

館野 政也 富山県立中央病院 ”

原田 充善 川口市立医療センター ”

4. 代 議 員

(就 任)

吉井 才司 碧南市民病院 6年4月1日

島田 寔 諏訪赤十字病院 6年4月20日

福田 栄 静岡赤十字病院 6年4月21日

新居 昭紀 聖隷三方原病院 ”

5. 事 務 局

(退 職)

井出 健 (事務局長) 7年3月31日

第 2 会 議

総 会

第 1 回総会

H 6 . 5 月 21 日 (土) 砂防会館 出席者 92 名

1 . 平成 5 年度事業報告書の承認に関する件

原案どおり承認

2 . 平成 5 年度収支決算の承認に関する件

原案どおり承認

(一般会計)

(単位 : 円)

収入の部

1 . 会 費 収 入	272,213,350
2 . 事 業 収 入	136,113,110
3 . 賛助会員会費並びに寄附金	51,788,350
4 . 雑 収 入	18,590,704
5 . 他会計より繰入金収入	4,000,000
当期収入合計	482,705,514
前期繰越収支差額	93,455,256
収 入 合 計	576,160,770

支出の部

1 . 事 業 費	285,893,553
2 . 負 担 金	1,494,800
3 . 会 議 費	23,728,511
4 . 事 務 諸 費	149,525,430
5 . 他会計へ繰入金支出	14,000,000
6 . 予 備 費	0
当期支出合計	474,642,294
当期収支差額	8,063,220
次期繰越収支差額	101,518,476

(特別会計)

A . 基本財産

収入の部

1 . 雑 収 入	6,353,467
-----------	-----------

2. 一般会計より繰入金収入	0
当期収入合計	6,353,467
前期繰越収支差額	169,549,118
収入合計	175,902,585
支出の部	
当期支出合計	0
当期収支差額	6,353,467
次期繰越収支差額	175,902,585
B. 退職手当積立金	
収入の部	
1. 雑収入	1,543,863
2. 他会計より繰入金収入	0
当期収入合計	1,543,863
前期繰越収支差額	36,804,972
収入合計	38,348,835
支出の部	
当期支出合計	0
当期収支差額	1,543,863
次期繰越収支差額	38,348,835
C. IHF国際交流基金	
収入の部	
1. 雑収入	3,914,869
2. 他会計より繰入金収入	10,000,000
当期収入合計	13,914,869
前期繰越収支差額	129,941,751
収入合計	143,856,620
支出の部	
1. 事業費	3,035,029
2. 負担金	1,314,940
3. 他会計へ繰入金支出	4,000,000
当期支出合計	8,349,969
当期収支差額	5,564,900
次期繰越収支差額	135,506,651

D. I H F 汎地域会議

収入の部

1. 事業収入	210,000
2. 賛助会員会費並に寄付金	18,100,000
3. 雑収入	12,468
4. 他会計より繰入金収入	4,000,000
当期収入合計	22,322,468
前期繰越収支差額	4,101,592
収入合計	26,424,060

支出の部

1. 会議費	750,257
2. 事務諸費	14,404,845
当期支出合計	15,155,102
当期収支差額	7,167,366
次期繰越収支差額	11,268,958

※特別講演会

「病院機能評価と病院経営をめぐる」

日本医科大学医療管理学 教授 岩崎 榮 先生

第2回総会

H 7. 3月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者142名

1. 平成7年度事業計画(案)に関する件

原案どおり承認

2. 平成7年度予算(案)に関する件

原案どおり承認

(一般会計) (単位:円)

収入の部

1. 会費収入	275,783,000
2. 事業収入	134,865,000
3. 賛助会員会費並に寄付金	25,785,000
4. 負担金収入	5,000,000
5. 雑収入	19,862,000

6. 他会計より繰入金収入	3,000
当期収入合計	461,298,000
前期繰越収支差額	139,831,000
収入合計	601,129,000
支出の部	
1. 事業費	320,029,000
2. 負担金	41,200,000
3. 会議費	25,851,000
4. 事務諸費	173,618,000
5. 他会計へ繰入金支出	3,000
6. 予備費	2,000,000
当期支出合計	596,051,000
当期収支差額	△ 134,753,000
次期繰越収支差額	5,078,000
(特別会計)	
A. 基本財産特別会計	
当期収入合計	4,978,000
前期繰越収支差額	180,346,000
収入合計	185,324,000
当期支出合計	2,000
当期収支差額	4,976,000
次期繰越収支差額	185,322,000
B. 退職手当積立金特別会計	
当期収入合計	1,144,000
前期繰越収支差額	39,353,000
収入合計	40,497,000
当期支出合計	2,000
当期収支差額	1,142,000
次期繰越収支差額	40,495,000
C. I H F国際交流基金特別会計	
当期収入合計	2,640,000
前期繰越収支差額	144,852,000
収入合計	147,492,000

当期支出合計	4,740,000
当期支出差額	△ 2,100,000
次期繰越収支差額	142,752,000

3. 事務所の移転に伴う定款改正（案）に関する件
事務所の移転に伴う定款第2条（事務所）の変更を承認

代議員会

第1回代議員会

H 6. 5月21日(土) 砂防会館 出席者34名

1. 平成5年度事業報告の承認に関する件
原案どおり承認
2. 平成5年度収支決算の承認に関する件
原案どおり承認（第1回総会を参照）
3. 欠員理事の選出に関する件
理事3名の選出を承認
 - 木村 明（新潟市民病院長）
 - 館野 政也（富山県立中央病院長）
 - 原田 充善（川口市立医療センター院長）
4. 参与の委嘱に関する件
参与3名の委嘱を承認
 - 寺田 守（公立陶生病院名誉院長）
 - 見藤 隆子（日本看護協会会長）
 - 齋藤 侑也（日本病院薬剤師会会長）

第2回代議員会

H 7. 3月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者59名

1. 平成7年度事業計画（案）
原案どおり承認
2. 平成7年度予算（案）に関する件
原案どおり承認（第2回総会を参照）
3. 事務所の移転に伴う定款改正（案）に関する件
事務所の移転に伴う定款第2条（事務所）の変更を承認し総会へ上程

代議員会（新代議員による）

H 7. 3月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者62名

1. 代議員会議長の選出の件

向野 榮（福井県・福井赤十字病院長）氏を再選

2. 代議員会副議長選出の件

加藤 正弘（東京都・江戸川病院長）氏を再選

3. 監事選出の件

星 和夫（東京都・青梅市立総合病院長）

梶原 優（千葉県・板倉病院長） 両氏を再選

4. 理事選出の件

理事立候補者66名（定員）の選出を承認

5. 顧問・参与の委嘱に関する件

顧問13名、参与10名の委嘱を承認

顧問	左奈田 幸夫	システム総合開発研究所顧問
	小野田 敏郎	佼成病院名誉院長
	内藤 景岳	総合病院南大阪病院院長
	遠山 豪	遠山病院名誉院長
	岡山 義雄	東海記念病院理事長
	若月 俊一	佐久総合病院総長
	財津 晃	長浜赤十字病院名誉院長
	小野 肇	大口東総合病院理事長
	登内 真	総合病院土浦協同病院院長
	村瀬 敏郎	日本医師会会長
	大浜 方栄	参議院議員
	宮崎 秀樹	参議院議員
	自見 庄三郎	衆議院議員
参与	松田 朗	国立医療・病院管理研究所所長
	高久 史麿	国立国際医療センター総長
	行天 良雄	医事評論家
	牧野 永城	元聖路加国際病院院長
	岡崎 通	国立津病院名誉院長
	寺田 守	公立陶生病院名誉院長
	内田 卿子	元聖路加国際病院副院長

見 藤 隆 子 日本看護協会会長
 齋 藤 侑 也 日本病院薬剤師会会長
 岩 崎 榮 日本医科大学医療管理学教授

理 事 会

第1回理事会（常任理事会と合同開催）

H 6 . 4 月23日(出) ダイヤモンドホテル 出席者50名

1. 会員の入退会について

正会員入会 6 件、正会員退会 6 件、賛助会員入会 2 件、賛助会員退会 3 件を承認
 （4 月23日現在、正会員2,474会員、賛助会員426会員）

2. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設の指定を承認

1. 福島県・会田病院（指定 2 床）
2. 東京都・東京天使病院（指定 2 床）
3. 滋賀県・マキノ病院（指定 2 床）
4. 岡山県・積善病院（指定 2 床）
5. 広島県・広島総合病院（指定 2 床）

3. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 高齢者の増加等社会変化を踏まえた総合都市防災対策検討委員会の委員推薦
 被推薦者：織本正慶常任理事
 依 頼 元：(財)都市防災研究所
2. 平成 6 年度愛の血液助け合い運動の後援
 依頼元：厚生省薬務局長

4. 5月21日開催の代議員会・総会に提出する議題について

平成 5 年度事業報告（案）、収支決算報告（案）、参与委嘱として交代 2 名、新規 1 名、計 3 名の委嘱（案）の紹介、説明があり了承され代議員会に上程

5. 委員会委員長の補充について

下記交代を承認

委員会・部会名	新 任
1. 防災部会	織本正慶 常任理事
2. 給食委員会	原田充善 常任理事
3. 社会保険・老人保健委員会	西村昭男 常任理事

6. 各委員会の開催報告について

報告を了承

7. 医療審議会医療法人部会の開催報告について

3月28日に開催し、医療法人の設立認可に係る審査の検討概要報告、特定機能病院の承認状況報告と臨床研修指定病院の位置付けを医療法に付記すべきとの意見提出報告を了承
大道 學 常任理事出席

8. 医療法人制度検討委員会の開催報告について

4月22日の開催報告として医療法人の持ち分制度、種類区分の必要性、特定医療法人の法人税率軽減等の優遇措置の検討内容説明を了承
伊藤 研 常任理事出席

9. 医療統計のあり方に関する検討会の開催報告について

3月30日の開催報告として、設置目的、組織の概要説明があり了承
河北博文副会長出席

10. 連立与党H I Vワーキングチームのヒアリングへの出席報告について

4月14日のヒアリングに出席しエイズ対策の必要性と当会の活動状況報告を実施

河北博文副会長出席

11. レセプト電算処理システム基本マスターに関する懇談会の経過報告について

経緯報告、今後の病院対応の必要性を取り上げ当会の医事研、病院情報センターからの委員選出を図り懇談会の充実を図ることで了承
三宅浩之委員長出席

12. ワールド・ヘルス・フォーラムへの参加報告について

4月3日～8日テキサス州ダラスで開催されたフォーラムで「医薬品と医療機器・材料」の開発と利用についての国際化の諸問題が取り上げられ政府機関等で意志決定が図られるような参考的な報告書の作成を企画した旨の報告を了承
三宅浩之委員長出席

13. 全国病院団体連合の総会開催について

4月27日の総会審議事項の紹介、活動方針等が述べられました

14. 代議員の交代について

下記代議員の交代を承認

	(新)	(前)
長野県	島田 寔 (諏訪赤十字病院)	青木 猛 (長野赤十字病院)
静岡県	福田 栄 (静岡赤十字病院)	鈴木 重世 (遠州総合病院)
	新居 昭紀 (聖隷三方原病院)	菊池 貞徳 (順天堂伊豆長岡病院)

愛知県	鈴木一男 (豊橋市民病院)	小田博 (市立岡崎病院)
〃	吉井才司 (碧南市民病院)	吉富久吉 (東海市民病院)

15. 第45回日本病院学会の開催について

岡本道雄学会長が病院長から名誉院長に交代したが、当初の予定どおり学会長を引き受けた旨の報告を了承

16. 診療報酬改定について

今回の診療報酬改定に際しての本会の活動報告と改定の主要項目説明、各役員からの改定に対する意見拝聴を求め、中小病院の経営を勘案した改定、病院医療の実体を国民に理解願う、10月改定に向け給食の一部負担問題の検討を図り、医療関係者が納得できる診療報酬改定を目指した運動展開の実施を了承

17. 医療費、医薬品について

国民医療費、老人医療費の現状説明、薬価差の現状報告を了承

18. 医療法改正について

特定機能病院の承認状況報告等を了承

19. 医療制度、医療保険制度について

厚生省の「高齢社会福祉ビジョン懇談会」に対する各党の見解の紹介、社会保障費と医療費の現状報告を了承

20. 老人保健制度、老人保健施設について

厚生省の老人保健医療福祉施策の動向説明、老人保健施設の現状報告を了承

21. 病院経営について

病院勤務医、診療所勤務医師の勤務時間の比較等の現状報告、病院経営に関する資料説明を了承

22. 病院税制について

消費税問題について関係省庁、国会議員等へ現状説明を図り十分理解願うための運動展開を実施することを了承

23. 医師、看護婦について

日医村瀬会長の所信表明、医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会の看護婦二年課程通信制検討会がまとめた報告書の概要説明を了承

24. エイズ、院内感染について

エイズサーベランス委員会発表のHIV感染状況報告を了承

25. 平成6年度病院長・幹部職員セミナーの開催について
7月30、31日開催の進捗状況報告等を了承
26. 5月代議員会・総会及び6月合同理事会の開催について
5月、6月の諸会議の開催要領を了承
27. 理事の補充について
欠員公的理事の後任理事紹介があり了承され5月21日の代議員会に上程することで了承
(新任)
 - 市町村・原 田 充 善 (川口市立医療センター院長)
 - “ ・木 村 明 (新潟市民病院院長)
 - “ ・館 野 政 也 (富山県立中央病院院長)
28. 常任理事の補充について
私的常任理事2名の後任を了承
 - 北海道・西 村 昭 男 理事
 - 神奈川・土 屋 章 理事
29. 第44回日本病院学会の演題募集について
演題申込、締切報告を了承

第2回理事会 常任理事会と合同開催

H 6. 6月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者52名

1. 会員の入退会について
正会員入会5件、正会員退会3件、賛助会員入会4件を承認
(6月25日現在 正会員2,477会員、賛助会員430会員)
2. 短期人間ドック並びに自動化健診施設の指定について
下記施設の指定を承認
(短期人間ドック実施施設)
 1. 北海道・小笠原クリニック札幌病院 (指定3床)
 2. 東京都・医療法人 浩生会スズキ病院 (指定2床)
 3. 岐阜県・朝日大学 村上記念病院 (指定4床)
(自動化健診施設)
 1. 栃木県・(財)地域医学研究基金研究所附属健診センター
 2. 群馬県・慶友健診センター
3. 社会福祉法人福利厚生センターと人間ドック指定施設等の利用提携について
本会指定の短期人間ドック、自動化健診施設の利用を承認

4. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 東京都エイズ診療体制検討委員会委員の委嘱について

依頼先：河北博文副会長

依頼元：東京都衛生局長

2. 医薬品の臨床試験の実施に関する基準（GCP）説明会の後援

依頼元：厚生省薬務局新医薬品課長

3. 第23回日本設備学会の後援及び'94病院設備・機器展の協賛

依頼元：日本病院設備協会 他

4. 第16回第2種ME技術実力検定試験の協賛

依頼元：日本エム・イー学会

5. MEDIS-DC創立20周年記念シンポジウムの協賛

依頼元：(財)医療情報システム開発センター

6. 第29回健康強調月間に対する協力

依頼元：健康保険組合連合会

5. 各委員会の開催報告について

報告を了承

6. 医療保険審議会の開催報告について

5月27日、6月8日の国保部会、6月16日の全員懇談会報告を了承

河北博文副会長出席

7. 医療統計のあり方に関する検討会の開催報告について

5月23日、6月17日に開催された検討会報告として新しい医療統計の設計を企画したパイロットスタディー（案）を、本会会員病院が導入できるか今後、統計調査部会、病院情報センター委員会で検討することで了承

河北博文副会長出席

8. 医療法人制度検討委員会の開催報告について

5月23日開催の検討会で医療法人の種類区分及び持ち分制度、特定医療法人等についての検討報告を了承

伊藤 研常任理事出席

9. 日本私立医科大学協会との懇談会報告について

6月6日に消費税問題を中心とした懇談で実施ゼロ税率課税の考え方を推進することで了承

10. 診療報酬改定について

健康保険法改正案の概要説明、10月改定に対する本会の方針について意見拝聴、4月改定要望で実現できなかった事項を再度運動展開を実施するで了承

11. 医療費、医薬品について

医療費総額の伸び率及び各都道府県別の医療費の伸び率の現状説明、平成5年度の医薬品メーカー、卸、上位50社の所得現状の説明がありました

12. 医療法改正について

6月15日に開催された医療審議会医療施設機能部会で承認した特定機能病院の承認状況報告を了承

13. 医療制度、医療保険制度について

厚生省の政策動向説明報告を了承

14. 老人保健制度、老人保健施設について

厚生省統計情報部が調査した平成5年度国民生活基礎調査、老人訪問看護統計調査の概況報告に併せた老人保健施設の現状報告、公的介護保険の創設についての動向報告等を了承

15. 病院経営について

一般病院移動年計から見た医薬収支状況、全国日赤病院の平成5年度決算見込の紹介を了承

16. 病院税制について

消費税の問題点として本会は、①非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）②消費税法の改正が行われず、社会保険医療の非課税措置が存続する支払、建物・医療機器等の購入等仕入れに係わる消費税分を社会保険診療報酬において負担していることを明瞭にしてもらうことを政府税制調査会、厚生省、日本医師会に要望提出、消費税問題については各団体とも同様の考えをもっており、行動を共にできることについては協調し、さらに新聞広告を通じ国民への理解を求め行政訴訟の実施等を検討している旨の現状報告を了承

17. 医師、看護婦について

日本学術会議がまとめた医師卒後臨床研修の改善を図るための研修制度改善の基本的方向、研修制度の目標、研修施設等の紹介報告を了承

18. エイズ、院内感染について

厚生省のエイズサーベイランス委員会がまとめた感染者現状、本会のエイズ対策本部の活動報告を了承

19. 常任理事の補充について

寺田守常任理事の後任に原田充善理事の選出を了承

20. 平成7年春の叙勲候補者の推せんについて

中山耕作副会長の推せんを了承

第3回理事会（常任理事会と合同）

H 6. 11月26日(土) 東條会館 出席者54名

1. 会員の入退会について

正会員入会 1 件、正会員退会 2 件、賛助会員入会 3 件を承認

(11月26日現在 正会員2,479会員、賛助会員439会員)

2. 自動化健診施設の指定について

下記施設の指定を承認

1. 東京都・秋留台病院健診センター

2. 茨城県・つくば総合健診センター

3. 事務所の移転について

事務所移転の理由、経緯説明があり協議の結果、移転を承認

4. 事務所の移転に伴う定款の改正（案）について

事務所の移転に伴う定款第2条の変更を会員各位への書面審理で実施することを承認

定款の一部改正（案）

条項	現 行	条項	改正案
(事 務 所)			
第2条	この会は、事務所を東京都千代田区麴町2丁目14番におく。	第2条	この会は、事務所を東京都千代田区一番町13番地3におく。

5. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 病院経営指標策定方法等検討委員会の委員推薦

依頼先：梶原 優 監事

依頼元：厚生省健康政策局長

2. 新医療情報システム合同委員会の委員推薦

被推薦者：三宅 浩之 委員長

依頼元：(財)医療情報システム開発センター

6. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

7. 医療保険審議会の開催報告について

11月18日の国保部会報告を了承 河北博文副会長出席

8. 付添看護の実態把握に関する研究会の開催報告について

10月24日の会合で付添看護の実態把握の調査要領及び、来年1月に集計、分析を図り報告書作成の現状報告を了承 伊藤 研常任常任理事出席

9. 改革・政策委員会、厚生部会の平成7年度予算、税制要望ヒアリングへの出席について

11月17日に予算関係として①社会保険診療報酬の改定 ②病院の増改築に伴う資本的費用に対する公共投資を含めた公的補助金の増額・確保 ③看護婦等養成所に係る補助金の増額・確保の3項目を、消費税としては、ゼロ税率制度の適用の他18項目を要望提出した報告を了承

10. 全国病院団体連合常任幹事会の開催報告について

11月25日に実施し今後の活動方針及び2月に病院大会実施報告を了承

11. 米国エイズ医療事情視察団の旅行報告について

11月2日～12日の視察報告を了承

12. 第21回日本診療録管理学会の開催について

概要報告を了承

日 時：平成7年9月7日(木)～8日(金)

会 場：秋田県民会館

テーマ：「診療録は誰のためのものか」

13. 平成6年秋の叙勲・褒章受章について

役員関係として登内真副会長、内田卿子参与の叙勲、会員の受章報告を了承

14. 日本医師会の医療経済・経営検討委員会の開催報告について

11月24日に開催され、医療費の国際比較を主題とした医療費の概念、定義と範囲の検討報告を了承 伊藤 研常任理事出席

15. 診療報酬改定について

厚生省の診療報酬改定の基本的な考え方の概要説明、新設項目の付添看護廃止問題については中小病院では切実な問題でもあり今後、役員会、委員会等でも十分に検討することです

16. 医療費、医薬品について

医療費総額の推移と医療費財源問題、欧米諸国との薬価比較紹介を了承

17. 医療法改正について

第三次医療法改正に対する日医の考え方、厚生省の医療法人制度の検討概要報告を了承

18. 医療制度、医療保険制度について

日本医療機能評価機構（仮称）の財団設立の必要性、性格、事業規模と業務等の概要説明、日病の発起人会参加を協議した結果、予算、情報量の問題から次回理事会までの継続審議で了承

19. 老人保健制度、老人保健施設について

20. 病院経営について

21. 病院税制について

22. 医師、看護婦について

23. エイズ、院内感染について

上記議案については時間の関係上資料一読で了承

24. 平成7年度事業計画（案）について

会議日の一部変更を了承し第一次原案を了承

25. 役員改選について

下記日程（案）を了承

役員改選日程

平成6年10月22日 選挙管理委員会設置

〃 11月1日 選挙人名簿の調整

〃 11月15日 第1回選挙管理委員会

〃 12月1日 選挙告示

平成7年1月26日 代議員の選出完了

〃 1月28日 理事・監事・代議員会議長・副議長の立候補締切
(選挙の8週間前)

〃 2月25日 立候補者氏名の会員通知
(選挙の4週間前)

〃 3月25日 選挙 代議員会
(議長・副議長・理事・監事の選出)

〃 互選 理事会
(会長・副会長・常任理事の選出)

第4回理事会（常任理事会と合同）

H7. 2月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席者56名

1. 会員の入退会について

正会員入会1件、正会員退会1件、賛助会員入会2件を承認

(2月25日現在 正会員2,481会員、賛助会員443会員)

2. 短期人間ドック実施病院の指定について

下記施設の指定を承認

1. 福島県・新白河中央病院 (指定3床)

3. 健保連との短期人間ドック契約・協定書の一部改正(案)について

健保連との健診費用を62,000円を標準料金として契約実施。また実施指定病院が適当であるかどうか3年毎に審査判断を実施する協定書を健保連と締結した報告を承認

4. 国際病院連盟理事(評議員会)候補者の推薦について

高橋勝三常任理事の推薦を承認

5. 各団体からの依頼について

下記依頼事項を承認

1. 第43回日本医療社会事業全国大会・第15回日本医療社会事業学会の後援

依頼元：日本医療社会事業協会

6. 3月25日開催の代議員会・総会に提出する議案について

1. 平成7年度事業計画(案)

阪神大震災により第45回日本病院学会の開催を神戸市では困難という理由で一時は中止となったが、神戸市として開催希望依頼があったため日時、期間を未定として神戸市での開催を了承しその他を原案どおり承認

2. 平成7年度予算(案)

原案どおり承認

3. 事務所の移転に伴う定款改正(案)

移転に伴う定款改正の書面審理報告を了承

上記3議案を代議員会・総会上程することを承認

7. 事務局長の交代について

4月1日付での交代を承認

(新)長南 篤 (旧)井出 健

8. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

9. 医療保険審議会の開催報告について

2月17日開催の全国懇談会で阪神・淡路大震災に係る健康保険制度等の特別措置についての検討概要報告、兵庫県下の理事からの被災状況報告を了承

10. 国立病院・療養所の政策医療、再編成等に関する懇談会の開催報告について

1月30日、2月22日の懇談会で今後の国立病院・療養所の果たすべき役割、その役割を

- 推進するための具体的方策についての検討報告を了承 諸橋芳夫会長出席
11. 阪神大震災被害病院対策に関する自民党社会部会正副部会長会議への出席について
2月8日に「地域医療の再建をめざして」として7項目を本会から要望提出、兵庫県でまとめた病院災害復旧についての要望事項の紹介があり、この要望を本会理事会名で関係省庁等への要望実施することを了承 登内 真副会長出席
 12. 医薬品流通近代化協議会の開催報告について
2月22日の会合で医薬品流通をめぐる最近の状況についての概要報告を了承
伊藤 研常任理事出席
 13. 付添看護の実態把握に関する研究会の開催報告について
2月9日に開催され、付添看護の実態調査結果、新看護及び老人看護等への移行等調査結果の概要を検討 伊藤 研常任理事出席
 14. 医療法人制度に関する懇談会の開催報告について
2月23日に開催され、医療法人の現行、新設のモデル定款を検討 伊藤 研常任理事出席
 15. 病院職員教育システム検討委員会の開催報告について
2月13日の第1回委員会開催され、今後の進め方、病院の開設者、管理者と経営担当職員に関する教育・研修の現状と課題を検討 中後 勝常任理事出席
 16. 全国病院団体連合・国民医療を守る全国病院大会の開催報告について
2月16日に開催し一般参加者397名、来賓27名、報道関係15名が参加し実施、協議として①診療報酬について②阪神大震災について③民間病院に対する助成について④病院が負担している消費税についてを取り上げ、決議、陳情を実施
 17. 代議員の選出並びに理事、監事、代議員会議長・副議長の立候補者について
次期役員（自平成7年4月1日～10年3月31日）として、理事66名、監事2名、代議員会議長1名、副議長1名の各立候補者届出状況報告と3月25日の諸会議日程要領を了承
 18. 診療報酬改定について
中医協全員懇談会が発表した新看護及び老人基本看護等への移行調査結果の概要を了承
 19. 医療費、医薬品について
平成6年9月の医療費総額の伸び率の現状報告を了承
 20. 医療法改正について
2月10日に総会が開催され、平成7年度厚生省予算案、阪神大震災での医療体制の取り組み、特定機能病院及び療養型病床群の許可状況、医療計画についての検討内容報告、医療計画部会の設置報告、特定機能病院の専門部会の審査報告、紹介率問題の内容説明を了承
大道 学常任理事出席 諸橋芳夫会長出席

21. 医療制度、医療保険制度について
医療施設動態調査の現状報告、平成5年の患者調査の概況調査報告を了承
22. 老人保健制度、老人保健施設について
高齢者保健福祉推進十か年戦略の推進状況報告、介護保険問題のあり方を検討し了承
23. 病院経営について
会計経理研究会がまとめた会員病院の平成5年度収支決算状況の概要説明、平成6年12月の病医院倒産状況報告を了承
24. 病院税制について
民間病院の経営と消費税の概要報告を了承
25. 医師、看護婦について
医師給与の現状報告、役員各位からの実態を拝聴
26. エイズ、院内感染について
資料一読で了承
27. 阪神大震災について
兵庫県下の実情報告、配布資料一読で了承
28. 第45回日本病院学会について
平成7年度事業計画の審議で了承され一度開催を中止したが、兵庫県より「災害学会」としての再開要請があり、日時、会場は未定として神戸市での開催を了承
29. 第36回日本人間ドック学会の開催について
開催概要報告を了承
 - 日 時：平成7年8月24日(木)～25日(金)
 - 学会長：後藤由夫（東北厚生年金病院名誉院長）
 - メンター：「生活に活かす人間ドック」
 - 会 場：仙台市・江陽グランドホテル
30. 第21回日本診療録管理学会の開催について
開催概要報告を了承
 - 日 時：平成7年9月7日(木)～8日(金)
 - 学会長：竹本吉夫（秋田赤十字病院院長）
 - メンター：「診療録は誰がためのものか」
 - 会 場：秋田県民会館
31. 3月25日の会議日程について
報告事項10で関連事項として会議日程の内容説明があり了承

新理事による理事会

H 7. 3月25日(出) ダイヤモンドホテル 出席者52名

1. 会長の選出に関する件

諸橋芳夫理事（千葉県・総合病院国保旭中央病院院長）を会長に選出（5期目）

2. 副会長の選出に関する件

中山耕作（静岡県・総合病院聖隷浜松病院院長）、高橋勝三（東京都・武蔵野赤十字病院院長）、大道 學（大阪府・大道病院理事長）、藤澤正清（福井県・福井県済生会病院院長）各理事を副会長に選出

3. 常任理事の選出に関する件

会長、副会長の協議により、19名の常任理事を選出

西 村 昭 男	北海道・日鋼記念病院院長
小山田 恵	岩手県・岩手県立中央病院院長
林 雅 人	秋田県・平鹿総合病院院長
遠 藤 良 一	福島県・白河厚生総合病院院長
原 田 充 善	埼玉県・川口市立医療センター院長
鴨 下 重 彦	東京都・国立国際医療センター院長
伊 賀 六 一	東京都・東京都済生会中央病院院長
瀬 田 克 孝	東京都・社会保険中央総合病院院長
池 澤 康 郎	東京都・中野総合病院院長
土 屋 章	神奈川県・淵野辺総合病院理事長
小 澤 寛 二	新潟県・国立療養所新潟病院院長
伊 藤 研	愛知県・大雄会第一病院院長
藤 田 仁	滋賀県・大津赤十字病院院長
中 後 勝	大阪府・高槻病院理事長
北 村 行 彦	兵庫県・優生病院院長
村 田 寿太郎	山口県・村田博愛病院院長
井 手 道 雄	福岡県・聖マリア病院院長
福 井 順	長崎県・長崎記念病院理事長
廣 田 耕 三	沖縄県・大浜第一病院院長

4. 顧問・参与の委嘱に関する件

顧問13名、参与10名の委嘱を了承し、代議員会（新代議員による代議員会）に上程することで承認（氏名一覧は第3回代議員会参照）

常任理事会

第1回常任理事会

H 6. 4月23日(出) ダイヤモンドホテル

第1回理事会と合同開催(理事会参照)

第2回常任理事会

H 6. 5月21日(出) 砂防会館 出席者26名

1. 会員の入退会について

正会員入会3件、正会員退会4件を承認

(5月21日現在 正会員2,476会員、賛助会員426会員)

2. 自動化健診の指定について

下記施設の指定を承認

1. 神奈川県:(財)神奈川県予防医学協会中央診療所

2. 新潟県:緑の丘診療所

3. 各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 日本医師会・社会保険研究委員会委員の依頼

被推薦者:伊賀 六一 常任理事

依頼元:日本医師会

4. 平成6年度社会貢献者表彰候補者の推薦について

下記1名の推薦を承認

候補者:酒井隆子(淀川キリスト教病院病歴管理室顧問)

5. 各委員会、研究研修会の開催報告について報告を了承

6. 日中医学交流旅行団の視察報告について

5月3日～9日間の視察報告を了承

7. 医療保険審議会国保部会の開催報告について

4月26日の開催報告として国民健康保険制度の問題点の検討報告を了承

河北博文副会長出席

8. 医療統計のあり方に関する検討会の開催報告について

4月28日の開催報告として平成7年度迄に「医療統計に必要な調査項目」等をまとめ平成8年度に本格的に医療統計として整備を図ることの報告を了承 河北博文副会長出席

9. 病院機能評価基本問題検討会の開催報告について

4月25日の検討会として日医の病院機能評価検討委員会の動向報告、財団設立にあたっ

ての日病としての今後の対応等の協議概要報告を了承

河北博文副会長出席

10. 全国病院団体連合の総会開催報告について

4月27日の総会報告として平成5年度の事業報告、診療報酬改定と今後の対応、消費税等を協議、要望事項に医療法の中に臨床研修指定病院の位置づけ、診療報酬の大幅な引き上げ、消費税の病院負担を解消することなど5項目を事項にあげ関係部局に実施、日本病院薬剤師会、日本臨床衛生検査技師会、全国病院栄養士協議会の3団体にオブザーバーとしての参席報告を了承

11. 平成6年春の叙勲・褒章受章者について

役員関係として織本正慶常任理事の叙勲、元役員、会員病院の受章報告を了承

12. 診療報酬改定について

4月改定の影響率調査の現状、改定に際しての不合理な事項を整理し10月改定に向け再検討を実施することで了承

13. 医療費、医薬品について

国民所得と国民医療費の現状説明、高齢化に伴う今後の老人医療費の伸び率予想報告を了承

14. 医療法改正について

厚生省が考えている第三次医療法改正の動向報告、老人病院の適正なあり方、医療法人の資産要件緩和等の検討報告を了承

15. 医療制度、医療保険制度について

厚生省保険局の福祉小委員会が試算した医療保険制度の給付率を統一した給付費影響の内容説明報告を了承

16. 老人保健制度、老人保健施設について

各都道府県別にみた老人保健施設の現状報告を了承

17. 病院経営について

一般病院移動年計による医業収支の実態報告を了承

18. 病院税制について

病院負担となっている消費税問題を協議対応策を論議し了承

19. 医師、看護婦について

日医定例代議員会の開催状況報告を了承

20. エイズ、院内感染について

資料の内容説明で了承

第3回常任理事会

H 6. 6月25日(土) ダイヤモンドホテル

第2回理事会と合同開催(理事会参照)

第4回常任理事会

H 6. 7月23日(土) ダイヤモンドホテル 出席者32名

1. 会員の入退会について

正会員入会3件、正会員退会2件、賛助会員入会3件を承認
(7月23日現在 正会員2,478会員、賛助会員433会員)

2. 短期人間ドック並びに自動化健診施設の指定について

下記施設を承認

(短期人間ドック)

1. 福井県・福井県済生会病院(指定10床)
2. 宮崎県・済生会日向病院(指定2床)

(自動化健診)

1. 岡山県・ESクリニック
2. 大阪府・革嶋内科クリニック
3. 〃・ベルクリニック

3. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 医療情報システム評価・認定制度委員会委員の委嘱

依頼先: 三宅浩之 病院情報センター委員長

依頼元: (財)医療情報システム開発センター

2. 平成6年度医療ガス保安管理技術者講習会の後援

依頼元: (財)医療機器センター

3. 第7回子どもの周りに無煙環境を!全国キャンペーンの後援

依頼元: 「子どもの周りに無煙環境を」推進協議会

4. 第6回国民の健康会議の協賛

依頼元: 全国公私病院連盟

5. 第16回フード・ケータリングショー/シンポジウムの協賛

依頼元: (社)日本能率協会

6. 医療廃棄物処理講習会への協賛

依頼元: (社)日本臨床衛生検査技師会

7. 「付添看護の実態把握に関する研究」研究者の推薦
被推薦者：伊藤 研 常任理事
依 頼 元：厚生省保険局医療課
4. 第一四半期一般会計及び特別会計の収支・監査報告及び特別会計について
収支報告、監査報告を了承
5. 各委員会、研究研修会の開催報告について
報告を了承
6. 医療保険審議会の開催報告について
6月29日開催の全員懇談会報告として「健康保険法等の一部を改正する法律について」、
「国民健康保険部会における検討結果報告」の議論概要報告、7月21日の総会開催報告を
了承 河北博文副会長出席
7. 病院機能評価基準問題検討会の開催報告について
7月4日の第三者機構設立作業小委員会開催報告として平成7年度を目処に病院機能評
価機構を設立してゆく意向説明、将来的に財団法人を設立するため医療団体からの基金拠
出を協議、検討し、本会も一部負担し取り組むことを了承
8. '94国際モダンホスピタルショウの開催報告について
7月7日～9日の開催報告を了承
9. カナダ医療事情視察団の視察報告について
6月25日～7月5日の視察報告を了承
10. 第20回日本診療録管理学会の開催について
9月8日～9日の広島県（大村一郎学会長）での開催要領報告を了承
11. 診療報酬改正について
10月の診療報酬改正の概要、新看護体系と新看護婦補助体系創設、基準給食等の内容説
明を了承
12. 医療費、医薬品について
平成4年度の国民医療費の現状説明、製薬企業の決算状況報告を了承
13. 医療法改正について
特定機能病院の承認状況報告を了承
14. 医療制度、医療保険制度について
特定機能病院及び療養型病床群の現状報告と、医療保険審議会の動向報告を了承
15. 老人保健制度、老人保健施設について
老人保健制度の現状報告、厚生省統計情報部発表の人口動態統計の状況報告を了承

16. 病院経営について

日病の職員数アンケート調査報告、病院賠償責任保険の最高補償額の引き上げの要望実施報告を了承

17. 病院税制について

税制改革案の概要報告、ゼロ税率課税の適用要望の実施報告を了承

18. 医師、看護婦について

6月27日に開催した医師需給検討委員会の概要報告、看護業務改善に伴う日本看護協会の調査報告を了承

19. エイズ、院内感染について

エイズ拠点病院指定の現状報告を了承

第5回常任理事会

H 6. 8月27日(土) ダイヤモンドホテル 出席者34名

1. 会員の入退会について

正会員入会 2件、正会員退会 1件、賛助会員入会 3件を承認
(8月27日現在 正下院2,479会員、賛助会員436会員)

2. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設の指定を承認

1. 千葉県・東船橋病院 (指定 1床)
2. 福岡県・福岡記念病院 (指定 5床)
3. " ・鳥越病院 (指定 2床)
4. " ・福岡青洲会病院 (指定 4床)
5. 熊本県・熊本セントラル病院 (指定 4床)

3. 日本病院学会評議員の推薦について

役員の交代、新任等による評議員の推薦を承認し10月開催の学会評議員会に上程することです承

1. 西村 昭 男 (日鋼記念病院理事長)
2. 原田 充 善 (川口市立医療センター院長)
3. 木村 明 (新潟市民病院院長)
4. 館野 政 也 (富山県立中央病院院長)
5. 六鹿 直 視 (半田市立半田病院院長)
6. 橋本 勇 (京都第一赤十字病院院長)
7. 井手 道 雄 (総合病院聖マリア病院理事長)

8. 加藤正弘（江戸川病院院長）
9. 見藤隆子（日本看護協会会長）
10. 齋藤侑也（日本病院薬剤師会会長）
4. 厚生省及び各団体からの依頼について
 - 下記依頼を承認
 1. 第24回日本医学会総会準備委員会の顧問就任依頼
依頼先：諸橋芳夫会長 依頼元：第24回日本医学会総会
 2. 救急フェア'94の後援及び協力依頼
依頼元：(財)日本救急医療研究・試験財団
 3. 第4回アジアメディカルショウの後援依頼
依頼元：九州医科器械団体連合会、他
 4. 平成6年度臨床検査月間の協賛依頼
依頼元：(社)日本衛生検査所協会
 5. コージェネレーションシンポジウム'94（第10回）の協賛依頼
依頼元：日本コージェネレーション研究会
5. 各委員会、研究研修会の開催報告について
報告を了承
6. 第44回日本病院学会及び1994年国際病院連盟汎地域会議の準備状況について
進捗状況報告を了承
7. 医療統計のあり方に関する検討会の開催報告について
7月25日の開催報告を了承 河北博文副会長出席
8. 医家向け医療用具流通近代化協議会の開催報告について
8月1日開催の概要報告として平成5年度医療用具流通実態調査報告(案)の概要説明を
了承 諸橋芳夫会長出席
9. 医薬品流通近代化協議会の開催報告について
8月4日の開催報告を了承 伊藤 研常任理事出席
10. 自民党と病院・医薬関係団体との懇談会の出席報告について
8月2日の懇談会で本会として平成7年度税制、予算の要望提出報告を了承
11. 台湾病院協会第27回定期総会への出席について
9月3～4日の総会に高橋勝三国際委員会委員長が会長代理出席することに了承
12. 全国病院団体連合の要望書について
消費税及び平成7年度予算に関する要望をまとめ8月23日に厚生省、関係国会議員への
要望提出報告を了承

13. 医療法人制度検討委員会の動向について
厚生省がまとめた平成7年度税制改正要望事項の内容説明を了承
伊藤 研常任理事出席
14. 付添看護の実態把握に関する研究について
付添看護の研究会の動向報告を了承
伊藤 研常任理事出席
15. 第32回日本病院管理学会学術総会の開催について
10月27日、28日開催の総会への協力依頼を了承
16. 診療報酬改定について
10月の診療報酬改定の概要説明、中医協発表の平成5年6月の医療経済実態調査結果の現状報告を了承
17. 医療費、医薬品について
平成5年度の医療保険医療費の実態説明、高額医療費の実態、医薬品メーカー卸売の6月中間決算状況報告、臨床試験（治験）の取扱を重要視して協議し会員病院への慎重なる対処を図る旨周知させることで了承
18. 医療法改正について
本年3月現在の特例病床の使用状況とエイズ診療拠点病院の病床との関連を協議し了承
19. 医療制度、医療保険制度について
厚生省が概算要求している精神・結核医療の食費負担制度の概要説明、公衆衛生審議会が意見書として厚生省に提出した病院機能評価機構（仮称）に対して本会の対応等について役員各位の意見拝聴した結果、情報の整理を図り次回常任理事までの継続審議事項とすることです承
20. 老人保健制度、老人保険施設について
新ゴールドプランの骨子説明、介護福祉士受験資格に医療機関勤務者の受験資格がない現状を協議し、各種要望事項の中に、受験資格を与えるよう要望実施することを了承
21. 病院経営について
病院経営に関する資料説明、病院賠償責任保険の最高補額を2億円に引き上げる要望を日本医師会に提出した報告を了承
22. 病院税制について
消費税・ゼロ税率制度の要望を自民党国民生活局に提出している現状報告を了承
23. 医師、看護婦について
医師需給の見直しに関する検討委員会の動向報告を了承
24. エイズ、院内感染について
エイズ拠点病院への助成状況報告、エイズ対策本部の活動現状報告を了承

25. 事務所の移転について

事務所候補地の現状報告を了承

26. 第20回日本診療録管理学会への出席について

9月8日、9日開催の学会に中山副会長が会長代理出席することで了承

第6回常任理事会

H 6. 9月17日(土) ダイヤモンドホテル 出席者30名

1. 会員の入退会について

正会員入会5件、正会員退会5件、賛助会員1件を承認

(9月17日現在、正会員2,479会員、賛助会員437会員)

2. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 薬剤師国家試験制度改正のための実務研修の受入れ体制の整備等に関する調査検討委員会の委員推薦

被推薦者：河北博文副会長 依頼元：厚生省薬務局企画課

2. 医療関連ニュービジネス研究会の委員推薦

被推薦者：河北博文副会長 依頼元：通産省産業政策局

3. 第1回第1種ME技術実力検定試験の協賛

依頼元：日本エム・イー学会

4. 医療新時代フォーラム'94の後援

依頼元：日本医療企画

3. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

4. 第20回日本診療録管理学会の開催報告について

9月8日、9日広島県・呉市で開催した学会報告を了承

5. 医療統計のあり方に関する検討会の開催報告について

検討会の動向報告、東京都からの医療機関を選定し調査するため東京都支部への選定依頼を了承

6. 病院機能評価基本問題検討会の開催報告について

9月14日の最終的な委員会で病院機能評価機構の財団設置が承認され、本会としても基本財産の拠出等財団設置への協力を承認

7. 台湾病院協会第27回定期総会への出席報告について

総会出席報告を了承

高橋勝三常任理事出席

8. 大韓病院協会第10回病院管理総合学術大会について
三宅浩之委員長が会長代理として出席することで了承
9. 第35回日本人間ドック学会の開催について
10月20日、21日の学会進捗状況報告を了承
10. 第44回日本病院学会及び1994年国際病院連盟汎地域会議の準備状況について
進捗状況報告を了承
11. 診療報酬改定について
10月診療報酬改定の概要説明、役員各位からの意見拝聴で了承
12. 医療費、医薬品について
平成5年度保険医療費の現状説明等を了承
13. 医療法改正について
特定機能病院の申請状況報告を了承
14. 医療制度、医療保険制度について
新ゴールドプラン、エンゼルプランの概要説明、医療保険審議会の動向報告を了承
15. 老人保健制度、老人保健施設について
新ゴールドプランの概要説明、平成5年の社会福祉施設の概況説明報告を了承
16. 病院経営について
病院経営収支調査の分析報告を了承
17. 病院税制について
医療法人制度改革との病院税制の方向等の見通し報告を了承
18. 医師、看護婦について
厚生省の将来の医師需給検討委員会の動向報告、卒後臨床研修のあり方などの報告を了承
19. エイズ、院内感染について
国際エイズ会議の開催状況報告を了承

第7回常任理事会

H6. 10月22日(土) ダイヤモンドホテル 出席者28名

1. 会員の入退会について

正会員入会3件、正会員大会1件、国立病院・国立療養所の再編成に伴う会員異動1件、賛助会員入会1件、賛助会員大会2件を承認

(10月22日現在、正会員2,480会員、賛助会員436会員)

2. 自動化健診施設の指定について

下記施設の指定を承認

(承認順)

1. 兵庫県・六甲病院
2. 愛知県・財団健和会マリクリニック
3. 大阪府・きっこう会 多根クリニック
4. 埼玉県・大宮共立病院総合健診プログラム
5. 大阪府・オリエンタル労働衛生協会 大阪支部メディカルクリニック
6. 三重県・ヨハナ総合病院保健センター
7. 東京都・金内メディカルクリニック

3. 診療録管理通信教育認定試験受験大学の指定について

岡山県・川崎医療福祉大学を卒後認定試験受験校として指定を承認

4. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 医療保健審議会の委員推薦
依頼先：河北博文副会長 依頼元：厚生省保険局
2. 血液事業対策委員会・使用適正化専門委員会の委員推薦
依頼先 登内 真副会長 依頼元：厚生省薬務局
3. 患者給食研究委員会委員の推薦
依頼先：原田充善常任理事 依頼元：医療関連サービス振興会
4. 秋田県病院大会の後援依頼
依頼元：秋田県病院協会

5. 第二四半期一般会計及び特別会計の収支・監査報告について

収支報告、監査報告を承認

6. 各委員会の開催報告について

報告を了承

7. 医療保険審議会の開催報告について

10月5日の全員懇談会、総会、健康保険部会の動向報告を承認 河北博文副会長出席

8. 第44回日本病院学会の開催報告について

10月4日～5日に開催した報告を了承

9. 1994年国際病院連盟汎地域会議の開催報告について

10月6日～8日に開催した地域会議報告を了承

10. A H F 理事会の開催報告について

10月7日にA H F 理事会を開催し、次期会長に大韓病院協会の韓斗鎮会長の選出報告を了承

11. 第35回日本人間ドック学会の開催報告について

10月20日～21日の学会開催報告を了承

12. 大韓病院協会第10回病院管理総合学術大会への出席報告について

9月29日～30日の学術大会開催報告を了承

13. 自民党政務調査会・全国組織委員会に対する平成7年度税制改正要望について

消費税をはじめ19項目についての要望実施報告を了承 北村行彦常任理事出席

14. 日本顕彰会平成6年度社会貢献被表彰者の決定について

決定通知報告を了承

被表彰者：酒井隆子 淀川キリスト教病院病歴管理室顧問

元日本診療録管理士協会会長

15. 診療報酬改定について

全国公私病院連盟が実施した診療報酬改定と薬価基準改定の影響率調査の内容説明等を了承

16. 医療費、医薬品について

国民医療費と国民所得比の実態報告、諸外国と比べた社会保障給付費の実態報告を了承

17. 医療法改正について

厚生省の次期医療法改正に対する考え方、資料説明で了承

18. 医療制度、医療保険制度について

厚生省発表の医療施設動態調査の概要説明、病院機能評価の実施に際し役員各位から意見拝聴し、各団体の動向を静観しながら本会の動向を決めることで了承

19. 老人保健制度、老人保健施設について

老人保健施設の現状報告を了承

20. 病院経営について

資料を基に各病院の経営改善、対策の紹介等で了承

21. 病院税制について

自民党への平成7年度税制改正要望実施報告、全国病院団体連合の税制改正、予算要望実施の活動報告を了承

22. 医師、看護婦について

将来の医師数の展望、卒後臨床研修のあり方等の資料説明で了承

23. 平成7年度事業計画(案)について

原案を一読願ひ訂正、追加等がある場合、事務局への連絡として了承

24. 役員改選・選挙管理委員会の設置について

役員改選に伴う選挙事務の説明、選挙管理委員の選出を承認

選挙管理委員会委員

池谷 亘(前、蕨市立病院院長)

戸川 潔(茨城県立中央病院名誉院長)

田所 昌夫(河北総合病院院長)

三宅 浩之(病院幹部医会副会長)

麻田 ミウ子(麻田総合病院理事長)

井出 健(日本病院会事務局長)

25. 11月合同理事会の日程について

理事会終了後に10月の日病学会、IHF汎地域会議の慰労会を実施することで了承

11月26日(土) 東京都・東條会館

13:00~16:50 合同会議(全理事会)

17:00~18:30 日病学会及びIHF会議の慰労懇親会

26. 事務所の移転について

新事務所候補地の概要説明、役員各位による候補地の見学を実施後、質疑、意見があり移転を承認し11月期理事会に議案を上程することで了承

第8回常任理事会

H6. 11月26日(土) 東條会館

第3回理事会と合同開催(理事会参照)

第9回常任理事会

H6. 12月17日(土) 日本都市センター 出席者28名

1. 会員の入退会について

賛助会員入会2件を承認

(12月17日現在、正会員2,480会員、賛助会員440会員)

2. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 病院経営指標策定方法等検討委員会・作業部会委員の委嘱

依頼先：小沢武男会計経理研究会委員長 依頼元：厚生省健康政策局

2. 評価認定委員会委員の推薦

被推薦者：原田充善常任理事 依頼元：日本メディカル給食協会

3. 消火栓等操作評価委員会委員の推薦

被推薦者：織本正慶常任理事 依頼元：日本消防検定協会

4. 医療新時代フォーラム'95の後援 依頼元：日本医療企画

5. 第37回成人病予防週間の後援 依頼元：厚生省

3. 事務局職員のベースアップについて

給与改正法案が国会通過し職員のベースアップを承認

4. 平成7年度短期人間ドック並びに自動化健診の実施料金について

健保連との料金更改交渉結果報告、本年度と同様62,000円の標準料金として契約
自動化健診料金は各施設の申請料金で実施することを承認

5. 各委員会、研究研修会の開催報告について

報告を了承

6. 医療保険審議会の開催報告について

12月2日・9日の国保部会の報告を了承

7. 薬剤師養成に係る実務研修受入体制の整備等に関する調査検討委員会の開催報告について

12月6日に開催し薬剤師の業務、需給計画を今後検討する旨の報告を了承

河北博文副会長出席

8. 医療法人制度検討委員会の開催報告について

12月1日に最終委員会を開催し報告書をまとめ、報告書は次期医療法改正に絡み今後も
病院代表委員が定期的に協議することで了承

伊藤 研常任理事出席

9. 血液問題検討会の開催報告について

12月9日の初会合で製造物責任（PL）法の血液製剤への適用問題を論議し今後は専門
委員会で討議することで了承

登内 真副会長出席

10. 病院経営指標策定方法等検討委員会の開催報告について

12月1日の初会合で指標の策定を今後検討することで了承

梶原 優監事出席

11. 自民党医療基本問題調査会正副会長・顧問会議への出席報告について

11月30日に開催し消費税問題、診療報酬体系等の諸問題を指摘した旨の報告を了承

12. 大韓病院協会第14回医療保険研修団の来日について

12月5日～9日に8名の研修員が来日に国立医療・病院管理研究所でのレクチャー、都
内の病院見学実施報告を了承

13. 記者会見の開催報告について

12月9日に「病院をとりまく最近の諸問題について」の記者会見実施報告を了承

14. 事務所の移転に伴う定款改正(案)の書面審理の結果報告について
11月の理事会で事務所移転が承認され代議員及び会員へ、①事務所の移転、②事務所移転に伴う定款第2条の変更を書面審理した結果、いずれも賛成多数で規定を上回っている旨の報告を了承
15. 会員の団結について
看護体制等の変革が予定される中、医療法の人員標準問題等に対し本会として検討を図る必要からより一層会員の団結を図ることを了承
16. 診療報酬改定について
10月改定の実状、問題点等を協議し、来年に向けての改定に対する事項整理等を図ることです承
17. 医療費、医薬品について
最近の医療費の動向、製薬、卸等の経営状況報告を了承
18. 医療法改正について
特定機能病院、療養型病床群の現状報告等を了承
19. 医療制度、医療保険制度について
公立病院の政策医療の現状説明等を了承
20. 老人保健制度、老人保健施設について
公的介護保険の導入、医療と福祉の関連を論議し了承
21. 病院経営について
医療施設近代化施設整備事業の国庫補助導入を実施した民間病院の紹介、役員各位からの病院経営状況報告を了承
22. 病院税制について
診療報酬改定、病院経営の事項で税制問題も併せて協議されたため省略
23. 医師、看護婦について
役員各位から基準看護の取得、取得後の指導の現状報告、看護婦の地域的偏在の紹介を了承
24. エイズ、院内感染について
資料一読です承
25. 平成7年度事業計画(案)について
確定事項の説明を了承
26. 平成7年度予算(案)について
予算骨子の説明、原案を了承

27. 平成7年秋の叙勲候補者の推薦について

南 溢 理事の推薦を承認

第10回常任理事会

H7. 1月28日(土) 日病会議室 出席者33名

1. 会員の入退会について

正会員入会2件、正会員退会1件、賛助会員退会1件を承認

(1月28日現在、正会員1,281会員、賛助会員441会員)

2. 短期人間ドック実施病院の指定について

下記施設の指定を承認

1. 埼玉県・伊奈病院 (指定2床)
2. 兵庫県・神鋼加古川病院 (指定2床)
3. 広島県・井野口病院 (指定4床)
4. 山口県・防府胃腸病院 (指定2床)
5. 福岡県・福岡徳洲会病院 (指定2床)

3. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 医療審議会委員の推薦について

被推薦者：大道 學常任理事 依頼元：厚生省

2. 国立病院・療養所の政策医療、再編成等に関する懇談会委員の委嘱

委嘱者：諸橋芳夫会長 依頼元：厚生省

3. 病院職員教育システム検討委員会委員の推薦

被推薦者：中後 勝常任理事 依頼元：厚生省

4. ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム'95の協賛

依頼元：日本能率協会

4. 第3四半期一般会計及び特別会計の収支・監査報告について

一般、特別会計で大きな差異のあった収支事項を重点的に説明、監査報告を承認

5. 各委員会、研究研修会の開催報告について

開催報告を了承

6. 医療審議会の開催報告について

1月26日に開催され、厚生省健康政策局予算(案)の概要、特定機能病院及び療養型病床群の認可状況について協議検討、医療審議会に医療計画部会が設置された旨の報告を了承

大道 學常任理事出席

7. 医療保険審議会の開催報告について

1月19日の総会報告として「国民健康保険制度の改正案」「船員保険制度（災害補償部門）の改正案」「船員保険法の規定による失業保険金の日額の改正案」の諮問に関する検討が実施された旨の概要報告を了承
河北博文副会長出席

8. 医薬品流通近代化協議会の開催報告について

1月27日の会合が中止となったが、当会としては今後も薬価差益に依存していくのか、診療報酬に薬価差益に見合う技術料を転嫁させていくのか基本的な考え方をまとめておく必要がある旨の提案があり、今後検討をすることで了承

9. 医療法人制度に関する懇談会の開催報告について

昨年12月1日に医療法人化の促進を図る観点から医療法人の業務範囲の拡大、定款における出資額限度方式の採用等を検討し報告書を作成、この報告書の中で法改正に関わる事項については、今後医療審議会で検討される旨の報告を了承

10. 病院経営指標策定方法等検討委員会の開催報告について

1月18日に委員会が開催され、委員会作業部会の報告書の紹介、病院経営指標の策定についての(案)が提出された旨の報告を了承
梶原 優監事出席

11. 全国病院団体連合・国民医療を守る全国病院大会の開催について

全病団連主催による「国民医療を守る全国病院大会」を2月16日(木)に東條会館で開催することを了承

12. 代議員の選出、理事立候補の状況について

選挙告示後の現状報告を了承

13. 診療報酬改定について

14. 医療費、医薬品について

平成6年8月現在の医療費総額の伸び率の現状説明、医薬品問題として日本製薬工業協会会長の発言を話題に取り上げ真意の照会報告、診療報酬改定に対し体系の中での薬価制度のあり方等を検討することで了承

15. 医療法改正について

療養型病床群の現状説明、介護保険問題との関連から今後併せて検討することで了承

16. 医療制度、医療保険制度について

平成7年度厚生省予算の概要説明、病院機能評価の実施に対し役員各位から意見拝聴、2月期理事会に議案上程し慎重審議することで了承

17. 老人保健制度、老人保健施設について

医療と保健福祉の関連、老人医療費の拠出金、介護費用等の重要視した問題点を議論し
了承

18. 病院経営について

全国公私病院連盟が発表した平成6年現在の病院運営分析調査結果の紹介、役員各位への病院経営の取り組み状況の意見拝聴を了承

19. 病院税制について

平成7年度の厚生省関係税制改正の概要紹介を了承

20. 医師、看護婦について

厚生省の医療関係者審議会臨床研修部会がまとめた卒後臨床研修の意見書の概要説明、愛知県病院協会が実施した看護婦不足の実態調査報告を了承

21. エイズ、院内感染について

資料一読を了承

22. 平成7年度事業計画(案)について

原案中第45回日本病院学会(予定:神戸市)の開催を2月期理事会迄に再確認し上程することです承

23. 平成7年度予(案)について

前回承認された原案に対しその後変更を生じた事項を説明、病院防災対策の必要を重要視し、予算へ加味し理事会へ訂正提出することを了承

24. 兵庫県南部地震について

会員病院へのお見舞い金の支出等を了承

25. 医療機器保守点検について

医療関連サービス振興会が実施するマル適マークに伴う財源問題等の現状報告を了承

第11回常任理事会

H7. 2月25日(土) ダイヤモンドホテル

第4回理事会と合同開催(理事会参照)

第12回常任理事会

H7. 3月25日(土) 日病会議室 出席者35名

1. 会員の入退会について

正会員入会1件、正会員退会2件、賛助会員入会3件、賛助会員退会10件を承認
(3月25日現在、正会員2,480会員、賛助会員434会員)

2. 厚生省及び各団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 財団法人医療研修推進財団(仮称)の設立発起人就任

依頼元：宇宙通信㈱

2. 第44回日本理学療法学会の後援

依頼元：全国病院理学療法協会

3. 福祉機器展「BARRIER FREE 95」の後援

依頼元：大阪府社会福祉協議会

3. 各委員会、研究研修会の開催報告について

開催報告を了承

4. 医療審議会医療施設機能部会の開催報告について

3月15日に開催し、特定機能病院の承認状況報告を了承 諸橋芳夫会長出席

5. 国立病院・療養所の政策医療、再編成等に関する懇談会の開催報告について

3月14日に開催し、再編成の規程、再編成の推進方策等の検討概要報告を了承
諸橋芳夫会長出席

6. 医療保険審議会の開催報告について

3月23日の全員懇談会で、高齢者介護問題、医療保険カードの実験等の検討報告を了承
河北博文副会長出席

7. 医療統計のあり方に関する検討会の開催報告について

3月13日開催報告については資料一読で了承

8. 薬剤師養成に係る実務研修受入れ体制の整備等に関する調査検討委員会の開催報告について

3月22日に開催し、薬剤師の教育問題として薬学生の実習受入体制等の検討報告を了承
下記の協議事項9～14の事項については、本日の「代議員会・総会に於ける会長挨拶の要旨」の中で解説しているため要旨説明で省略

9. 診療報酬について

10. 医療費、医薬品について

11. 医療法改正について

12. 医療制度、医療保険制度について

13. 老人保健制度、老人保健施設について

14. 病院経営について

15. 医師、看護婦について

千葉県下の国公立看護婦学校卒業生の現状報告を了承

下記事項は時間の関係上資料一読で了承

16. エイズ、院内感染について

17. 3月25日の議事日程について

第3 委員会・部会

〔委員会〕

1. 医療制度委員会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 51名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 医療言語聴覚士（仮称）について
 - 2) '94国際モダンホスピタルショウ日病コーナーについて
 - 3) QOLと医療制度
 - 4) 今後の活動について
 - 5) ホスピタルショウ日病コーナーにおけるアンケートについて
 - 6) 社会資本と医療制度
 - 7) 「インフォームド・コンセント」アンケート集計について
 - 8) 日本癌治療学会「臨床試験実施ガイドライン」（案）について
 - 9) 病院機能評価について
 - 10) 社会保障をめぐる問題 —看護と介護—

4. 総 評

今年度は「社会保障と医療制度」を継続的に討議。また、ホスピタルショウの日病コーナーにおいて当委員会が昨年度作成した「インフォームド・コンセント」のパネルを掲示、アンケートを実施した。回数こそ例年に比べ少ないが、充実した内容となった。

「インフォームド・コンセント」アンケート集計結果

実施日：1994年7月7日(休)～9日(土)

実施場所：池袋サンシャインシティ文化会館2階
国際モダンホスピタルショウ日病コーナー

回答数：298件

1. あなたの性別は？

- | | |
|-------|--------------|
| a. 男性 | 116件 (38.9%) |
| b. 女性 | 179件 (60.1%) |
| 未記入 | 3件 (1.0%) |

2. あなたの年齢は？

a. 20歳未満	93件 (31.2%)
b. 20代	61件 (20.5%)
c. 30代	42件 (14.1%)
d. 40代	47件 (15.8%)
e. 50代	30件 (10.1%)
f. 60歳以上	20件 (6.7%)
未記入	5件 (1.7%)

3. あなたの勤務地（住所）は？

a. 北海道	1件 (0.3%)
b. 東北地区	5件 (1.7%)
c. 関東地区（東京都以外）	149件 (50.0%)
d. 東京都内	110件 (36.9%)
e. 中部地区	17件 (5.7%)
f. 近畿地区	5件 (1.7%)
g. 中国・四国地区	2件 (0.7%)
h. 九州・沖縄地区	2件 (0.7%)
i. その他	2件 (0.7%)
未記入	5件 (1.7%)

4. あなたの勤務先は？

a. 病院関係者（医療従事者）	115件 (38.6%)
b. 保健・福祉施設	3件 (1.0%)
c. ディーラー	17件 (5.7%)
d. 官公庁・団体職員・教育機関	18件 (6.0%)
e. 一般・学生	123件 (41.3%)
f. その他	16件 (5.4%)
未記入	6件 (2.0%)

5. 上記4で a. 病院関係者（医療従事者）に印を付けた方は以下にご記入ください

①あなたの勤務している病院・団体は？

a. 国立・公立（自治体）病院	36件 (12.1%)
-----------------	-------------

b. その他公的病院	4件 (1.3%)
c. 医療法人病院	24件 (8.1%)
d. 学校法人・会社病院	26件 (8.7%)
e. その他法人病院	14件 (4.7%)
f. 個人病院	10件 (3.4%)
g. 一般診療所	5件 (1.7%)
h. 歯科診療所	0件 (0.0%)
i. その他	16件 (5.4%)
未記入(病院関係者、医療従事者 以外)	163件 (54.7%)

②あなたの勤務先での所属・役職は？

a. 病院管理部門(理事長・院長・副院長・事務長・部長 他)	19件 (6.4%)
b. 診療部門(医長・医師 他)	7件 (2.3%)
c. 診療技術部門(薬剤・検査・放射線・リハビリ・給食 他)	30件 (10.1%)
d. 看護部門(病棟・手術・外来・中材・教育 他)	41件 (13.8%)
e. 事務部門(医事・庶務人事・用度施設・会計経理・ハウスキーピング 他)	21件 (7.0%)
f. その他	23件 (7.7%)
未記入(病院関係者、医療従事者 以外)	157件 (52.7%)

6. 「インフォームド・コンセント」という言葉を知っていましたか？

a. 知っていた	221件 (74.2%)
b. 知らなかった	65件 (21.8%)
未記入	12件 (4.0%)

7. いわゆる「インフォームド・コンセント」の意味をご存知でしたか？

a. 知っていた	179件 (60.1%)
b. 知らなかった	104件 (34.9%)
未記入	15件 (5.0%)

8. 日本病院会が「インフォームド・コンセント」について指針(パネル参照)を作っていたことを知っていましたか？

a. 知っていた	73件 (24.5%)
b. 知らなかった	209件 (70.1%)

未記入 16件 (5.4%)

9. 日本病院会が作った「インフォームド・コンセント」の指針について

①項目について

a. 妥当である 194件 (65.1%)
b. 妥当でない (具体的に項目番号をお付けください。) 16件 (5.4%)
 ①. 6件 ②. 6件 ③. 7件 ④. 3件 ⑤. 6件
c. わからない 64件 (21.5%)
未記入 24件 (8.1%)

②病院や施設でこの指針が活用 (掲示・印刷物等) されることの必要性を感じますか ?

a. 活用が必要 196件 (65.8%)
b. 修正をおこなったうえで活用が必要 46件 (15.4%)
c. すでに十分に行われているため活用する必要はない 3件 (1.0%)
d. 活用する必要はない 1件 (0.3%)
e. わからない 31件 (10.4%)
未記入 21件 (7.0%)

■ご意見をお聞かせください。

- ・インフォームド・コンセントのリーフ等があればよいと思います。(官公庁 30代 男性)
- ・ぜひカルテの公開をすべきである。(個人病院事務部門 40代 男性)
- ・とても解りやすいパネルでした。(30代 男性) 他 3名
- ・インフォームド・コンセントの必要性は高い。(一般 20代 女性)
- ・医師全員に徹底してほしい。(看護部門 40代 女性)
- ・資料を作成してくれたらありがたい。(一般 20代 女性)
- ・②について単に説明と納得だけでなく、要求があった場合などは診療経過の公開 (本人への) を含めてもう少し踏み込む必要があるのでは? その患者さんのデータ等こそ、その患者さんの財産なのだから。(病院管理者 40代 男性)
- ・たいへんよい企画と存じます。現場の学生にも役立ったようです。(教育機関 40代 女性)
- ・家庭医をもって、かかりつけ薬局を作って、と患者となる側で選んでゆかなければならなくなってきましたが、十分に信頼のおける家庭医でありまたその手に余る時受け入れて頂ける先のある事柄なののでしょうか? 現在の医療制度がどんどん良いようへ患者となる側にプラスとなるような方向へ変わってほしいと思います。(ディーラー 40代 女性)

- 一般の人々、特に老人に対して普及していない。(診療技術部門 40代 女性)
- Dr. とPt. との数の問題で、Pt. 自分の思うように聞けていないと感じることが多い。(看護部門 50代 女性)
- インフォームド・コンセントは医療にとってとても大切である。資料などがたくさんあって読むとよくわかるが、人により説明もしてほしい。(学生 20代未満 女性) 以下2名
- このような情報を知ることができると患者も病院に近付ききっかけになってよいと思う。また本当に理解(説明が)されているのかどうか知る必要性も考えなければならないと思う。(学生 20代未満 女性)
- 病院側に理解を求めたい。(一般 50代 男性)
- 医療側は自分が患者となったことを考え、気持ちを理解して接してほしい。(学生 20代未満 女性)
- 患者も含めて話し合わなければいいものは作れない。(一般 20代 女性)
- 来院される外国の方(特に欧米人)は自分の意見をもっており、はっきりと希望を言うことができるが、日本人でそれができる人は滅多にいない。いたとしても、医師、看護婦に時間的・精神的余裕の欠如があり、患者の希望に十分に答えることは不可能に思われるので、③の項目は実施以前の問題解決が必要だと思う。(看護部門 20代 女性)
- どの病院でもインフォームド・コンセントが実施されるとよいと思う。今の現状は患者のために本当に有効な治療・看護が行われているとはとても思えない。(看護部門 20代 女性) 他1名
- 患者に対する納得と同意もわかるが、病院職員に対する権利も考慮すべき。(事務部門 30代 男性)
- 自分の希望する医療を受ける権利が患者側にもあると思うし、そうなるべきだ。(40代 女性)
- 項目②について特に必要だと思います。難しい言葉でなくかみくだいて一般の人にもわかりやすく説明する能力が医師に求められると思われます。(一般 20代 女性)
- どこまで守られているのかが問題。(診療技術部門 20代 女性)
- 日本ではまだインフォームド・コンセントが定着していないのもっとこのような機会を増やしてほしいです。(学生 20歳未満 女性)
- 患者の権利を認めているだけでインフォームド・コンセントを実現するための現実的なプランに欠けている。(ディーラー 30代 男性)
- あえて掲示する必要はないと思う。(看護部門 20代 女性)
- インフォームド・コンセントなしに医療行為を行って問題になったことを聞いたことがあり、このことに関心を抱くようになりました。医療に携わる人はこの言葉を知っていても一般の人にとってはまだまだ普及が足りないと思います。(学生 20歳未満 女性)
- インフォームド・コンセントという言葉すら知らなかった。(一般 20代 女性) 他1名

- 患者が医者まかせでなく自分の病気をきちんと知り治療法を選ぶということをもっと行うべきだと思います。(看護部門 20代 女性)
- すでに行われているのかもしれないけれど活用したほうが患者が安心して治療を受けられるような気がする。(学生 20歳未満 女性)
- コンセントのためのインフォームですか? それともコンセントできるための十分なインフォームですか?(診療技術部門 30代 男性)
- 日本は確かに医療技術は進歩しているが、なぜもっと各地域に均等に進歩が広がらないのだろうか?(学生 20歳未満 女性)
- たいへん参考になった。(学生 20歳未満 女性) 他3名
- 看護学校の教科書にもっとインフォームド・コンセントのことで記載してほしい。(学生 20歳未満 女性)
- 他の事業(商売)ならとっくに行われている当たり前のこと。病院界だけが声高に叫ばなければならないのか。それも容易に定着しないのか。(病院管理者 50代 男性)
- 癌告知の問題などあり、すべての患者にインフォームド・コンセント適応できなくてとても難しいと思う、実際医療従事者もきちんとしていない。(一般 女性)
- 項目が病院サイドの言い回しになっている気がする。患者の同意のサイドの文面に検討を。(ディーラー 60歳以上 男性)
- ②については患者と家族(宗教、人間関係、経済問題、等)との関わり方もいろいろあるので難しいと感じる場面もあると思います。(看護部門 30代 女性)
- 自分の身体についてされるがままの状態より医師の説明を受け、何をされているかわかるほうが安心できる。(一般 20代 男性)

高齢社会に臨む基本姿勢

～いわゆる「公的介護保険」をめぐる～

報 告 書

平成7年3月

社団法人 日本病院会 医療制度委員会

1. 基本的な考え

これまで医療と福祉の連携の必要が指摘されてきたが、高齢社会において必要なのは、「連携」ではなく、地域において両者を「統合」したシステムである。したがって、これまでの体系を抜本的に見直し、ケアの提供が挿入的に必要か、あるいは継続的に必要かによって「短期ケア」と「長期ケア」に分けるのが妥当と考える。

「短期ケア」とは、手術や集中治療室に代表されるような医学的治療が主体となるケアである。一方、「長期ケア」とは高齢者を中心として、継続的なケアが必要な人々に対して、かかりつけ医等による医学的管理は必要ではあるが、看護婦、薬剤師、PT、OT、ソーシャルワーカー、ヘルパー等によるチームが中心になって組織的に当たるケアである。

以上のように、「短期ケア」と「長期ケア」に基本的に分け、それぞれに応じた人材の養成、および費用補償の方法を検討するべきである。但し、「長期ケア」の対象者の場合でも、悪性腫瘍や外傷等が発生した際には、「短期ケア」に円滑に移行できる体制を常に用意する必要がある。また、いずれにおいてもケアの給付に関する判断は、ケアを受ける対象者の意志も十分考慮した上で、専門的並びに地域的合理性に基づいて行われるべきである。

2. 人材の養成

「短期ケア」と「長期ケア」のそれぞれに適した人材の養成が必要である。これまで、医療においては「短期ケア」を中心に医師、看護婦などの人材を養成してきたが、「長期ケア」に対しては十分考慮されてこなかった。一方、福祉においては従来から「長期ケア」に照準をおいてきたが、養成体系は必ずしも十分に整備されていなかった。

以上のような背景で社会福祉の分離で「介護福祉士」の資格が創設されたが、「看護」とは独立な「介護」という職能分野を厳密に分離して規定することは事実上不可能である。確かに、介護福祉士のように現場における経験だけで国家試験の受験資格を与える制度は画期的である。しかしながら、一方において、そのための長期間にわたる養成校での教育体系を整備することは、「医療」と「福祉」を制度的に分断することにつながり、両者の統合という目的に真っ向から対立する。

諸外国においても、「長期ケア」に専任する従事者を養成し、認定資格を与える制度は確かに存在するが、それらはいずれも数カ月の短期の養成課程である。したがって、日本における「介護福祉士」の資格も、その方向で再検討する必要があるだろう。その際、認定を受けた者に対しては、順次高度の資格を得るための道を用意することが、動機付けを高めるためにも必要である。なお、専門職者に対しては、質の高い「長期ケア」が提供できるよう、医学教育を始めとする教育体系の抜本的な見直しが必要である。

3. 費用補償

日本の医療保険において、これまで「短期ケア」と「長期ケア」の区別が必ずしも明らかにされておらず、そのことが病院の理念や目的を不明確にしてきた。そこで、高齢社会に対応して、「短期ケア」と「長期ケア」のそれぞれに対応した費用補償の方式を構築する必要がある。このように分離すれば、医療施設の機能は明確になるばかりでなく、国民のニーズにも適切に対応することになる。

「短期ケア」では、生命に直結する医学的治療の占める割合が高いため、国民に対して普遍平等の原則を堅持して応能負担で、公的保障の範囲でサービスを提供する必要がある。したがって、特定療養費制度を現状の室料差額等の範囲より拡大することは望ましくないといえよう。一方、「長期ケア」では生活の占める部分が大きいため、むしろ各個人の要求に応じ、応益負担でサービスを提供し、公的保障で不十分な部分については自費で賄うべきであろう。各医療機関がいずれの費用補償を選択するかは、それぞれの理念と機能に応じて自由に決められるようにすべきである。

財源的には、「長期ケア」に対する公的保障部分に関して、従来の国や地方自治体による社会福祉の事業費を加えた別建ての新たな制度を創設する必要がある。一方、「短期ケア」に対しては、これまでの医療保険によって費用を補償し、その中で「長期ケア」に移行することにより浮いた財源を、医療費抑制下で資源の投入が枯渇していた「短期ケア」の充足に当てるのが適当といえよう。

2. 統計調査部会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 57名(延べ人数)
3. 協議項目
 - 1) 診療報酬改定影響率調査について
 - 2) 公私病連との病院運営実態調査について
 - 3) 医療統計のあり方に関する検討会中間報告メモのパイロットスタディ(案)実施に伴う問題点について
 - 4) 定点観測調査について
 - 5) 診療報酬改定影響率調査の報告書作成について
4. 総 評

本年度は、例年どおり「平成6年度病院運営実態分析調査」を実施し「病院概況調査報告書」としてまとめた。

また、診療報酬の改定が2度にわたって実施されたため、12月に影響率調査を実施し、3月下旬～4月上旬にかけて、報告書を作成し会員および関係方面へ配布を予定している。

3. 医療事故対策部会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 12名(延べ人員)
3. 協議項目 1) 夏期開催のセミナーについて
4. 総 評

部会の名称について「医療事故対策」と限定することについて疑問が出されたが、改選時期でもあることから、次回の部会への申し送り事項とした。

4. 防災対策部会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 25名
3. 協議項目
 - 1) スプリンクラーの設置義務に対する部会の対応について
 - 2) 規制緩和に対する意見・要望について
 - 3) 阪神大震災について
 - 4) 消防庁等各団体からの委員推薦依頼について
 - 5) 来年度防災セミナーの開催について
4. 総 評

平成7年1月17日未明に発生した阪神大震災には、被害の大きさに驚くだけでなく、平和が

長く続きすぎたのだろうか、危機管理に対する全くの欠如にも驚いた。

今後の防災対策部会のあり方にも、大きく影響せざるを得ない大災害であった。

また、スプリンクラーの設置については、東京都が無利子融資を実施すること、ようやく大きな壁が動いた感である。

5. 労務・福利厚生・用度部会

本年度は教育委員会傘下の研究会の活動に委ね、委員会としての開催はなかった。

6. 給食委員会

1. 開催回数 2回（他委員会との合同1回）

2. 出席者数 9名（のべ人数）

3. 協議項目

1) 6/25付、日病社会保険・老人保健委員会（西村昭男委員長）による社会保険診療報酬の改定要望書の給食部門について

2) 定率負担から患者給食が定額負担の食事に変更となるにあたり日病として作成するポスターについて（次頁）

4. 総 評

10月1日の健康保険法の改正に伴い、食事のあり方や位置づけがかわり、委員会でも時代にそった見解をだした。今後の動向を見守りたい。

お・知・ら・せ

平成6年10月1日から入院時の食事料金の一部負担の方法が定率から定額にかわります。

現行

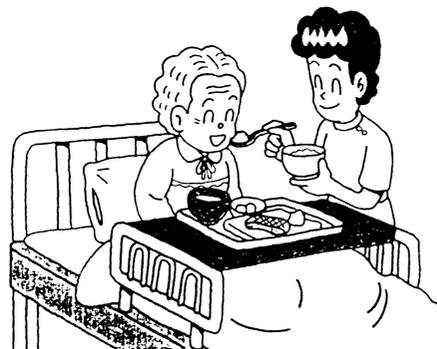
診療等 (療養の給付)	一部負担 (入院時) 健保本人=1割 健保家族=2割 国保=3割 老人=700円/日
給食	

*入院時の食事に要する費用は、現在、基準給食で1,900円ですから、この場合の定率一部負担は、健保本人で1日190円、国保で570円です。

改正後

診療等 (療養の給付)	一部負担 同左
食事の提供 (入院時食事療養費)	定額負担 600円/日 450円/日 300円/日 200円/日 (平成6年10月～平成8年9月)

*食事の費用の一部負担は、どの医療保険制度でも同じ定額負担になります。
*医療機関は、患者さんに説明し、同意を得た場合には標準的な費用よりも高い額の選択メニューを提供することもできます。
その場合、入院時食事療養費の額は同じで、越える部分は患者さん負担となります。
それ以外の場合には、上記の負担で食事の提供が受けられます。
*生活保護や公費負担医療、労働災害補償の医療については、従来どおりです。



従来、入院時の食事に要する費用のお支払は対象者に応じて、それぞれ総額の10%、20%、30%と、きまった率でご負担いただいていたのですが、先般の医療保険制度改正により10月からは、新たな区分によりそれぞれ定額的に1日につき600円、450円、300円、200円(平成8年10月から800円となります)のご負担をいただくことになりました。こうしてご負担いただいた料金に相当する保険料は、かねてから患者さん、ご家族の方々の重い経済負担を伴うと改善を求められていた付添看護の解消の財源に主にあてられるほか、在宅医療の充実などにも使用されます。したがって通常の食事料金の総額は従来とかわりません。

また患者さんのご希望により、通常の食事以外に特別なメニューを

追加した場合には、その分の費用をお支払いいただくこととなります。私たちは、今回の新しい仕組みの中で、医療の一環である治療食を、少しでも皆様に喜んでいただける食事として提供できるよう最善の努力をしております。

今回の法律改正に伴う食事料金のご負担について、何卒、ご了承くださいませようお願い致します。なお、ご不明の点につきましては会計窓口までお問い合わせください。

7. 勤務医委員会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 9名(延べ人数)
3. 協議項目 1) 今後のセミナーの計画について
2) 病院幹部医会の今後について
4. 総 評

7月国際モダンホスピタルショー開催時に実施するセミナーの企画立案を行った。また、病院幹部医会については、今後も拡充をはかるため、入会促進キャンペーンを実施し、約20名の新規入会者を見た。

8. 教育委員会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 40名
3. 協議項目 1) 10月28日(金) ダイヤモンドホテル
①平成7年度事業計画(案)について
2) 3月14日(火) ダイヤモンドホテル
①平成6年度研究会(セミナー)開催報告について
②平成7年度研究会(セミナー)開催計画について
4. 総 評

来年度の研究会活動について、開催回数は平成5年度と同じとし、全国研究会の開催地もそれぞれの研究会で検討し、実施することで了承した。また、来期(平成7～9年度)の研究会委員については、本年4月新執行部が決まった後、依頼することで合意した。

9. 通信教育委員会

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 8名
3. 協議項目 第1回 平成6年9月22日(木)午前10時～12時 日本病院会 会議室

- 1) 第41回診療録管理課程合否判定について、

平成6年8月21日(日)、東京、大阪、福岡の3会場で実施した期末試験について次のとおり合否判定した。

	受験者	合格者	不合格者	合格率
認定試験	68	48	20	71%
進級試験	75	72	3	96%

2) 第41回診療録管理士認定証授与式について

平成6年10月22日(土)17時15分～東京：ダイヤモンドホテルにて行う。認定者累計2,044名

3) 診療録管理課程認定試験指定大学視察報告について

診療録管理課程認定試験指定校申請のあった川崎医療福祉大学について視察を行った。分類法及び分類法実習の教育内容に不十分な点が一部見受けられるが、教育担当の中島行正教授がその改善を約束しているとの調査報告がなされた。検討の結果、認定試験指定大学に値すると認め該当カリキュラム終了時に認定試験を行うこととした。

4) 診療録管理課程2年次編入指定校申請について

診療録管理課程2年次編入指定校申請のあった日本医歯薬専門学校について検討を行った結果、講師の担当科目に検討事項が見受けられること等から2年次編入校指定を保留することとした。

5) 診療録管理課程病院実習小委員会設置について

木村副委員長から病院実習の詳細なガイドラインが必要となったので検討小委員会を設置したいとの提案がなされ木村副委員長を委員長に関係講師7名をもって病院実習検討小委員会を設置することとした。

6) 事務長養成課程同窓会設立について

第15回生を中心に同窓会設立願いが提出された事項について報告があった。通信教育委員会として研修会等の際、講師派遣等について協力することとした。

第2回 平成7年1月27日(金)

文書審議

阪神大震災（兵庫県南部地震）に伴う診療録管理課程スクーリングについて

ア. 平成7年2月16日(木)～22日(木)の診療録管理課程スクーリングは東京・大阪・福岡地区において予定どおり実施する。

イ. 地震被災者については、延長受講料を1年間免除する。

ウ. 地震被災者については、受講期間等について便宜を図るので事務局に申し出るよう指導する。

第3回 平成7年3月16日(木)午後1時～3時 日本病院会会議室

1) 第42回診療録管理課程期末試験合否判定について

平成7年2月19日(日)東京、大阪、福岡の3会場で実施した期末試験について次のとおり合否判定した。

	受験者	合格者	不合格者	合格率
認定試験	98名	98名	0名	100%
進級試験	64名	62名	2名	97%

2) 第42回診療録管理士認定証授与式について

平成7年4月22日(土)17時10分～東京：ダイヤモンドホテルにて行う。認定者累計2,142名

3) 事務長養成課程期末試験合否判定について

平成7年1月8日、15日 東京で実施した期末試験について次のとおり合否判定した。

なお、期末試験の合否判定についてはカリキュラムの改正にともない、第16回生までは、学年制として取扱い総合的に合否判定を行った。第17回生は単位制とし課目毎に評価し単位を認定した。

○第16回生

	受験者	合格者	不合格者	合格率
2年前期	30名	30名	0名	100%

※学年生として総合的に合否判定した。

○第17回生

区分	病院 管理	医療 法律	医療 紛争	診療 報酬	社会 保障	病院 機能
受験者	18	18	16	18	15	9
合格者	18	18	16	18	15	9
単位認定率	100%					

※第17回生は単位制とし課目毎に合否判定し単位を認定した。

〔診療録管理課程小委員会〕

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 21名
3. 協議事項

- 1) 第1回平成6年9月22日(木)午後1時～3時30分

- ア. 診療録管理課程病院実習検討小委員会設置について
- イ. 診療録管理課程病院実習について
- 2) 第2回平成6年10月22日(土)午後2時～4時30分
 - ア. 診療録管理課程病院実習について
 - イ. 病院実習実施上の問題点について
- 3) 第3回平成6年12月15日(土)午後1時～5時
 - ア. 診療録管理課程について
 - イ. 診療録管理課程病院実習について
 - ウ. 2年次教科書の整合性について

以上診療録管理小委員会で検討し、病院実習実施要綱（仮称）を作成することとした。

10. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 4回（常任委員会3回、人間ドック実施認定委員会1回）
2. 出席者数 66名（延べ出席者数）
3. 協議項目
 - 1) 短期人間ドックについて
 - ①健保連との打ち合わせ会報告について
 - ②検査項目の見直しについて
 - 2) 自動化健診について
 - 3) 福利厚生センターとの人間ドック等予防健診事業実施提携について
 - 4) 臨床予防医学委員会報告（平成6年版）について
 - 5) 人間ドック実施認定委員会開催運営について
 - 6) 第35回日本人間ドック学会について
 - 7) 「人間ドック・健康診断におけるC型肝炎検査導入及び運用のガイドライン」の配布について
 - 8) 「健康医学」発行について
 - 9) 日本人間ドック学会新評議員の異動について
 - 10) 日本人間ドック学会年会費（平成7年度）の値上げについて
 - 11) 日本人間ドック学会会費未納者に対する事務処理について
 - 12) 健保連との料金交渉について
 - 13) 「短期人間ドック実施指定病院調査」の集計結果について
 - 14) 「人間ドック質問表」の見直しについて
 - 15) 「人間ドック並びに総合（自動化）健診実施状況報告、症例別統計調査」の見直しにつ

いて

- 16) 「健康医学」の英文名について
- 17) 「短期人間ドック・総合（自動化）健診検査項目見直しに関する調査」結果について
- 18) 「短期人間ドックに関する契約書」、「短期人間ドック実施に関する協定書」について
- 19) 人間ドックのPRについて
- 20) 「人間ドック実施指定病院評価判定基準（案）」作成について
- 21) 自動化健診認定委員会 地区世話人選定について
- 22) やさしい保健シリーズの追加発刊の名称について
- 23) 日本人間ドック学会 新評議員の委嘱について

4. 総 評

本年度の当委員会活動は、予防医学に対する会員各位の関心の高まりとともに、検討する事項も山積みとなり非常に多忙をきわめた1年であった。

日病と健保連で契約のうえ実施している短期人間ドック（1泊2日）については、日病・健保連双方からなる委員が構成メンバーの特別委員会を設置して、前年度からの懸案事項である検査項目の見直し、実施料金算定基準の作成等について協議・交渉を行った。

検査項目の見直しについては、男女別料金の設定が可能なように検査項目を整理するとともに、時代の要請を受けてHCV抗体検査を実施項目とすることで、日病・健保連双方が改訂を合意した。

しかしながら、実施料金については、短期人間ドック事業に対する日病・健保連双方の見解の相違が、料金算定基準の隔たりに反映され、双方歩み寄りができなかった。

結局、平成7年度については、平成6年度と同様の検査項目で、実施料金は「62,000円を標準料金とする」という契約で妥結した。

健保連と短期人間ドックについて検討をすすめるなかで、健保連側から一定期間ごとに既指定病院との契約の見直しをはかり、質の良い病院と今後とも継続して再契約する方式にあらためたい旨の提案がなされた。当委員会及び役員会での協議を経て、「短期人間ドックに関する契約書」第4条、「短期人間ドック実施に関する協定書」第9条を改訂して、3年ごとに日病と健保連双方で指定の見直しを諮る場を設け、再契約することとなり、周知をはかることになった。

今回、「契約書」「協定書」を改訂したことにより、当委員会として再指定の内規を整備するとともに、新たな普遍的、合理的判定基準に基づいた人間ドック実施指定病院評価判定基準を早急に作成することになり、面接・指導、精度管理、フォローアップ等細部事項の取り扱い方を具体的に詰めていくことになった。

医療機関だけではなく、ドック受診者に対する啓蒙活動の一環として、「やさしい保健シリー

ズ」の第1回シリーズ（9冊）が好評のうち発刊して久しいが、今年度は第2回シリーズ（全6冊）の刊行を始め、そのうち「栄養・運動のはなし」「痛風のはなし」計2冊を発刊し、来年度以降も随時発刊する予定である。本シリーズが健診部門の医師をはじめとした医療従事者及び健診受診者にも簡易な実務書として定着するよう、今後なお一層努めたい。

11. 社会保険・老人保健委員会

1. 開催回数 6回
2. 出席者数 43名
3. 協議項目
 - 1) 診療報酬改定要望について
 - 2) 厚生省保険局医療課との意見交換について
 - 3) 診療報酬改定説明会の開催について

4. 総 評

平成6年度は4月と10月、2回に分けて診療報酬が改定された。診療報酬改定要望を提出する為、医療経済（税制）委員会と合同で、2回開催し、また、厚生省保険局医療課と2回意見交換を行った。

今後も継続して意見交換を行い、次回の診療報酬改定に向け、議論していくことになった。

12. 医療経済（税制）委員会

1. 開催回数 7回
2. 出席者数 59名
3. 協議項目
 - 1) 消費税について
 - 2) 固定資産税について
 - 3) 診療報酬改定について

4. 総 評

消費税については、今後の病院経営の根幹にかかわる問題として捉え、日本私立医科大学協会とも共同歩調をとり、要望書を各省大臣、国会議員、日本医師会等へ提出した。また、消費税の専門委員会も開催し、ニュース等にも意見を掲載した。

診療報酬改定については、社会保険・老人保健委員会と合同会議を開催し、改定要望を作成した。

13. 国際委員会

1. 開催回数 9回
2. 出席人数 33名（のべ人数）

3. 協議項目

- 1) 中国医療視察ツアー（高橋勝三、5月3日出発）申込者21名で無事開催
- 2) カナダ医療視察旅行（高橋淑郎、6月25日出発）申込者18名で開催を予定している
- 3) 国際協力事業団（ジャイカ）によるベトナム現地での医療・技術調査に同行した高橋淑郎委員の報告
- 4) 講演「先進諸国の医師数に関する政策－米独英3ヶ国における現状とその方向」紀伊國献三副委員長
- 5) アジア病院連盟（AHF）の組織拡大について
- 6) 講演「フランスの医療保険について」藤井良治千葉大学教授
- 7) アーネ・ビョンベルグ北スウェーデン総合大学病院事務長（10/11, 12, 13の3日間）が都内の病院見学
- 8) 国際病院連盟（IHF）汎地域会議時のホスピタルビジットへの協力について
- 9) 1995年5月23日から始まるブダペストで開催される第30回国際病院学会参加を含むツアー企画について
- 10) 第14次大韓病院協会医療保険研修（12月5日から10日の7日間）結果報告
日病での医事研究会との研修、日立医療・病院管理研究所での研修会など
- 11) 7年度秋、大韓民国の病院視察をする計画
- 12) 今後の委員会のあり方と委員構成について

4. 総 評

今後も、更なる内容の充実をしていきたい。

14. 組織委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 23名（延べ人数）
3. 協議項目
 - (1)新入退会員の状況報告
 - (2)会員病院の職員数調査について
 - (3)「入会のすすめ」制作について
 - (4)退会慰留と事後処理について
 - (5)中小病院の勧誘について
 - (6)今後の組織拡大について

4. 総 評

組織強化について協議した。今年も第3回目の会員病院による職員数調査を行い、約5割の回答をいただいた。退会慰留については、各地域の役員の先生方に慰留の依頼を行って退会を

撤回する病院もあり、成果をあげている。また、今年度は、国立大学病院の入会もあり、全国で病院が減っている中、会員数は年々増えている。新年度も日病会員の増強のため、委員会活動を強化していく方針である。

15. 学術委員会

1. 開催回数 10回
2. 出席者数 延べ93名、1回平均9名
3. 協議項目
 - 1) 日本病院会雑誌 '94 6月号～ '95 5月号の編集について
 - 2) 日本病院会雑誌 '94 7月号～ '95 6月号の企画について
 - 3) 英文誌「Japan Hospitals」No13の編集及び刊行について
4. 「日本病院会雑誌」平成6年度（'94 4月号～'95 3月号）

主要掲載記事

（4月号）160ページ

グラフ：順天堂大学医学部附属順天堂医院

巻頭言：「医の心」のこもった改革を（福井 順）

記事：講演 専門看護婦の導入－総論、各論－（鈴木文江、藤枝知子）
環境変化が病院組織の革新を要請する（小山秀夫）

（5月号）148ページ

グラフ：北九州市立医療センター

巻頭言：医療革命とは（廣田耕三）

記事：情報管理による病院運営論（香月武人）
パネルディスカッション 看護婦の勤務体制と適正人員配置

（6月号）144ページ

グラフ：聖テレジア病院

巻頭言：忘れられた「事務の簡素化」（村田寿太郎）

記事：講演 医薬品の適正使用と病院薬剤師の役割（矢野朝水）
中国の医療事情（李亜範）

（7月号）152ページ

グラフ：初富保健病院

巻頭言：病院存続の条件（中山耕作）

記事：医療におけるこれからの食事のあり方（新村明）
シンポジウム 病院経営の立場からみた医薬品の適正管理について

(8月号) 164ページ

グラフ：あそか病院

巻頭言：第20回日本診療録管理学会を開催するにあたって（大村一郎）

記事：銷夏随筆 60編

(9月号) 156ページ

グラフ：荻窪病院

巻頭言：第44回日本病院学会に多数の方々の参加を望む（諸橋芳夫）

記事：講演 今後の中小病院の方向（小山秀夫）

シンポジウム 病診連携開放型病棟の諸問題

(10月号) 188ページ

グラフ：成田赤十字病院

巻頭言：第35回日本人間ドック学会開催にあたり（笹森典雄）

記事：講演 医療の質と放射線診療（高島力）

シンポジウム 放射線診療の中央化に関する諸問題

(11月号) 172ページ

グラフ：日中医学交流旅行

巻頭言：病院の類型化と住民の要望～選択は指導者の決断にあり～（登内 真）

記事：日中医学交流旅行に参加して

(12月号) 152ページ

グラフ：高槻病院

巻頭言：恥と誇り（河北博文）

記事：講演 病院経営と今後の見通し（中山耕作）

先進諸国の医師数に関する政策（紀伊國献三）

(1月号) 188ページ

グラフ：井上記念病院

巻頭言：年頭所感－医療改革の時代を迎えて（諸橋芳夫）

記事：講演 これからの病院（水野肇）

シンポジウム 医療費改定の影響（シュミレーション）

(2月号) 164ページ

グラフ：第44回日本病院学会

巻頭言：創造と想像（西村昭男）

記事：移り変わりゆく医療医学の中での課題～人生に有終の美をそえるために（日野原重明）～

現代の忘れ物（渡辺和子）

（3月号）172ページ

グラフ：1994年国際病院連盟汎地域会議

巻頭言：公立病院の赤字経営（小山田恵）

記事：講演 豊かな国の課題（Robert J. Maxwell）

シンポジウム あなたの明日を誰が見る

5. 総 評

(1) 日本病院会雑誌

ア. 第44回日本病院学会、1994年国際病院連盟汎地域会議等の関係で、セミナー、研究会が少なかったこともあり1冊平均165ページと、前年よりややページ数が減少した。

イ. 連載中の「病院の年輪」（平成7年3月号で15回）は読者の関心も高く今後も継続していきたい。

ウ. 銷夏随筆の寄稿は60編ではほぼ例年なみであった。

(2) 英文誌

Japan Hospitals No13は、12編98ページで例年なみに発刊できた。

16. 広報委員会

1. 開催回数と出席者数（のべ人数）

①委員会 5回（20人）

②座談会 4回（通常号2回20人、500号記念誌2回10人）

2. 協議事項

(1)委員会

①日病ニュースの企画・編集について

常任理事の持ち回りによる論評、解説として「フォーカス」欄を創設、25日号を原則に今年度は5回掲載した。紙面構成はその都度検討した。

②日病ニュース500号記念誌の企画、編集

平成7年5月下旬の発行をめざして、11月の第3回会合から準備に入る。前回の300号記念誌（昭和61年発行。B5約300ページ）から約9年を経過。この間の医療界の動向と日病の活動を多彩な企画で跡付ける目的で、目下準備を重ねている。

(2)座談会

①「病院機能評価の潮流と課題」と題し、大道久日本大学医学部医療管理学教授、郡司篤晃東京大学医学部保健管理学教授、伊賀六一東京都済生会中央病院長、飯田修平練馬総合病院院長、河北博文日病副会長（司会）らによる座談会を487号（10月15日）に掲載。全体像把握に熱論を展開した。

②恒例の新春座談会として「病院医療の将来像」を企画。出席者は多田宏厚生省事務次官を始め、諸橋芳夫会長、佐藤真杉佐藤病院長、高木安雄社会保障研究所調査部長、廣田耕三広報委員長（司会）らによった。機能類別の時代を迎えて病院の進路選択のよすがを探った。

③日病ニュース500号記念誌への収録のため2回に分け実施。「日本の医療の将来を問う」を総合テーマに掲げ、第1部の「病院医療への提言」では、水巻中正読売新聞社解説部次長、渡辺俊介日本経済新聞社論説委員、高木安雄広報委員、名原剛同委員、行天良雄元NHK解説委員（司会）の5人で実施。受療者から見た病院医療の問題点と望ましいあり方などを話し合った。

また、第2部は同じく行天氏の司会で第1部の提言を踏まえて「日本病院会の進路を考える」と題し、医療提供側の考えと日病の今後の役割などを述べ合った。出席者は諸橋芳夫日病会長のほか岸口繁広報副委員長、飯田修平日病医療経済（税制）委員、麻田ミウ子麻田総合病院理事長（会員）によった。

3. 総 評

(1)日病ニュースの発行

平成6年度は第476号（4月10日）～496号（3月25日）の計21回の発行となった。4ページ建て14回、8ページ建て6回、12ページ建て1回と例年に比べ特集組みが増えた。

診療報酬改定が4月1日及び10月1日に2段階で実施されたが、前者は「質疑応答100問集」を4月10日号に、後者も「同80問集」を9月25日に各々掲載し、疑問箇所の手引きとした。また、10月の改定で付添看護・介護の廃止に伴う新看護体系及び新看護補助体系が導入されたが、人員配置と点数配分の採算性を千葉兼三社会保険・老人保健委員が分析した「新看護体系を検証する」を8月10日号～9月25日号に3回に分け連載し、補助者の採用が増えるごとに収支が悪化するとの試算例を紹介した。

10月上旬に第44回日本病院学会及びわが国で初の94 I H F 汎地域会議が横浜市で日をおかず開催されたが、とりわけ後者の事前PRには力を入れ、医療が今日、国際的な視野を抜きには語れない時代に突入した点を中心に、同会議への関心呼びかけた。消費税の不転嫁による「損税」問題の解消について、還付を伴うゼロ・パーセント税率方式の導入若しくは診療報酬の中に消費税を明確な形で位置付ける必要を、キャンペーンを組みアピールした。

17. 企画・規程検討委員会

1. 開催回数 3回（小委員会含む）
2. 出席者数 19名（延べ人数）
3. 協議事項 1）当会事業と組織のあり方、定款改正について

4. 総 評

前年度の委員会経緯、検討事項について再度確認をし、本年度の委員会方針を検討した。

前年度は、日病の事業と組織のあり方を中心として協議、検討をし、10月には委員会としての中間報告を役員会に提出した。

提出した中間報告書には、定款第3条の「目的」の改正にも触れており、本年度は定款改正を踏まえて「目的」を中心に検討を図ることとなった。

そのため、小委員会を設置し「目的」の成文化を図るため昨年10月の中間報告中の「目的」と委員から新たに提出された「目的（案）」を基に協議、検討した結果、成文化を河北副会長に一任し、「目的」の成文化をこの会は、日本の病院およびその付帯する事業を行う会員の一致協力により、それらの事業のサービスの質の向上と事業の継続性を確保し、地域医療の充実を図り、社会福祉増進に寄与することを目的とする。としたが、定款改正の関連からある程度時間をかけて引き続き検討することとした。

18. 中小病院委員会

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 15名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 東京都福祉局社会保険指導部保険医療課の診療報酬改定事務説明会の内容と対応
 - 2) 中小病院の生きる道の具体的方策
 - 3) 中小病院において病院機能評価は必要であるか
 - 4) 病院経営について
 - 5) 「中小病院の生きる道」(仮)シンポジウムの開催について
 - 6) 付添看護の実際に関する調査について

4. 総 評

中小病院のかかえている様々な問題について議論を行っているが、来年度は「病院機能評価」について中小病院としての考えをまとめることとして終了した。

〔部 会〕

1. 看護教育施設部会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 7名
3. 協議項目
 - 1) 平成6年看護学校運営に関するアンケート調査について
 - 2) 全体会議の運営方法について

全体会議

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 62名（55施設）
3. 協議項目
 - 1）平成5年看護学校運営に関する緊急調査報告について
 - 2）厚生省健康政策局看護課 田村やよひ課長補佐による講演
「最近の看護情勢と看護学校運営について」
 - 3）今後の部会活動のあり方について
4. 総 評

看護学校運営に関する調査結果より、学校運営に対して、更なる国庫補助の増額が必要との意見で一致し、また看護課の田村課長補佐の率直な話し方にも好感が持たれ、各施設の出席者、委員との交流もあり、問題は山積しているが、和やかな全体会議であった。

2. 私的病院部会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 28名（延べ人数）
3. 協議項目
 - 1）医療法人制度の検討について
 - 2）消費税について
 - 3）持分のない医療法人について
 - 4）病院評価機構の設立について
 - 5）非常勤医師の常勤換算について
4. 総 評

本年度は、厚生省で行われている「医療法人制度検討会」に、本会の意見（とりわけ、持分のない医療法人について）を反映させるべく、検討を重ねた。

3. 老人保健施設部会

本年度は委員会としての開催はなく、基礎資料の収集を行った。

4. エイズ対策本部

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 12名
3. 協議項目
 - 1）平成5年度厚生省エイズ対策研究推進事業「エイズ診療拠点病院の整備に関する研究」報告書について

2) 本年度SAC委員会（高柳和江委員長）事業計画

- ①SACワークショップを11/24, 25と2/9、10の2回開催する
- ②成田国際空港で配布するエイズ予防パンフレット作成を企画し、厚生省に要望する
- ③医療従事者向けエイズ診療ビデオの製作
- ④エイズ診療視察ツアーの企画
- ⑤テレビ、セミナー等への出演
- ⑥日本病院学会時、10月5日早朝にヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル「ウエスト」にて診療拠点中核病院構想についての朝食会議（全国より50名出席）

ストップ・エイズ・キャンペーン企画委員会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 59名（のべ人数）
3. 協議項目
 - 1) 医療従事者にストップ・エイズ・キャンペーンを実施するため実際の診療をサポートするビデオ「マニュアルにはないHIV感染防止の実践 そこが知りたいAIDS診療」を作成することについて
 - 2) 成田国際空港で配布するエイズ防止パンフレットの企画
 - 3) 8月12日に開催される国際エイズ会議サテライトシンポジウムで「ワークショップ・オン・エイズ・ヘルス・ケア・プロバイダー」の実施 YORITARO INADA氏（米・コロンビア大学附属セントルカ・ルーズベルト病院）とIRENE GOLDSTONE氏（カナダ・聖ポール病院エイズ予防と治療委員会担当看護婦）（参加者約600名）
 - 4) 11/2-12に開催する米国エイズ診療視察ツアーについて（マサチューセッツ総合病院、サンフランシスコ総合病院、ケア・マーク社など）
 - 5) 「エイズ・エデュケーター・セミナー」企画について
 - 6) 11/24, 25、第2回ストップ・エイズ・キャンペーン・ワークショップ（参加者27名）について
 - 7) 2/9、10、第3回ストップ・エイズ・キャンペーン・ワークショップ（参加者43名）について
 - 8) 来年度のストップ・エイズ・キャンペーン・ワークショップは9月上旬と2月初旬に2回開催予定

4. 総 評

活動面においては少年期であるためあれこれとチャレンジしているが、ここにきて何をすることがよいのか焦点がしぼれてきた。

今後も精力的に前進していきたい。

〔特別委員会〕

1. 病院情報センター委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 31名（延べ人数）
3. 協議項目
 - 1) 病院情報センター今後の運営について
 - 2) ホスピタルショウ開催時のセミナーについて
 - 3) 医療衛星チャンネルについて
 - 4) 「総合的病院情報システムのガイドライン」標準化仕様の今後について
 - 5) レセプト電算処理システムについて

4. 総 評

昨年度完成した、「総合的病院情報システムのガイドライン」策定標準機能仕様（経過報告）にもとづいて、ホスピタルショウ開催時にセミナーを開催し、各立場からの意見を求めた。今後は標準化仕様の具体化を促進して行く予定である。

2. 国際モダンホスピタルショウ委員会

'94国際モダンホスピタルショウ企画委員会（第2回）

日 時：平成6年4月21日(木)18：00－20：00

会 場：(株)日本経営協会 7階会議室

- 議 題：①'94国際モダンホスピタルショウ出展申込状況報告
- ②'94国際モダンホスピタルショウ企画展示について
 - ③ホスピタルショウ付帯セミナーの実施について
 - ④その他ホスピタルショウに関する事項について
 - ⑤来年のホスピタルショウについて

出席者：三宅浩之委員長以下7名

'94国際モダンホスピタルショウ企画展示ワーキンググループ打合せ（第4回）

日 時：平成6年4月26日(火)18：00～20：00

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

- 議 題：①特別企画展示コーナーの展示展開について
- ②フロアレイアウトについて
 - ③パネルについて

出席者：鷹野昭士リーダー以下8名

’95国際モダンホスピタルショウ企画委員会（第1回）

日時：平成6年10月11日(火)18：00～20：10

会場：(株)日本経営協会 7階会議室

- 議題：①’94国際モダンホスピタルショウの報告
②’95国際モダンホスピタルショウの開催について
③’95国際モダンホスピタルショウの企画事業について
④’95国際モダンホスピタルショウの開催説明会・新春講演会について
⑤’95国際モダンホスピタルショウの開催スケジュールその他

出席者：三宅浩之委員長以下9名

’95国際モダンホスピタルショウホームケア部会（第1回）

日時：平成6年10月21日(金)18：00～20：30

会場：(株)日本経営協会 7階A会議室

- 議題：①事務局挨拶
②委嘱状交付
③部会長選出
④部会長挨拶
⑤’94国際モダンホスピタルショウの報告
⑥’95国際モダンホスピタルショウの開催について
⑦’95国際モダンホスピタルショウ企画事業について
⑧’95国際モダンホスピタルショウ開催説明会・新春講演会について
⑨’94国際モダンホスピタルショウについての感想
⑩’95国際モダンホスピタルショウについて
⑪’95国際モダンホスピタルショウ付帯展示（ホームケア部会分）について

出席者：鷹野昭士部会長以下12名

’95国際モダンホスピタルショウ医療機器部会（第1回）

日時：平成6年10月25日(火)18：00～20：00

会場：(株)日本経営協会 7階A会議室

- 議題：①事務局挨拶
②委嘱状交付

- ③部会長選出
- ④部会長挨拶
- ⑤'94国際モダンホスピタルショウの報告
- ⑥'95国際モダンホスピタルショウの開催について
- ⑦'95国際モダンホスピタルショウ企画事業について
- ⑧'95国際モダンホスピタルショウ開催説明会・新春講演会について
- ⑨医療機器部会の名称変更について
- ⑩'95国際モダンホスピタルショウ付帯展示・テーマ（環境設備・機器部会分）について

出席者：大道久部会長以下9名

'95国際モダンホスピタルショウ医療情報部会（第1回）

日時：平成6年10月28日(金)18:00～20:00

会場：(社)日本経営協会 7階A会議室

議題：①事務局挨拶

- ②委嘱状交付
- ③部会長選出
- ④部会長挨拶
- ⑤'94国際モダンホスピタルショウの結果報告について
- ⑥'95国際モダンホスピタルショウの開催について
- ⑦'95国際モダンホスピタルショウの企画事業について
- ⑧'95国際モダンホスピタルショウの開催説明会・新春講演会について
- ⑨'94国際モダンホスピタルショウ企画展示についての感想
- ⑩'95国際モダンホスピタルショウ付帯展示について

出席者：里村洋一部会長以下9名

'95国際モダンホスピタルショウ諮問会議

日時：平成6年11月8日(火)18:00～20:20

会場：東京・八重洲 ルビーホール

課題：①主催者挨拶

- ②委嘱状交付
- ③議長挨拶
- ④'94国際モダンホスピタルショウ結果報告について
- ⑤'95国際モダンホスピタルショウ開催について
- ⑥'95国際モダンホスピタルショウ企画事業について

出席者：内田椰子以下16名

’95国際モダンホスピタルショウホームケア部会（第2回）

日 時：平成6年11月28日(月)18：00～20：30

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

議 題：①事務局挨拶

②部会長挨拶

③付帯展示について

④付帯展示テーマについて

出席者：鷹野昭士会長以下10名

’95国際モダンホスピタルショウ医療情報部会（第2回）

日 時：平成6年11月29日(火)18：00～20：00

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

議 題：①医療情報部会の付帯展示について

②付帯展示のテーマについて

出席者：里村洋一部会長以下10名

’95国際モダンホスピタルショウ環境設備・機器部会（第2回）

日 時：平成6年12月5日(月)18：00～20：00

会 場：(株)日本経営協会 7階A会議室

議 題：①部会長挨拶

②前回よりの進捗について

③強酸性水について

④付帯展示について

⑤トピックスコーナーについて

⑥’95国際モダンホスピタルショウガイド特集記事について

出席者：大道久部会長以下10名

’95国際モダンホスピタルショウ企画委員会（第2回）

日 時：平成6年12月8日(木)18：00～20：10

会 場：(株)日本経営協会 7階会議室

議 題：①委員会・部会開催報告

- ②'95国際モダンホスピタルショウの付帯展示について
- ③'95国際モダンホスピタルショウのガイドについて
- ④'95国際モダンホスピタルショウの付帯セミナーについて
- ⑤'95国際モダンホスピタルショウのポスターについて
- ⑥開催概要について
- ⑦今後のスケジュールと次回開催について

3-1. 1994年国際病院連盟汎地域会議組織委員会

- 1. 開催回数 2回
- 2. 出席者数 18名(のべ人数)
- 3. 協議項目
 - 1) 招へい及び旅費等について
 - 2) 感謝状について
 - 3) ジャパンタイムズ掲載について
 - 4) 諸事項の再確認について

3-2. 94年国際病院連盟汎地域会議学術委員会

- 1. 開催回数 5回
- 2. 出席者数 18名(延べ人数)
- 3. 協議項目
 - 1) プログラムの決定について
 - 2) 演題の採用決定について
 - 3) 座長の決定について
 - 4) 基調講演者等の決定について
 - 5) 公開シンポジストの決定について

3-3. 1994年国際病院連盟汎地域会議運営委員会

- 1. 開催回数 3回(他委員会との合同会議含む)
- 2. 出席者数 33名(のべ人数)
- 3. 協議項目
 - 1) 現在の参加登録申込み及びアブストラクト申込み状況の報告
 - 2) 参加促進運動について
 - 3) 当日配布資料について
 - 4) スカラーシップ報告
 - 5) 運営方法の最終確認

〔その他〕

1. 平成6年度厚生省エイズ対策研究推進事業「エイズの医療体制に関する研究」（主任研究者＝南谷幹夫）

「エイズ診療拠点病院のネットワーク作りに関する研究」

分担研究者 南 谷 幹 夫（杏林大学医学部客員教授）

「エイズ診療拠点病院の整備に関する研究」

分担研究者 河 北 博 文（㈱日本病院会副会長）

「歯科医療におけるエイズ対策に関する研究」

分担研究者 須 田 英 明（東京医科歯科大学歯学部歯学保存学第三講座教授）

注：広島でのH I V歯科診療ネットワークづくりのほか横浜市での歯科診療のモデル実施に関する研究をおこなう

「看護における院内感染予防に関する研究」

分担研究者 木 村 哲（東京大学医科学研究所助教授）

「エイズ医療情報の収集・提供に関する研究」

分担研究者 桜 井 賢 樹（国立国際医療センターA I D S医療情報室長）

注：河北氏と合同で医療従事者向け情報提供サービス（ウォームライン）の開設に向けたデータベースづくり及びそのモデル実施をおこなう

「H I Vカウンセリング体制の構築に関する研究」

分担研究者 山 形 操 六（助エイズ予防財団）

- 注：①カウンセリンググループの取りまとめ
②電話カウンセリングの手法に関する研究
③陽性者対応に関する研究
④ピアカウンセリングの手法に関する研究

「抗体検査・告知前後におけるカウンセリング技法に関する研究」

分担研究者 守 屋 裕 文（都立広尾病院精神科部長）

「H I Vカウンセリングの日米比較の研究」

分担研究者 小 杉 正太郎（早稲田大学文学部教授）

「H I V感染者に対する社会的・心理的支援に関する研究」

分担研究者 ト 部 文 麿（バイオサナトロジー学会常任理事）

「医療・保健施設におけるカウンセリングシステムの確立に関する研究」

分担研究者 稲 垣 稔（国立小児病院小児医療センター共同利用室長）

「H I Vカウンセリングにおけるソーシャルワーカーの役割に関する研究」

分担研究者 笠 原 嘉（藤田保健衛生大学教授）

「H I Vカウンセリング研修法に関する研究」

分担研究者 宮 崎 昭（筑波大学付属桐が丘養護学校教諭）

「感染者支援組織への関わり方に関する研究」

分担研究者 児 玉 憲 一（広島大学保健管理センター助教授）

第1回全体班会議 9月30日、ホテル国際観光

第2回全体班会議 3月10日、日本病院会

平成6年度厚生省エイズ対策研究推進事業「エイズの医療体制に関する研究」のうち「エイズ診療拠点病院の整備に関する研究」（分担研究者＝河北博文）

1. 開催回数 2回

2. 出席者数 28名（のべ人数）

3. 協議項目

1) 昨年度の当研究報告書まとめと研究費について

2) 今年度10月における第2回エイズ診療調査について

3) ウォームラインについて

4) 千葉県（旭中央）、茨城県（上浦協同）、東京都（河北総合）と兵庫県（尼崎市医師会）の4県での診療モデル事業について

5) サックワークショップについて

ウォームライン企画委員会（河北分担研究者と桜井分担研究者の合同作業）

1. 開催回数 8回
2. 出席者数 29名（のべ人数）
3. 協議事項
 - 1) 今年度の厚生省エイズ対策研究推進事業「エイズの医療体制に関する研究」における分担研究での医療従事者向け情報ネットワーク、ウォームライン構想について分担研究者である桜井賢樹氏と河北博文氏が共同することの確認
 - 2) 人事について
 - 3) システムについて
 - 4) 第1回相談窓口者（アドバイザー）対象の研修会（1月7日）、第2回研修会（2月6日）、第3回研修会（2月28日、3月1日、1泊2日）実施について
 - 5) 3月6日ウォームライン・オープニングについて

2. 平成6年度厚生科学研究事業「病院機能評価結果と病院経営収支との関係に関する研究」会議

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 7名
3. 協議項目 1) 病院機能評価結果と病院経営収支との関係に関する研究について
4. 総 評

「病院医療の質に関する研究会」により既に行われている22病院のサーベイのデータに加え、それ以外の研究会に属している病院のデータを収集、公的データと併せて解析を行った。

第 4 広 報

1. 日本病院会ニュースの発行

〈号数〉 〈発行日〉	〈主 な 記 事 内 容〉
476号 4月10日	<ol style="list-style-type: none">1) 諸橋会長・診療報酬改定幅に不満表明 予算総会で所信 要求目標との差甚大 人件費増に別枠の措置をと2) 日病の平成6年予算 総額9億7千万円に 前年対比6.3%の増加3) 主潮「病院長の指導力に期待〈他を知ることが自己を知る第一歩〉」4) 医療人の声「個別対応食か、選択メニューか」(住田佳寿子さん)5) 3・26日本病院会代議員会、総会における会長挨拶の要旨6) 中小病院コーナー「医療の原点は何か」(匿名)7) (付録) 診療報酬改定に伴う質疑応答100問集
477号 4月25日	<ol style="list-style-type: none">1) 診療録管理士養成「標準化」に道 日病の通信教育 教育課程を体系化 22年の実績基に実施要綱制定と 現場の実務経験者が創案 科目別教授内容2) 診療報酬改定影響率調査 10月以降実施の方向で3) 5年度日病の活動報告4) 河北副会長ら 日病のエイズ対策を説明 連立与党H I Vワーキングチームへ5) エイズ診療へ意欲示す 日病会員 第1回S A C・WSレポート6) 中小病院コーナー「インフォームド・チョイスと病院P Rの重要性」(廣田耕三氏)
478号 5月10日	<ol style="list-style-type: none">1) 診療報酬改定幅 経営安定化の原資には期待薄(理事会論議) 人権費増で吸収 病院の医療水準への認識希薄と2) 病団連が初の総会開く「人件費相当分を毎年引き上げよ」 中医協への直接参画を主張3) 主潮「病院の医薬分業を考える」4) S A C・ロゴマークが決定 会長賞に茨城・平間さん5) 医療人の声「診療報酬改正と医療人たること」(鈴木勝治氏)6) 中小病院コーナー「新しい病院の定義」(下間幸雄氏)

7) 診療録管理士77人を登録(日病通教) 第40回認定者加え2千人目前に

- 479号 5月25日
- 1) 巻後業務改善のマニュアル・ビデオが完成(厚生省委託事業) 職性活かす環境へとモデル病院の事例、豊富に収録検討会設け1年がかりの労作
 - 2) 全病団連が要望書 診療報酬引き上げ等5項目を
 - 3) 日病病院幹部医会が会員大募集 施設運営・管理の手法習得を
 - 4) 各地のたより 支部活動に弾み(東京) 上水道料金の減免獲得
 - 5) 医療人の声「病院人としての……」(吉崎悦子さん)
 - 6) 中小病院コーナー「鉄は熱いうちに打て」(須藤祐司氏)
 - 7) 国際コーナー 「心暖まる歓迎」中国視察旅行を終えて(高橋勝三氏)
- 480号 6月10日
- 1) 医療費の配分 周辺産業の「1人勝ち」を問題視!(諸橋会長が言及) 5年度所得の上位50社、病院と対極 放置すれば医療の質に影響と
 - 2) 日病決算 繰越総額4億6,200万円に 財政状況は僅かに好転
 - 3) 主潮「基本的な合意」
 - 4) 特定保険医療材料質疑応答集
 - 5) 中小病院コーナー「病気が軽かったり、疾病がないとふくれっ面をする医師は淘汰される」(岡田玲一郎氏)
- 481号 6月25日
- 1) 94ホスピタルショウへ行こう! 7月7~9日、東京・池袋で開催
 - 2) 消費税問題 不転嫁分が病院負担 税調等へ要望書
 - 3) 日病看護教育施設部会 10月の新制度、養成に影響も
 - 4) フォーカス「消費税と病院」(小山田恵氏)
 - 5) 「質の評価は時代の要請」(日病総会講演) 岩崎氏が病院経営に提言
 - 6) 医療人の声「義理と人情」(杉尾敏憲氏)
 - 7) 読者の窓「『病院、冬の時代』こそわれら燃焼を」(熊谷佳代さん)
 - 8) 中小病院コーナー「看護からの発言」(大久保和恵さん)
- 482号 7月10日
- 1) 中医協諮問・答申 診療報酬10月改定分が確定 全体上げ幅1.5% 看護・給食・在宅部門を見直し 「食事の質」現場は疑問視 中医協諮問・答申の概要(付録)
 - 2) 理事会 消費税問題を本格協議 「損税」解消に「ゼロ税率」堅持と
 - 3) 主潮「飽きられない病院」

- 4) 米国医療の現状 廣瀬氏が理事会講演
- 5) 社会保険診療報酬改定の要望
- 6) 中小病院コーナー「在宅医療・訪問看護に真剣に取り組もう」(廣田耕三氏)
- 7) 織本氏の叙勲を祝う 中小病院対策に永年尽力

- 483号 7月25日
- 1) 期待される94 I H F 汎地域会議 10月6～8日 横浜市でわが国初の開催「会議の歴史と参加のお誘い」(牧野永城)
 - 2) 5年度厚生科学研究事業 エイズ診療のあり方を報告 「拠点病院」の研究の困難さ
 - 3) フォーカス「保健・医療・福祉連携」(伊賀六一氏)
 - 4) 94国際モダンホスピタルショウ盛況に
 - 5) 医療人の声「治験薬の査察について」(八木下将也氏)
 - 6) 中小病院コーナー「素直になって」(中澤明子さん)

- 484号 8月10日
- 1) 病院長セミナー 「経営難」克服に真夏の研修 病院の方向を展望(水野肇氏) シンポ「医療費改定の影響」、誘導・再編のシフト徐々に進行「これからの診療報酬と医業経営」(小田清一氏) シンポ「看護業務の改善」、職務のあり方 理想と現実に関き
 - 2) 「新看護体系を検証する」新連載第1回(千葉兼三氏)
 - 3) 第44回日本病院学会の詳細確定 10月4・5日、横浜市で開催
 - 4) 主潮「理念と政策<日本病院会の指導性>」
 - 5) 回顧と展望、新時代を迎えて 第20回診療録管理学会 9月8・9日、呉市で開催
 - 6) 中小病院コーナー「進路選択が生きる病院体質の整備」(下間幸雄氏)

- 485号 9月10日
- 1) 人間ドック、多様化の時代迎えて 実際に役立つ楽しい学会に(笹森典雄学会長)
 - 2) 厚生省の第三者評価機関設置構想に疑問(常任理事会) 医療側主導を反古に
 - 3) 国際エイズ会議に呼応 日病SACも報告会開く
 - 4) 「新看護体系を検証する」連載第2回
 - 5) 中小病院コーナー「看護の基本へ戻る」(須藤祐司氏)

- 6) 全病団連が政府へ要望 平成7年度予算に関する要望 消費税に関する要望

- 486号 9月25日
- 1) 診療録管理学会20年の「あかし」 呉市で盛況、将来に弾み シンポ「学会創立20年のまとめ」、診療録管理の過去・現在・未来 初の現況調査の第1弾(1,422病院集計)スペース確保が悩み(木村氏が発表) 会長講演「戦争中の診療録」、生涯カルテのひな型と
 - 2) 第三者評価の自主機関構想 「質研」支援で合意(常任理事会)
 - 3) 食事定額負担 患者向けポスターを作成
 - 4) ゼロ税率課税 実現の方策を協議
 - 5) 中小病院コーナー「医療の原点は何か Part II」(匿名)
 - 6) 「診療報酬改定に伴う質疑応答80問集」(付録)
- 487号 10月15日
- 1) 座談会「病院機能評価の潮流と課題」 全体像把握に熟論展開 判定結果の使途は 難題含む「水準」の解釈(大道久、郡司篤晃、伊賀六一、飯田修平の4氏と司会は河北博文氏)
 - 2) わが国で初の94 I H F 汎地域会議を開催
 - 3) 第44回日本病院学会に延べ6千人が参加
 - 4) スプリンクラー設置に伴う質疑応答集(第1回) 日病防災対策部会の監修
 - 5) 医療人の声「もう一度世間に耳を傾けよう<日病の国民意識調査から>」(鈴木勝治氏)
 - 6) 国際コーナー「中華民国医院行政協会年次総会に出席して」(高橋勝三氏)
 - 7) 中小病院コーナー「動物病院に負けたら人類社会から見離される」(岡田玲一郎氏)
- 488号 11月1日
- 1) I H F 汎地域会議 「費用対効果」に知恵出し合う 「国際協力の時代到来」印象強く 学会長講演、各国の参加者前に日本の療養環境を問題視 P.S 4「医療における公的・私的部門のディベート」、各国の医療政策の現状を報告 公開シンポ「あなたの明日を誰が見る」、介護者不足の時代の処方箋探る 特別講演「見えない機械・生体を測る」(藤正巖氏) 基調講演(1)「豊かな国の課題・医療資源の適正かつ公正な利用」(R. J. Maxwell) 基調講演(2)「健康に老いるには — 西太平洋における新しい試

み」(S・T・Han) ミナトヨコハマ華やぐ

- 2) 第44回日本病院学会 シンポ(1)「病院の危機的現状にいかに対応するか」、物・心のリストラ迎えた病院界 シンポ(2)「医療と看護、その質をどう評価するか」、院長の意識=資金不足の状態で手つかず、安井氏が調査結果を報告 公開シンポの3氏、「人生に有終の美を」(日野原重明氏)「これからの医療文化」(木村尚三郎氏)「現代の忘れ物」(渡辺和子さん) 一般演題の区分に「中小病院」を新設、佐藤さんら4人が発表
- 3) 常任理事会 第三者機能評価事業 中小病院の視点で論議 フォーカス「日病は公・私共存の基盤作れ」(北村行彦氏)
- 4) 7年度税制に関する要望書
- 5) 中小病院コーナー「医療の体質改善は新しい感性で」(大久保和恵さん)

489号 11月25日

- 1) 日病臨床予防医学委報告 「健康の番人」担い10年の歳月 第35回人間ドック学会で回顧 第35回日本人間ドック学会盛況に 一般演題、参加者数ともに過去有数
- 2) 主潮「自らが変化すること」
- 3) 日病消費税専門委員会が始動 「損税」解消策のとりまとめに
- 4) 医療人の声「中小病院と病院機能評価」(川合弘毅氏)
- 5) フォーカス「非常勤看護職員の常勤換算についての矛盾」(伊藤研氏)
- 6) 中小病院コーナー「21世紀に向けて」(堀江健司氏)
- 7) 医療の将来像を展望 河北副会長が企業人前に

490号 12月10日

- 1) なんとかならぬか「日本の医療の10不可思議」 諸橋会長、矛盾点をにらむ
- 2) 全理事会 (財)日本医療機能評価機構(仮称)への参加を論議
- 3) 2・16に初の大会 全病団連が統一行動へ
- 4) 第2回日病SAC・WSを開催 診療スタッフ泊り込みの特訓
- 5) 消費税、平成7年度予算、平成7年度税制を各々「改革」へ要望
- 6) 中小病院コーナー「変わらない病院は生き残れない」(佐合茂樹氏)
- 7) 医療人の声「インフォームド・コンセントとカルテ」(吉崎悦子さん)
- 8) 糖尿病と食事療法 都支部の第18回栄養部会

- 491号 1月1日 (平成7年)
- 1) 新春座談会「病院医療の将来像」を模索 機能類別の時代迎えて 問われる進路選択の目 「施設連携」へ発想転換も (多田宏、諸橋芳夫、佐藤真杉、高木安雄の4氏と、司会の廣田耕三氏)
 - 2) 記者会見 消費税問題、第三者評価など当面の活動方針を説明
 - 3) 年頭所感「医療改革の時代を迎えて」(諸橋会長)
 - 4) 「消費税 ― ここでも、割りを食う病院経営」(石井孝宜氏)
 - 5) 医療人の声「特別メニューの食事について」(住田佳寿子さん)
 - 6) 中小病院コーナー「民間中小病院に適した病院機能評価マニュアルを ― 第三者評価に備えて」
 - 7) 第45回日本病院学会の概要
- 492号 1月25日
- 1) 阪神大震災 医師等の派遣にご協力を 厚生省から支援要請 日病も災害対策本部を設置 会員病院も直撃 死者2人、焼失・半壊が4施設 現地レポート「病院の被災状況」(古澤啓三氏)
 - 2) 「消費税問題 ― ねばり強い活動を」(大政徹太郎氏)
 - 3) 7年度ドック実施料金 6万2千円に据置き
 - 4) 会員決算 赤字病院の割合、公75%、私49%に 悪化傾向の中、小規模病院に改善も
 - 5) 中小病院コーナー「医療の原点は何か PartⅢ」(匿名)
 - 6) 医療人の声「技師の資質」(杉尾敏憲氏)
 - 7) 登内副会長を祝う 勲三等瑞宝章に浴す
- 493号 2月10日
- 1) 阪神大震災 医療機関の復興支援策、要望へ 災害医療対策立案と 耐震性確保に応分の助成必要(常任理事会) 第45回日本病院学会、神戸市開催を中止
 - 2) 全病団連、初の病院大会に 要求目標=医療費引上げ等5項目
 - 3) 日病事務局2・28に移転 千代田区一番町13-3
 - 4) 主潮「混迷の時代と実力の養成」
 - 5) 「消費税問題の衆知徹底」(宮澤潤氏)
 - 6) 演劇に見る医療のこころ 織本病院(東京)チャンバラ25年の歩み
 - 7) 中小病院コーナー「内なる改革としての学習」(下間幸雄氏)
- 494号 2月25日
- 1) 全病団連、初の大会で氣勢あげる 診療報酬の大幅引上げなどを決議 震

災復興の支援策も要望

- 2) エイズ・ウォームライン、3・6スタート 医療人への電話相談 厚生省との協力事業
- 3) フォーカス「エンゼルプランに期待する」(小澤寛二氏)
- 4) 阪神大震災 日病が復興支援策を要望 自民党の医療団体ヒアリングで
- 5) 「診療録の法的意義」 日病研究会で鹿内氏らが講演
- 6) 第3回SAC・WSを開催 マニュアル作りに困難も
- 7) 中小病院コーナー「医療の原点は何か PartIV」(匿名)

495号 3月10日

- 1) 第45回日本病院学会 一転再開へ 地元から逆境の支えにと “災害” テーマに6月に開催
- 2) 日病事務局の移転完了 会議室が広く機能的に
- 3) 第三者機能評価機構に4千万円を予算計上
- 4) エイズ・ウォームライン 開所式で内外の期待集まる
- 5) 主潮 「天災に学ぶ」
- 6) 第36回日本人間ドック学会 仙台市で8月24・25日に開催
- 7) 「役員の改選に当たって〈真の一流組織とは〉」(河北副会長)
- 8) 中小病院コーナー「病院経営は本当に苦しいのか」(岡田玲一郎氏)
- 9) 新代議員118人を選出 選挙管理委員会が確定

496号 3月25日

- 1) 日病役員改選 諸橋氏が5期目の舵取り 副会長は中山氏(3選)と初顔の高橋・大道・藤澤氏 常任理事は1/3が交替し刷新 「新役員に選出されて」(諸橋芳夫日本病院会会長)
- 2) 期待される新役員の顔ぶれ 理事の3割が交替
- 3) 3・25日本病院会代議員会・総会における会長挨拶の要旨
- 4) 中小病院コーナー「中小病院の役割は重大である」(須藤祐司氏)
- 5) 阪神大震災 復興支援を要望、国へ無利子融資などを
- 6) 医療人の声「消費税を考える」(真鍋知巳氏)

2. 記者会見

12月9日に東京都千代田区のダイヤモンドホテルで実施。日病からは諸橋会長、依田、河北両副会長、廣田広報委員長が出席し、記者側は厚生記者会(一般紙)所属の3社及び厚生日比谷クラブ(専門紙)の10社、計13社13名が集まった。

会見の骨子は次の通り。

①消費税の「損税」についての対応

薬剤購入などに係る消費税の仕入課税相当分の不転嫁に起因する「損税」の解消には、現行、非課税の社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すべきであると主張。ただし、税率5%の平成9年引き上げ導入が決まり、今回は事実上の可能性が薄れたことから、当面は診療報酬の中に消費税を明確な形で分離し位置付けるように求めてゆく姿勢を示した。

②病院機能評価の第三者機構設立への対応（財団法人日本医療機能評価機構（仮称）に日病は病院団体として積極的に賛同し、主導的立場で病院の機能向上を図る考えを表明した。このため5千万円の基金を拠出する用意がある点も強調した。なお、「医療の質に関する研究会」（岩崎事務局長）との連携はこれまで通り密にし、同研究会のノウハウを今回の財団に活かして頂きたいとの希望も明らかにした。同時に、評価の結果、改善整備が必要な場合は優先的に助成措置が行われる必要があると指摘した。

③診療報酬の問題について

平成6年4月と10月の医療費改定は実質合計で2.7%であるが、先の人事院勧告でベア1.18%と示され、4月の定期昇給分と7年度の同昇給分を見積ると、人件費でさえ賄えない状況である。さらに6月の病院経営実態調査で病院の統計は0.4%の赤字であり、今後、病院経営はますます苦境に立たされると危惧を表明した。

8年3月をめどに付添看護・介護の解消が予定され、趣旨は理解できるが、現在の病院経済からみて民間中小病院は雇用確保の点で打撃となり、より一層の助成が望まれると強調した。

④その他

諸橋会長は「日本の医療の10不可思議」と題する自身のメモを提示、病院運営上の矛盾点を指摘した。

第5 定例研究会

1. 定例診療システム研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

3月2日(木) 国立がんセンター東病院 12施設 20名
「施設見学」

2. 定例事務管理研究会

(本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした)

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

2月23日(木)・24日(金) 伊東市：ホテルニュー岡部 120施設 145名

①講演「特定保険医療材料の診療報酬上の評価と今後について」

厚生省保険局医療課 課長補佐 福島 靖正

②基礎医学講座「脳の病気と脳神経外科」

総合病院聖浜松病院 院長 中山 耕作

③請求漏れ防止対策（一般・材料）

④グループ討議

4. 定例総務研究会

(本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした)

5. 定例人事労務研究会

(本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした)

6. 定例用度研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要 平成7年3月9日(木)～10日(金) 一泊研修会

熱海市・湯河原研修クラブ 58施設 70名

司 会

用度研究会委員 松島 雅夫

あいさつ	用度研究会委員長	塩山雅英
①用度業務に関する調査について	用度研究会委員長	塩山雅英
②医薬品を除いた物品の価格調査について	用度研究会委員	大石洋司
③医薬品に関する価格調査について	用度研究会副委員長	梅津勝男
④医療廃棄物について	用度研究会委員	平林和玄

7. 定例施設研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催内容

3月16日 品川・東芝病院の見学 18施設 24名

8. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

3月10日(金) ㈱日本病院会 会議室 20施設 24名

①平成5年度「経営分析集計表」について

— 経営分析の基本と結果報告 —

会計経理研究会 顧問 酒泉春雄

②グループ討議「トップの求める経営資料」

— 科別統計・その他 —

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

2月17日(金) 九段会館 73施設 166名

「新看護体系の狙いと問題点」

国立医療・病院管理研究所
医療経済研究部研究員

川 渕 孝 一

10. 定例薬事管理研究会

- 1. 開催回数 1回
- 2. 開催概要

3月10日(金) 池袋：サンシャインシティ文化会館 703+4号室

「麻薬および向精神薬の取扱いについて」

厚生省薬務局麻薬課課長補佐 伊 東 哲 夫

11. 定例栄養管理研究会 諸般の事情により中止。

12. 定例調理研究会 諸般の事情により中止。

13. 定例診療録管理研究会

- 1. 開催回数 4回
- 2. 開催概要

(1) 4月15日(金) 国立千葉大学附属病院 78施設 105名

ア. 講演

診療録管理と電子カルテ 国立千葉大学医学部教授 里 村 洋 一

イ. 医療情報部見学

(2) 7月22日(金) 国立がんセンター研究所 54施設 67名

ア. 講演

診療録管理とがん登録 国立がんセンター研究所疫学部長 渡 辺 昌

イ. 医事課、がん登録室及び病歴室見学

(3) 1月20日(金) 国立オリンピック青少年総合研修センター 98施設 125名

講演

(ア)診療録管理をめぐる法的問題 厚生省保健医療局訟務専門官 鹿 内 清 三

(イ)診療録管理の日常業務と法律 慶應義塾大学病院中央病歴室課長代理 桜 井 勉

(4) 3月10日(金) 国立オリンピック青少年総合研修センター 78施設 109名

講演

(ア)病院経営改善策と医療情報

厚生省国立医療・病院管理研究所医療政策研究部長 武 藤 正 樹

(イ)病院管理者から見た医療統計 新潟市民病院院長 木 村 明

14. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

2月14日(火) 佐々木研究所メモリアルホール 30施設 31名

「平成6年診療報酬改定とこれからの病院経営」

竹田綜合病院 副理事長 竹田 秀

15. 定例放射線研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

3月4日(土) 横浜労災病院 30施設 35名

①講演「放射線部門に望まれるインフォームド・コンセント」

～病院管理の立場から～

横浜労災病院副院長 馬杉 則彦

②シンポジウム

「院内におけるインフォームド・コンセント」

～看護部門との連携～

シンポジスト

北里大学病院看護科長 石井 か代

〃

横浜労災病院中央放射線部技術長 佐藤 律夫

③施設見学(中央放射線部)

16. 定例臨床検査管理研究会 諸般の事情により中止。

17. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

2月16日(木) 日病会議室 48施設 67名

「関係諸法令」

厚生省指導課医療関連サービス室長補佐 村上 茂樹

「病院清掃業務の実態と問題点」

— 病院のより良い環境整備を目指して —

東京美装興業(株)取締役営業管理部長 古橋 秀夫

「病院清掃の目的」 — 病院内における安全 —

ハウスキーピング研究会委員長 井上加代子

「清潔と不潔・病院感染と清掃」

東京大学医学部感染制御学教室教授 小林 寛伊

「骨髄移植と清潔・無菌病室」

日本大学医学部医療管理学教室 友安 直子
(骨髄移植コーディネーター)

18. 診療報酬改定説明会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要 平成6年8月24日(水)

東京厚生年金会館

参加者 1,250名

講師

厚生省保険局医療課 平野雄一郎

厚生省老人保健福祉局老人保健課 山崎晋一郎

19. 内科臨床協議会

1. 世話人会開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 11月17日(月) 日本病院会事務局 8名(幹事 長野博)

①「プライマリーケアと予防医学の新しい医学教育 ハーバード大学の新しいアプローチ」

聖路加国際病院予防医療センター部長 日野原茂雄

②各グループ開催状況の報告および今後の活動について

③来年度の幹事は飯塚哲司・東京警察病院内科部長(1-Bグループ)。

世話人会は5月15日(月)と11月の2回開催。

3. 各グループジョイントカンファレンス

(1) 1-Bグループ(東京通信病院、東京警察病院、三井記念病院)

①5月17日、東京警察病院

a. 肝硬変、残胃癌の一例

②7月19日、東京警察病院

a. 肺ガンの一例

(2) 2-Cグループ(中野総合病院、東京厚生年金病院、社会保険中央総合病院、河北総合病院)

① 5月24日、東京厚生年金病院

a. 電解質異常（黒川教授）

② 7月19日、河北総合病院

a. 皮膚を伴う不明熱の症例：スイート、スティール病（溝口昌子・聖マリアンナ医大皮膚科教授）

③ 9月23日、社会保険中央総合病院

a. 真菌の関与した肺病変 アレルギー性気管肺アスペルギルス病（ABPA）
（蛇沢晶・国立療養所東京病院臨床検査科科长・病理）

4. 総 評

今後も地道な活動を中心に各病院間との交流をはかりたい。

第6 全国研究会

1. 全国診療システム研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

2. 全国事務管理研究会

本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした

3. 全国医事研究会

本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした

4. 全国総務研究会

本年度の全国研究会は諸般の事情により中止とした

5. 全国人事労務研究会

本年度の全国研究会は諸般の事情により中止とした

6. 全国用度研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

7. 全国施設研究会

今年度は実施しなかった

8. 全国会計経理研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

9. 全国看護管理研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

10. 全国薬事管理研究会

本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした

11. 全国栄養管理・調理合同研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

12. 全国病院管理総合研究会

本年度の定例研究会は諸般の事情により中止とした

13. 全国放射線研究会

本年度の全国研究会は諸般の事情により中止とした

14. 全国臨床検査管理研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

15. 全国ハウスキーピング研究会

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

16. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成7年3月3日(金)

3. 開催地 東京都・サンシャインシティ文化会館

4. 参加者数 65施設 67名

5. 演題

①講演「学術情報センター NACSIS-IR の利用」

日本科学技術情報センター 三 沢 一 成

②シンポジウム「病院図書室の相互貸借サービスの急増にどう対処するか」

(1)病院図書室の現場から

川崎市立川崎病院 篠 原 寿美江

(2)大学図書館相互貸借担当者から

獨協医科大学図書館 小 林 成 江

③実務講座「相互貸借入門」

旭川市立旭川病院 直 江 理 子

④文献入手法あれこれ

(1)医学中央雑誌刊行会 今 井 正 巳

(2)国際医学情報センター 高 田 宣 美

(3)日本科学技術情報センター 原 茂 樹

(4)サンメディア 松 下 茂

6. 総 評

病院図書室が現在、対応に苦慮している文献検索関連をメインに、「病院図書室の相互貸借サービスの急増」への対応を多方面から討議した。

17. 職場リーダー研修会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

第72回（3日間コース）

期 日 平成7年2月8日(水)～10日(金)

場 所 京大会館薬友会（京都市）

参加者 18施設 24名

演 題 (1)職場リーダーのポジションと役割

(2)職場運営のポイント

(3)要求される創意工夫

(4)職場研修のねらい

(5)リーダーシップと相互理解

(6)ケーススタディ

リーダー	聖路加国際病院物品管理センター長	内 藤 均
	元昭和大学病院放射線技師長	神 田 幸 助
	武蔵野赤十字病院事務部長	緒 方 廣 市
	佼成病院臨床検査技師長	設 楽 正 登
	佼成病院人事課係長	渡 辺 修 孝

3. 総 評

毎年3回開催している研修会だが、今年度は都合により、1回開催となった。今年は、阪神大震災の影響もあり、参加者が少なかったが、色々な職種から主に、総務課、医事課、看護婦等の参加があった。中でも事例研究になると、参加者の緊張もほぐれ、よりよい研修時間を過ごしている。

当研修会としては、上司と部下がコミュニケーションをとり、より明るい職場環境になるよう務めている。

第 7 セ ミ ナ ー

1. 病院長・幹部職員セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成6年7月30日(土)、31日(日)
3. 開催地 東京都 ダイヤモンドホテル
4. 参加者数 159名
5. 演 題

第1日目 7月30日(土) (13:00~17:00)

特別講演Ⅰ「これからの診療報酬と医業経営」

岐阜県衛生環境部長 小 田 清 一
座長：日本病院会副会長 登 内 真

シンポジウムⅠ「医療費改定の影響(シミュレーション)」

座長：日本病院会常任理事 伊 藤 研

- ①岩手県立中央病院 院 長 小山田 恵
- ②武蔵野赤十字病院 事務部長 緒 方 廣 市
- ③広島総合病院 院 長 高 科 成 良
- ④織本病院 理 事 長 織 本 正 慶
- ⑤大道病院 理 事 長 大 道 學
- ⑥長崎記念病院 理 事 長 福 井 順

第2日目 7月31日(日) (10:00~17:00)

特別講演Ⅱ「これからの病院」

医事評論家 水 野 肇
座長：日本病院会副会長 依 田 忠 雄

特別講演Ⅲ「1994年医療費改定は

「第二次保険・医療改革」のはじまり」

日本福祉大学社会福祉学部教授 二 木 立
座長：日本病院会副会長 中 山 耕 作

シンポジウムⅡ「看護業務の改善」

座長：日本病院会副会長 河北博文

- | | | |
|--------------|------|--------|
| ①厚生省健康政策局看護課 | 課長補佐 | 田村 やよひ |
| ②虎の門病院 | 看護部長 | 粟屋 典子 |
| ③天本病院 | 院長 | 天本 宏 |
| ④日本看護協会 | 常任理事 | 高橋 美智 |
| ⑤秦病院 | 院長 | 渡辺 晃 |
| ⑥医療法人大雄会 | 会長 | 伊藤 研 |

6. 総 評

今年のセミナーは、依田副会長の担当で行われ、医業経営、医療改革、医療費改定の影響、看護業務など、さまざまな場面における医療の問題についての講演、シンポジウムが行われた。

会場を埋めつくした参加者の真剣な聴講のまなざいが印象的であった。

2. 幹部医セミナー（病院医療の質を考えるセミナー）

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 平成6年7月9日(土)
平成7年3月25日(土)
3. 開催地 東京都・池袋サンシャインシティ
千葉県・亀田総合病院
4. 参加者数 120名
150名
5. 演 題

7月9日(土)13:00~16:00

病院医療の質を考えるセミナー「医薬品情報を中心として」

— 医師と薬剤師の対話 —

1. 医薬品を調剤供給する立場から

国立国際医療センター 副薬剤部長 古泉 秀夫

2. 医薬品を処方する立場から

日本病院会病院幹部医会 前副会長 木村 明

3. 医薬品情報を提供する立場から

日本医薬品情報センター理事長 三宅 浩之

4. 医薬品の適正使用と安全性確保の立場から

厚生省薬務局安全課 課長 土井 脩

5. シンポジウム「医師と薬剤師の接点と役割分担は如何にあるべきか」

座長：病院幹部医会会長 牧田総合病院副院長 笹森典雄

上記演者・セミナー参加者全員参加討議

3月25日(土) 9:00~17:00

特別講演Ⅰ 1995年度の健康政策——日本の医療の質的向上に向けて——
寺松 尚（前厚生省健康政策局長・社会福祉医療事業団副理事長）

特別講演Ⅱ 病院機能：何を計るか、いかに計るか、そしてなぜ？
クリニカルガイドラインの開発について／ウィリアム・モーレンブロック
（IAMETER副社長）

特別講演Ⅲ 医療管理教育における品質管理教育の重要性／サミュエル・レヴィ（アイオ
ワ州立大学病院管理学教授）

パネル 医療の質とコスト

ディスカッション トピック「クリニカルガイドラインの開発、予定額払方式の導入などが、
医療の質とコストに与える影響を考える」
基調報告／下村 健（健康保険組合連合会副会長）
司 会／牧野 永城（亀田総合病院副院長）
パネラー／池上 直己（慶應大学病院管理学教授）
今中 雄一（日本医科大学医療管理学）
ウィリアム・モーレンブロック
サミュエル・レヴィ
ジョン・ウォーカー（亀田総合病院副院長）
ジョン・コロトン（アイオワステートワイドヘルスサービス副会長）
高原 亮治（厚生省食品保健課長）
坪井 栄孝（日本医師会副会長）
モーリス・エリオット（メソジストヘルスシステムズ会長）
50音順／敬称略

総括 幸田 正孝（元厚生省事務次官・財団法人医療経済研究機構副理事長）

6. 総 評

今年度は2回のセミナーを開催した。

とりわけ2回目のセミナーは、地元亀田総合病院の全面的な企画・立案・協力のもと開催された。

亀田総合病院の亀田院長、牧野副院長をはじめ病院職員の皆様には会場提供、準備等大変お世話になり、深謝する次第である。

3. 医療事故防止のためのセミナー

本年度は休止した。

4. 病院防災セミナー

本年度は部会活動を主とし、セミナーについては開催をみあわせた。

5. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成7年3月16日(木)・17日(金)
3. 開催地 東京都・サンシャインシティ文化会館
4. 参加者数 60施設 65名
5. 演 題

①講演「消費税引き上げと病院経営」

医療法人公仁会 姫路中央病院 理事 東 昇

②特別講演「医療の経済学」

厚生省 社会・援護局更生課 課長補佐 廣 井 良 典

③講演「付添い廃止と新看護体系」

八王子保健生活協同組合 城山病院 事務長 佐 藤 健 二

④益田啓作の“シリーズ・特別対談”

今回のテーマ：「食事療養」

ゲスト：東京船員保険病院 栄養管理室長 足立香代子

聞き手：(株)日本病院会事務管理研究会顧問 益田啓作

⑤シンポジウム「新・診療報酬体系における病院の対応」

シンポジスト： 杏雲堂病院 事務長 山下昭雄

	河北総合病院 事務本部長	佐々木 和男
	医療法人 きっこう会 事務局長	海北 幸男
	竹田総合病院 副理事長	竹田 秀
司 会 :	聖隷福祉事業団 常務理事	山本 敏博

6. 総 評

本年度の研究研修会を締めくくる本セミナーが、東京・池袋サンシャインシティ文化会館で開催された。メインテーマは「新・診療報酬体系における病院の対応」

今回も、厚生省から講師を招き特別後援を一題、そして恒例となった益田啓作の対談シリーズまで、現在話題・問題の諸テーマを取りあげた。

6. 総婦長セミナー

第44回日本病院学会及び'94国際汎地域会議開催のため休止

7. 患者サービス向上セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成7年2月16日(木)、17日(金)
3. 開催地 東京都・SLタワー
4. 参加者数 7施設 12名
5. 演 題

「PARTNERSHIP・病院と医療関連サービス」

①講演「医療関連サービスの現状と展望」

(助)医療関連サービス振興会理事長 佐分利 輝彦

②講演「高齢課社会に求められるサービス」

(株)さんいくライフ 専務取締役 高原 敏夫

③講演「共に生きるサービス社会」

河北総合病院事務部長 富田 信也

④講演「ケアレジデンスの医療・介護サービス」

(株)聖路加レジデンス
ヘルスケアコーディネーター 松下 和子

⑤施設見学

- 1) 健康増進施設……SPORT 109
- 2) 在宅介護ベッドショールーム……パラマウントベッド

3) 介護用品ショールーム……ヤマシタコーポレーション

6. 総 評

平成元年を患者サービス元年ととらえて、本セミナーは第7回目を数えた。

今回は、21世紀の病院医療を取り巻く新しい患者サービスの潮流、特に医療を支えるビジネスとしての医療周辺サービスの動向にスポットをあて、各施設がサービス向上の指針を見出す場となるよう本セミナーを企画した。

参加者は、医師、看護婦、事務と多岐にわたり、セミナーを通じて患者サービスのあり方及びその重要性が再認識させられ、これからは今までに蓄積したノウハウを各病院の実情に合わせて実践するべき時代であることを痛感した。

また、人事労務・総務各研究会が中心となって、病院における現在の賃金実態をできる限り正確に把握し、各病院が適正な賃金管理を行っていくうえでの参考に資するため、「'95病院職種別賃金実態調査資料集」を出版した。調査は国立病院を除く2,366会員病院を対象に行い、回答率は9.9%であった。

病院賃金に関するデータのうち、特に、経験年数別にみた医師の月額賃金は、経験1年から5年までの1年当たり上昇額は5万2千円、5年から10年までは2万8千円、10年から20年は2万円、20年から25年は1万2千円であった。

所定外賃金の月額賃金に占める比率をみると、経験1年から3年で最も高く23%、経験が長くなるにしたがい比率は低下し、経験25年では15%であった。

以上から、若い時には時間外勤務が多く、年齢が高くなるにしたがい時間外勤務が少なくなることをあらわしていた。

8. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成7年1月19日(木)～21日(土)
3. 開催地 東京都・サンプラザ、東京都健康プラザ(ハイジア)
4. 参加者数 21施設 21名

5. 演 題

「良い指導者になるためには」

- ①「3分間スピーチ」
- ②講演「病院経済と今後の見通し」

(社)日本病院会常任理事 織本正慶
織本病院理事長

③講演「インフォームド・コンセント」

(社)日本病院会常任理事
東京都済生会中央病院院長

伊賀六一

④全体討議「放射線科におけるインフォームド・コンセント」

⑤全体討議「放射線科における業務の合理化」

～KJ法(カード法)による～

⑥技術講演「撮影フィルムのデジタル化保存について」

富士メディカルシステム(株)

酒井芳雄

⑦施設見学(都立大久保病院放射線科)

⑧技術講演「MRの最新情報」

東芝メディカル(株)

後藤和久

⑨講演「最新の画像診断」

(社)日本病院会放射線研究会顧問
日本医科大学教授

隈崎達夫

⑩『5分間感想文』

6. 総 評

本セミナーは「良い指導者になるため」を主眼において開催され、今回を含めて延べ785名が修了証を受けた。

放射線技師の果たす役割が年々重要視されてきたこととあいまって、技術的なテーマのほか、「病院経済と今後の見通し」、放射線科における「インフォームド・コンセント」、「業務の合理化」をとりあげ、KJ法をつかって日常業務の見直しをはかった。

又、昨年来「放射線科における保守契約」に関するメンテナンスフィーについて研究会を3回開催し、その際会員病院のうち600病院にアンケート調査を実施し、205病院から回答を得た(回答率34.2%)集計結果を、日本病院学会で発表した。

集計結果の主要な点は、高額機器、およびその装置数に比例して保守契約件数が多くなっていた。おもに、CT、MRI、核医学、治療装置の保守契約金で500万円以下が42%、500万円以上になると35.6%を示していた。

各病院でこの金額の捻出に苦労していることは、異口同音に研究会での質疑応答を通じてわかった。

正確な診断、治療を行うためには、その精度の維持管理が必須条件で、万一の際、ダウンタイムを最小限にとどめるためにも、保守契約締結により最悪状態を回避しようとする病院の姿が、今回の調査によって明瞭となった。

このような現況を背景にして、病院内での放射線部門に課せられた重責を再認識し、今後も研修の実をあげるよう、なお一層の改善に努めたい。

9. 臨床検査管理セミナー

諸般の事情により、中止。

10. 病院情報センターセミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成6年7月8日(金)
3. 開催地 東京都・池袋サンシャインシティ
4. 参加者数 200名
5. 演 題

7月8日(金)13:00~16:00

病院情報システム標準仕様についての検討報告と討議

— 厚生省の推進する「レセプト電算処理システム」との接点 —

1. 病院情報システム形成の標準仕様(案)の策定について

日本病院会病院情報センター委員会 委員 谷口正和

2. 病院におけるレセプト作成の問題点と対応

社会保険診療報酬支払基金 審議役 小池将文

3. レセプト電算処理システムの推進について

厚生省保険局保険課 課長 渡辺芳樹

4. 病院情報システムの標準仕様化の問題点

(シンポジウム形式の全体討議)

座長：日本病院会病院情報センター委員長 三宅浩之

上記演者・参加者全員参加討議

6. 総 評

昨年完成した「総合的病院情報システムのガイドライン」策定標準機能仕様(経過報告)にもとづき、また協力病院への報告も兼ねて実施した。

今後も標準化仕様報告、検討のためセミナーを開催して行く予定である。

第8 診療録管理課程通信教育

1. 入学状況

◦ 第45期生入学

- 1) 開講月日 平成6年7月1日
- 2) 入学者数 134名(ただし、2年次編入28名含む)
- 3) 受講料 70,000円(年額)(ただし、2年次編入で教科書不要の者は60,000円)

◦ 第46期生入学

- 1) 開講月日 平成7年1月1日
- 2) 入学者数 162名(ただし、2年次編入生61名含む)
- 3) 受講料 70,000円(年額)(ただし、2年次編入で教科書不要の者は60,000円)

2. 卒業状況

◦ 第41回卒業

- 1) { 卒業生数 48名(男8名、女40名)
卒業式典 平成6年10月22日(土)
- 2) 同会場 東京：ダイヤモンドホテル

◦ 第42回卒業

- 1) { 卒業生数 98名(男15名、女83名)
卒業式典 平成7年4月22日(土)
- 2) 同会場 東京：ダイヤモンドホテル

3. 受講者人員数状況(7年3月31日現在)

◦ 入学者の総数 5,000名

男 1,077名

女 3,923名

◦ 卒業者の総数 2,142名

男 380名

女 1,762名

◦ 受講者の総数 621名

42期以前	57名	43期	103名	44期	165名
		45期	134名	46期	162名

4. 集中スクーリング実施状況

第45回集中スクーリング

◦期日（平成6年8月18日(木)～24日(木)）

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第44・45期生			第41・43期生	第42・43期生 第44・45期生の内2年次編入者		
18日 (木)	19日 (金)	20日 (土)	平成6年8月21日 (日)	22日 (月)	23日 (火)	24日 (水)

〈会 場〉

東京：国際医療管理専門学校（1年次、2年次） 693名
 大阪：大阪職業訓練センター（1年次、2年次） 314名
 福岡：福岡大学医学部（1年次、2年次） 157名 計 1,164名

第46回集中スクーリング

◦期日（平成7年2月16日(木)～22日(木)）

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第45・46期生			第42・44期生	第43・44期生 第45・46期生の内2年次編入者		
16日 (木)	17日 (金)	18日 (土)	平成7年2月19日 (日)	20日 (月)	21日 (火)	22日 (水)

〈会 場〉

東京：国際医療管理専門学校（1年次） 227名
 ：国立オリンピック記念総合研修センター（2年次） 411名
 大阪：大阪職業訓練センター（1年次、2年次） 343名
 福岡：福岡大学医学部（1年次、2年次） 173名 計1,154名

第9 事務長養成課程通信教育

1. 入学状況

◦ 第17回生入学

- 1) 開講式 平成6年7月1日
- 2) 入学者数 19名
- 3) 受講料 480,000 (年額)

2. 卒業状況

◦ 第15回生卒業

- 1) 卒業者数 6名 (男6名)
- 2) 卒業式典 平成6年7月23日
同会場 東京：ダイヤモンドホテル

3. 受講者人員数状況 (平成7年3月31日現在)

- 入学者の総数 307名
- | | |
|---|------|
| 男 | 289名 |
| 女 | 18名 |
- 卒業者の総数 150名
- | | |
|---|------|
| 男 | 143名 |
| 女 | 7名 |
- 受講者の総数 60名
- | | | |
|------|-----|--------|
| 16回生 | 41名 | (留年生含) |
| 17回生 | 19名 | |

4. 集中スクーリング及び試験実施状況

1) スクーリング

前期 平成6年7月4日(日)～9日(土)

7月11日(月)～16日(土)

3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
試 験 (#16 1年次後期)	スクーリング (#16 2年次前期)						スクーリング (#17 1年次前期)					
東京：本願寺築地別院						伝道会館						

延出席者数 第16回生 198名

第17回生 120名

後期 平成7年1月9日(月)～14日(土)

1月16日(月)～21日(土)

8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
試 験 (#17 1年次前期)	スクーリング (#17 1年次後期)						試 験 (#16 2年次前期)	スクーリング (#16 2年次後期)					
東京：本願寺築地別院						伝道会館							

延出席者数 第16回生 198名

第17回生 108名

2) 試験受験状況

○ 第15回生 2年次後期

期 日：平成6年6月3日(金)

場 所：東京：本願寺築地別院

受験者： 6名

合格者： 6名

○ 第16回生 1年次後期

受験者： 30名

合格者： 30名

○ 第17回生 1年次前期

受験者： 18名

合格者： 18名

○ 第16回生 2年次前期

受験者： 30名

合格者： 30名

第10 海外視察研究会

1. 中国医療施設視察団

- ① 期 日 5月3日(火)～5月9日(月) 7日間
- ② 訪 問 先 大連医学院、吉林省衛生庁、吉林省病院、白球恩医科大学訪問、黒龍江省衛生庁、中日友誼医院、北京医院など
- ③ コーディネーター 高橋勝三（国際委員会委員長）
- ④ 参加者数 9施設21名

2. カナダ医療事情視察団

- ① 期 日 6月25日(土)～7月5日(火) 11日間
- ② 訪 問 先 トロント大学、オンタリオ病院協会、エドモントン大学病院など（トロント6泊）
（レイクルイーズ3泊）
- ③ コーディネーター 高橋淑郎（トロント大学助教授）
- ④ 参加者数 13施設19名

3. 米国エイズ医療事情視察団

- ① 期 日 11月2日(水)～11月12日(土) 11日間
- ② 訪 問 先 ニューヨーク市・ベスイスラエル医療センター、同市・聖ルカ・ルーズベルト病院、サンフランシスコ総合病院など
- ③ コーディネーター 高柳和江（日本医科大学医療管理学助教授）
- ④ 参加者数 11施設13名

総 評

今年度も好評のうちに無事修了することができた。来年度は更に充実したものになりたい。

第11 医療従事者無料職業紹介事業

1. 平成6年度の実績

	求職件数	求人件数	就職件数
医 師	37	108	3
看 護 婦	0	23	0
そ の 他	9	6	1
計	46	137	4

2. 就職件数3人（医師）の内訳

- ① 診療科 内科 1人 外科 1人
 耳鼻咽喉科 1人
- ② 年 齡 30代 1人
 50代 2人
- ③ 就職地 関東地区 2人 中部地区 1人

3. 総 評

平成6年度の求職件数は医師が37人、その他事務職9人、合計46人で、求職医師の約6割は内科医である。

求人件数は医師108人、看護婦23人、その他（放射線技師、理学療法士）6人、計137人であり、就職決定は4人であった。

現在は医家向け専門誌に医師招へいの広告を掲載し、会員病院からの求人登録を参照して紹介業務を行っているが、診療科、年齢、勤務地等の需給の関係が一致せず決定に至らないケースが多い。現在では医師中心の紹介事業として推移している。

第12 病院幹部医会

- 1) 幹事会 平成6年4月22日(金)
- 2) 会場 ダイヤモンドホテル 桐の間
- 3) 協議項目
 - ・今後のセミナーの計画について
 - ・病院幹部医会の加入促進について

第13 調 査 室

本年度も、「病院運営実態分析調査」を実施し「病院概況調査報告書」を発刊した。また、本年度は診療報酬改定があったため、影響率調査を実施し、分析報告書を発刊の予定である。

◎ 平成6年度 病院概況調査報告書

1. 病 院 概 況 （病院数、病床数、専用病床保有状況）
2. 患 者 状 況 （入院－外来、救急比率等）
3. 設 備 状 況 （ICU、CCU、未熟児室、医療機器、コンピュータ等）
4. 職 員 数 （職種、病床規模、1病院当り、開設者、常勤、非常勤別）
5. 部 門 別 業 務 量 （診療、薬剤、放射線、検査、給食、事務等）
6. 外 注 委 託 状 況 （寝具、清掃、給食、検査等）
7. そ の 他 （基準看護、救急告示、手術件数、敷地－建物面積、剖検率、病床利用率、平均在院日数等）

第14 第44回日本病院学会

1. 学 会 長 諸橋 芳夫(社団法人 日本病院会 会長)

2. テ ー マ 世界に通ずる医療をめざして
— 理想と現実 —

3. 開催期日 平成6年10月4日(火)～5日(水)

4. 開催地 神奈川県・横浜市

5. 会 場 パシフィコ横浜 会議センター

6. 演 題

(1) 学会長講演 1題

「世界に通ずる医療をめざして」

講 師	第44回日本病院学会学会長	諸 橋	芳 夫
座 長	第44回日本病院学会副学会長	登 内	真

(2) 特別講演 2題

「科学する心」

講 師	東北大学総長	西 澤	潤 一
座 長	神戸市立中央市民病院名誉院長	岡 本	道 雄

「保健システムと保健政策 — 最近の国際動向 —」

講 師	上智大学文学部教授	保 坂	哲 哉
座 長	国際親善総合病院院長	加 藤	英 夫

(3) 公開講演 3題

「人生に有終の美を — 医学の新しい課題 —」

講 師	聖路加国際病院院長	日 野	原 重 明
座 長	東京都済生会中央病院院長	伊 賀	六 一

「これからの医療文化」

講 師	東京大学名誉教授	木 村	尚 三 郎
座 長	国立小児病院院長	小 林	登

「現代の忘れ物」

講 師	ノートルダム清心学園理事長	渡 辺	和 子
座 長	副学会長、日本病院会副会長	依 田	忠 雄

(4) シンポジウム 2題

「病院の危機的現状にいかに対応するか」

司会 日本医科大学医療管理学教授

- | | | |
|----|----------------------|-------|
| 1) | 財団法人竹田総合病院副理事長 | 岩崎 榮 |
| 2) | 国立医療・病院管理研究所医療経済研究部長 | 竹田 秀 |
| 3) | 聖路加国際病院事務長 | 小山 秀夫 |
| 4) | 医療法人若弘会理事長 | 中村 彰吾 |
| | | 川合 弘毅 |

「医療と看護、その質をどう評価するか」

司会 医事評論家

- | | | |
|----|--------------|-------|
| 1) | 厚生連土浦協同病院総婦長 | 行天 良雄 |
| 2) | 厚生省健康政策局局長 | 重村 淳子 |
| 3) | 兵庫県理事 | 寺松 尚 |
| 4) | (株)厚生科学研究所所長 | 安井 博和 |
| | | 吉野 晶雄 |

(5) 一般演題 302題

7. 医療人の集い (ヨコハマ・グランド・インターコンチネンタルホテル)

8. 併設展示会 (パンフィコ横浜、3Fラウンジ)
(社)日本経営協会との共催で16社が出展

9. 参加者 延べ 6,000名

10. プログラム (別掲)

第44回 日本病院学会 日程表

世界に通ずる医療をめざして 一理想と現実一

		09時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
10/3 (月)	インターコンチネンタルホテル											学会打合せ会	
10/4 (火)	バシフィコ横浜	第1会場 (1階)	メインホール (1,000 席)	開会式	学会長講演	特別講演 (1) 西澤 潤一	特別講演 (2) 保坂 哲哉	シンポジウム (1) 「病院の危機的現状にいかに対応するか」					医療人の集い (インターコンチネンタルホテル) 午後6時30分 参加費 7,000円
		第2会場 (3階)	大会議室 (600 席)	登録受付 (1階・エントランスホール) 10/4 (火) 午前8:30~ 10/5 (水) 午前8:00~			看護部門1 看護管理 (1X2X3X4) 記録用紙		検査部門 (1X2X3) 給食・栄養部門 (1X2X3)				
		第3会場 (3階)	中会議室 (200 席)				休憩					リハビリ部門 (1X2) 放射線部門 (1X2X3)	
		第4会場 (3階)	中会議室 (200 席)				事務管理 (1X2) 診療録管理 (1X2) 病院建築・施設管理 (1X2)		看護部門2 一般看護 (1X2X3X4) 看護の質				
		第5会場 (5階)	中会議室 (360 席)										
		第6会場 (5階)	中会議室 (360 席)										
		インターコンチネンタルホテル					学会評議員会						
10/5 (水)	バシフィコ横浜	第1会場 (1階)	メインホール (1,000 席)	シンポジウム (2) 「医療と看護、その質をどう評価するか」			学会総会	公開講演 (1) 日野原重明	公開講演 (2) 木村尚三郎	公開講演 (3) 渡辺 和子	閉会式		
		第2会場 (3階)	大会議室 (600 席)	登録受付	看護部門3 患者サービス (1X2X3) マニュアル			看護部門4 老人・訪問・在宅 (1X2X3) ターミナル					
		第3会場 (3階)	中会議室 (200 席)		救急医療 (1X2)	医師部門	教育研修	中小病院		病院管理 (1X2)	情報管理		
		第4会場 (3階)	中会議室 (200 席)		薬剤部門 (1X2X3X4)			福祉部門 (1X2)		地域医療 (1X2)			
		第5会場 (5階)	中会議室 (360 席)		看護部門5 感染 (1X2) 患者心理 (1X2)			看護部門6 患者指導・援助 (1X2X3)					
		第6会場 (5階)	中会議室 (360 席)		看護部門7 改善・考案 (1X2X3X4)			看護部門8 教育・研修 (1X2X3)					
		インターコンチネンタルホテル											
10/6~8	1994年 I H F (国際病院連盟) 汎地域会議												
10/4~7	併設展示会 (バシフィコ横浜・3階ラウンジ)												

第15 第35回日本人間ドック学会

1. 学 会 長 笹森 典雄（牧田総合病院附属健診センター院長）

2. テ ー マ 多様化する人間ドックへの対応
— 総合健康評価の確立 —

3. 開催期日 平成6年10月20日(休)～21日(金)

4. 開催地 東京都・新宿区

5. 会 場 日本青年館

6. 演 題

(1) 学会長講演 1題

「多様化する人間ドックへの対応」

講 師	第35回日本人間ドック学会会長 牧田総合病院附属健診センター院長	笹 森 典 雄
座 長	岡山赤十字病院院長	依 田 忠 雄

(2) 招待講演（一般公開） 1題

「生と死 — 豊かな生きがいを求めて —」

講 師	上智大学文学部教授	アルフォンス・デーケン
座 長	牧田総合病院附属健診センター院長	笹 森 典 雄

(3) 特別講演 3題

「がんの一次予防 — ライフスタイルの立場から —」

講 師	予防がん学研究所所長	平 山 雄
座 長	岩手県立中央病院院長	小山田 恵

「脳卒中・心臓病を防ぐために」

講 師	東海大学医学部名誉教授	五 島 雄一郎
座 長	聖隷浜松病院院長	中 山 耕 作

「骨の老化とその予防」

講 師	東京大学医学部老年病学教室教授	折 茂 肇
座 長	名古屋大学総合保健体育科学センター教授	佐 藤 祐 造

(4) 臨床予防医学委員会報告 1題

「人間ドック・総合（自動化）健診全国集計成績 — 平成5年分 —」

報 告	第35回日本人間ドック学会会長	笹 森 典 雄
-----	-----------------	---------

座 長 岡山赤十字病院院長

依 田 忠 雄

(5) シンポジウム 2題

「胃・大腸癌スクリーニング方式の転換を旨として」

司 会 平塚胃腸病院院長

平 塚 秀 雄

福岡大学医学部名誉教授

井 上 幹 夫

1) Pepsinogen による胃癌ハイリスクグループのスクリーニング

東京大学医学部第一内科講師

三 木 一 正

2) 胃X線検査と胃内視鏡検査の使い分け

— スクリーニング用経鼻胃内視鏡の適応 —

大腸肛門病センター高野病院総合人間ドック副所長

野 崎 良 一

3) 大腸癌スクリーニングは便潜血反応のみでよいのか

東京医科大学内科第四講座講師

竹 下 俊 隆

4) 大腸X線検査と大腸内視鏡検査の使い分け

癌研究会附属病院総合健診センター所長

丸 山 雅 一

5) 胃・大腸癌スクリーニングにおける内視鏡の導入

関西労働保健協会附属千里LC健診センター所長

青 池 晟

6) 人間ドックにおける大腸検査のあり方

— 胃検診との関係について —

平塚胃腸病院内科

高 橋 秀 理

特別発言

仙台市医療センター仙台オープン病院院長

望 月 福 治

「多様化した専門ドックとその問題点」

司 会 東京警察病院顧問

鈴 木 豊 明

聖路加国際病院予防医療センター所長

日野原 茂 雄

1) 脳ドックの立場から

千葉脳神経外科病院院長

水 上 公 宏

2) 骨ドックの立場から

牧田総合病院附属検診センター

杉 森 裕 樹

3) 感覚ドックの立場から

神尾記念病院院長

神 尾 友 和

4) ストレスドックの立場から

日本大学医学部第一内科講師

村上 正人

5) シニア・レディスドックの立場から

日本赤十字社熊本健康管理センター所長

小山 和作

特別発言

1) 東京警察病院循環器センター部長

井上 清

2) 朝日新聞東京本社科学部編集委員

田辺 功

3) 日本人間ドック学会理事長
岡山赤十字病院院長

依田 忠雄

(6) ワークショップ 1題

「総合健康評価へのアプローチ」

司会 三井記念病院総合健診センター顧問

清瀬 闊

聖路加国際病院SLクリニック院長

安藤 幸夫

1) 問診と現状の問題点

聖マリアンナ医科大学公衆衛生学教室教授

吉田 勝美

2) 検査数値の読み方の現状と問題点

三井記念病院総合健診センター顧問

清瀬 闊

3) 体力測定、指導の現状と問題点

筑波大学体育科学系教授

鈴木 正成

4) 栄養指導の現状と問題点

東京医科大学総合健診部講師

仲 眞美子

女子栄養大学健康情報科学教授

武藤 志真子

5) 総合健診システムの現状と問題点

秋田赤十字病院健康増進センター部長

宮下 正弘

6) 二次検診の現状と問題点

東北厚生年金病院名誉院長

後藤 由夫

特別発言

聖路加国際病院院長

日野原 重明

(7) ミニシンポジウム 1題

「病診連携から見た今後の『人間ドック』の位置付け」

司会 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室教授

近藤 健文

- | | | |
|--------------------------|---------------------------------|--------|
| | 新潟市民病院院長 | 木村 明 |
| 1) 健診機関の立場から | | |
| | 聖隷健康診断センター所長 | 臼田 多佳夫 |
| 2) 企業の立場から | | |
| | 千葉産業保健推進センター所長 | 荘司 榮徳 |
| 3) 地域保健の立場から | | |
| | 埼玉県坂戸保健所所長 | 國枝 寛 |
| 4) 健康保険組合の立場から | | |
| | 健康保険組合連合会・保健婦業務室室長 | 飯島 美世子 |
| 5) 情報連携の立場から | | |
| | 東邦大学医学部衛生学教室講師 | 伊津野 孝 |
|
(8) ランチョンセミナー 4題 | | |
| | 「骨粗鬆症の予防における骨量測定的重要性」 | |
| | 講師 成人病診療研究所所長 | 白木 正孝 |
| | 司会 国立健康・栄養研究所健康増進部長 | 太田 壽城 |
| | 「上部消化管X線検査と診断 — 二重造影を中心とした —」 | |
| | 講師 癌研究会附属病院内科副部長兼放射線診断科副部長 | 馬場 保昌 |
| | 司会 早期胃癌検診協会中央診療所院長 | 池延 東男 |
| | 「新時代に向けたHbA _{1c} の自動化」 | |
| 1) 人間ドックの立場から | | |
| | 講師 牧田総合病院附属健診センター | 高橋 英孝 |
| 2) 糖尿病の立場から | | |
| | 講師 三井記念病院糖尿病科科長 | 柴 輝男 |
| | 司会 三井記念病院総合健診センター顧問 | 清瀬 闊 |
| | 「ペプシノゲン検査による胃集検」 | |
| 1) ペプシノゲン検査による胃がん検診の評価 | | |
| | 講師 日本赤十字社熊本健康管理センター健診部長 | 三原 修一 |
| 2) 人間ドックにおけるペプシノゲン検査の使い方 | | |
| | 講師 神奈川県予防医学協会理事・消化器科部長 | 青木 誠孝 |
| | 司会 日本鋼管病院副院長 | 大川 日出夫 |

(9) 一般演題 197題

7. 併設展示会

医療関係機器等の展示、実演

8. 参加者 1,800名（招待者、関係者含む）

9. プログラム（別掲）

第35回日本人間ドック学会日程

第1日 10月20日(木)

時分	第1会場 (メインホール)	第2会場 (鶴の間)	第3会場 (亀の間)	第4会場 (501)	第5会場 (502)	第6会場 (503)	第7会場 (Gルーム)
8:50	受付						
9:20	開会式						
9:40	学会長講演 (臨床予防医学 委員会報告)	←「多様化する人間ドックへの対応」 荻森典雄 ←「人間ドック・総合(自動化)健診全国集計成績報告」 荻森典雄					
10:20	シンポジウムI						
11:00	「胃・大腸癌 スクリーニング 方式の転換 を旨として」	「骨粗鬆症の予防における骨量測定的重要性」					
12:00		「上部消化管X線検査と診断 — 二重造影を中心とした —」					
12:40	休憩	リフォーメー-I	リフォーメー-II	休憩			評議員会
13:40	総会						
14:00	特別講演I	←「がんの一次予防 — ライフスタイルの立場から —」 平山 雄					
15:00	ワークショップ 「総合健康診 査へのアプロ ーチ」	糖代謝 15:00~ 13題	健診システム 15:00~ 13題	栄養 15:00~ 9題	肥満 15:00~ 14題	消化管-I 15:00~ 14題	肝胆脾 15:00~ 11題
17:00		健康増進-I 16:31~ 3題		病診連携 ミニシンポジウム 「病診連携から見た 今後の人間ドックの 位置付け」 16:30~ 17:50	喫煙 16:38~ 6題	腹部超音波 16:38~ 7題	消化管-II 16:17~ 9題
17:20					循環器-I 17:20~ 3題		甲状腺 17:20~ 5題
18:00	懇親会(富士の間)						

第2日 10月21日(金)

時分	第1会場 (メインホール)	第2会場 (鶴の間)	第3会場 (亀の間)	第4会場 (501)	第5会場 (502)	第6会場 (503)	第7会場 (Gルーム)
9:00	消化管-III 9:00~ 8題	頭部-I 9:00~ 6題	頭部-II 9:00~ 6題	骨 9:00~ 5題	ストレス 9:00~ 9題	シニア・他 9:00~ 6題	レディス 9:00~ 7題
10:00	シンポジウムII	泌尿器 9:42~ 6題	問診 9:42~ 6題	循環器-II 9:35~ 11題	健康増進-II 10:03~ 4題	追跡調査 9:42~ 7題	脂質 9:49~ 6題
11:00	「多様化した 専門ドックと その問題点」	「新時代に向けたHbA1cの自動化」					
12:00		「ペプシノゲン検査による胃業検」					
12:20	休憩	リフォーメー-III	リフォーメー-IV	休憩			臨床予防医学委 員会認定委員会
13:20	特別講演II	←「脳卒中・心臓病を防ぐために」 三島雄一郎					
14:20	特別講演III	←「骨の老化とその予防」 折茂 肇					
15:20	閉会式						
15:40	招待講演 (公開講演)	←「生と死 — 豊かな生きがいを求めて —」 アルフォンス・デーケン					
16:40							
17:00							

第16 第20回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 大村 一郎 (国立呉病院名誉会長)

2. 開催期日 平成6年9月8日(木)・9日(金)

3. 開催地 広島県・呉市

4. 会 場 呉市文化ホール

5. 演 題

(1) 特別講演

「ルネッサンス絵画と解剖学のあけぼの」

大阪大学 名誉教授 藤 田 尚 男

司 会 日本診療録管理士協会 顧問 栗 田 静 枝

「これからの医療体制と保険」

厚生省 大臣官房長 岡 光 序 治

司 会 国立呉病院 名誉院長 大 村 一 郎

(2) 会長講演

「戦争中の診療録」

国立呉病院 名誉院長 大 村 一 郎

司 会 国立津病院 名誉院長 岡 崎 通

(3) シンポジウム I

「看護記録のあり方」

司 会 聖路加国際病院 副院長・看護部長 井 部 俊 子

1 診療記録管理の立場から見た看護記録

聖路加国際病院診療記録管理科 (科長) 鳥 羽 克 子

2 看護記録の課題と展望

日本赤十字看護大学 教授 橘 雅 子

3 看護記録改善への取り組み

聖路加国際病院 婦長心得 中 村 めぐみ

4 情報システムとしての看護記録の実践と展開

国立肥前療養所 看護婦長 山 崎 不二子

5 チーム医療の中の看護を考える

広島市立安佐市民病院 名誉院長 岩 森 茂

予定発言

看護業務支援システムの開発計画

国立呉病院 看護婦長 富永理子

(4) シンポジウムⅡ

「学会創立20年のまとめ」

司会 日本医科大学医療管理学教室 主任教授 岩崎 榮

1 診療録管理と医療情報管理

名古屋大学医学部附属病院医療情報部 教授 山内 一信

2 病院情報の多角的利用と将来

国立がんセンター研究所 渡邊 昌

3 病院の診療記録管理についての現況調査

新潟市民病院 院長 木村 明

4 第12回、13回学会提言について、その経過と結論、更なる提言

京都私立病院協会立京都保健衛生専門学校講師 大町 文子

5 医療行政と診療録管理

厚生省健康政策局 医事課長 今田 寛睦

特別発言

公立能登病院 院長 村本 信吾

国立名古屋病院 院長 安井 昭二

(5) 一般演題41題

演題 1～4

管理システムの構築

座長 医療法人社団日鋼記念病院 院長 西村 昭男

1. パソコンを利用した病歴管理システムの紹介

医療法人聖十字会西日本病院病歴室 樽山 政治

2. 院内開発による「病歴室システム」

武蔵野赤十字病院病歴室 河野 牧子

3. 新棟設立後、順天堂医院の診療録管理について

順天堂大学医学部附属医院診療録管理室 丸林 葉子

4. 大学病院の外来診療録管理

慶応義塾大学病院中央病歴室 柳川 範子

演題 5～8

コンピュータ利用技術

座 長 国立病院九州医療センター統計病歴係長 阿 南 誠

5. リレーショナルデータソフトによる脳神経外科診療録管理

国立横須賀病院脳神経外科 露 無 松 平

6. 診療録管理のための医療データベースの基本構想

川崎医療福祉大学医療情報学科 坂 東 良 一

7. パーソナルコンピュータを使用した診療録管理の試み

(FDを利用して)

国家公務員等共済組合連合会横浜栄共済病院 武 田 喜久子

8. 院内電話回線を利用したパソコン通信による病歴情報の伝達システムの作成とその問題点

国立名古屋病院病歴管理室 新 実 光 朗

演題 9～13

管理システムの運用

座 長 高松赤十字病院 診療録管理士 植 田 千鶴子

9. 福井赤十字病院病歴管理検索システムについて

福井赤十字病院医事課病歴室 渡 辺 速 美

10. 外来フィルムの中央管理

— 特にコンピュータによるアライバイ管理 —

聖路加国際病院放射線科 菅 谷 和 代

11. 聖マリアンナ医科大学病院放射線部におけるシネフィルムの管理

聖マリアンナ医科大学病院放射線部フィルム室 根 本 良 洋

12. 診療録および診療資料管理規程の遵守 — 廃棄への取り組み —

杏林大学医学部付属病院病歴室 小 林 恵

13. 電動式診療録収納棚の損耗更新作業について

東海大学医学部付属病院病歴管理センター 曾 我 のり子

演題14～18

指定課題 I 「新たな病歴管理室の展望」

診療録管理の現状と改善

座 長 日本大学医学部医療管理学教室 助教授 梅 里 良 正

14. 中小規模・地方病院の診療録管理の実状と課題
— 診療録管理室の展望をつくるために —
宮城厚生協会坂総合病院 村口 至
15. 北海道内主要病院における診療録管理の現状
— アンケート調査をもとにして —
日鋼記念病院中央病歴室 佐藤 正子
16. 病歴室運営と医療情報活用
日生病院病歴図書室 小坂 清美
17. 当院における病歴業務と病歴情報管理の現状と将来展望
東海大学医学部地域保健学 鈴木 荘太郎
18. 診療録管理室の近未来の展望
— 診療録管理システムの改善・開発の視点から —
杏林大学医学部付属病院病歴室 信川 益明
- 演題19～24
- 指定課題Ⅰ 「新たな病歴管理室の展望」
病歴管理の新たな展開
- 座長 川崎医療短期大学 助教授 草信 正志
19. 米国がかかえている新たな医療問題
東京衛生病院 R R A 菊池 優子
20. 病歴情報の診療評価への活用
日本大学医学部医療管理学教室 梅里 良正
21. 当院外来診療録よりみた初診患者動向
東海大学医学部地域保健学 吉岡 恵美子
22. 救急医療と診療録管理室の関わり
新潟市民病院診療情報部病歴室 高橋 雅代
23. 病歴管理の中での訪問看護記録の実際
日本大学医学部附属板橋病院病歴課 大澤 勇
24. 安心・安全な医療のためのリスクマネジメント
社会保険小倉記念病院診療録管理室 三宅 裕子

演題25～29

診療録管理業務の改善

- 座長 淀川キリスト教病院 病歴室顧問 酒井 隆子
25. 診療録管理業務の作業改善の試みとその評価
杏林大学医学部付属病院病歴室 松岡 三香
26. 診療録管理システムの在り方に関する研究
— 運用面からの作業改善について —
杏林大学医学部付属病院病歴室 山川 桂子
27. 当院における診療録管理の課題
— より完成された診療録を作成するために —
総合病院岡山赤十字病院図書病歴課 難波 淳子
28. 病歴システムにおける病歴要約出力の効果と問題点
聖隷浜松病院医事課資料係 笹ヶ瀬 慶造
29. 就職後の日病通教診療録管理士資格取得とその活動状況 その2
国際医療管理専門学校 大槻 澄夫

演題30～34

病歴データの解析

- 座長 北九州市立医療センター医療情報管理室 寺延 美恵子
30. パソコンによる退院診療録管理（第2報）
— 過去3年間のデータから —
秋田県厚生連由利組合総合病院 村井 智
31. 入院患者における疾患別在院日数の検討
川崎医療福祉大学医療技術学部医療情報学科 谷口 和夫
32. 名大病院における疾患別在院日数の検討
名古屋大学医学部附属病院医療情報部 水野 智
33. 病院機能評価の試み
東邦大学医学部病院管理学研究室 田久 浩志
34. 診療録の記載上からみた悪性新生物の告知について
北里大学病院中央診療施設系病歴センター部 佐藤 悦子

演題35～37

診療録の情報保護（セキュリティ）

- | | | | |
|-----|----------------------------|-----------------------|--------|
| | 座長 | 島根県立中央病院 院長 | 瀬戸山 元一 |
| 35. | 診療録管理室の運営上の問題とその対策 | 東海記念病院診療録管理室 | 高地 均 |
| 36. | 診療録のアクセス権についての医師の意識 | 自治医科大学附属大宮医療センター医療情報部 | 渡邊 亮一 |
| 37. | レセプト作成業務外部委託と行政書士法をめぐる法的問題 | 近畿大学医学部公衆衛生学教室 | 岡本 悦司 |

演題38～41

指定課題Ⅱ 「オーダーリングと病歴管理」

- | | | | |
|-----|----------------------------------|-----------------------|--------|
| | 座長 | 神戸市立中央市民病院 小児科部長 | 西尾 利一 |
| 38. | 当院におけるオーダーリング情報の利用について | 日鋼記念病院中央病歴室 | 竹浪 ひとみ |
| 39. | 病院情報システムに蓄積された診療データの検索依頼内容の分析 | 自治医科大学附属大宮医療センター医療情報部 | 渡邊 亮一 |
| 40. | 新医療情報システムの試み | 国立病院九州医療センター | 上野 道雄 |
| 41. | 大阪大学病院におけるオーダーリング／レポートシステムと診療録管理 | 大阪大学医学部附属病院医療情報部 | 武田 裕 |

実参加数 924名

第20回日本診療録管理学会日程表

第 1 日 9 月 8 日 (木)

第 2 日 9 月 9 日 (金)

9:00	受 付
9:30	開会挨拶 会長講演 「戦争中の診療録」大村一郎
9:40	
10:00	一般演題(1) 管理システムの構築 (演題No.1～4) 一般演題(2) コンピュータ利用技術 (演題No.5～8) 一般演題(3) 管理システムの運用 (演題No.9～13)
12:10	昼食休憩
13:00	総 会
13:30	指定課題 I 「新たな病歴管理室の展望」 診療録管理の現状と改善 (演題No.14～18) 病歴管理の新たな展開 (演題No.19～24)
15:50	シンポジウム I 「看護記録のあり方」
18:30	懇親会 (シティプラザ カンコー)
20:00	

9:00	受 付
9:30	一般演題(4) 診療録管理業務の改善 (演題No.25～29) 一般演題(5) 病歴データの解析 (演題No.30～34)
11:10	特別講演 「ルネッサンス絵画と解剖学の あけぼの」 藤田尚男
12:10	昼食休憩
13:00	シンポジウム II 「学会創立20年のまとめ」
15:10	一般演題(6) 診療録の情報保護 (演題No.35～37)
15:40	指定課題 II 「オーダリングと病歴管理」 (演題No.38～41)
16:20	特別講演 「これからの医療体制と保険」 岡光序治
17:30	閉会挨拶

併設展示：シティプラザ カンコー
3 階 鳳 凰 B

8 日 9:30～17:00

9 日 9:30～16:00

第17 '94国際モダンホスピタルショウ

- (1) テーマ : 医療と生活をつなげる—21世紀への保健、医療、福祉の展開
- (2) 会期 : 平成6年7月7日(木)～9日(土)
午前10時～午後5時 (ただし、入場は午後4時30分まで)
- (3) 会場 : 東京・池袋サンシャインシティ文化会館2・3・4階 (展示)
東京・池袋サンシャインシティ文化会館5・7階 (セミナー)
(〒170 東京都豊島区東池袋3-1-4)
- (4) 面積 : 会場面積7,000㎡ 展示面積2,600㎡
- (5) 主催 : 社団法人 日本病院会
社団法人 日本経営協会
- (6) 後援 : 厚生省 外務省 通商産業省 郵政省 自治省 消防庁 東京都 日本貿易振興会
助製品輸入促進協会 (社)日本医師会 (社)日本歯科医師会 (社)日本薬剤師会 (社)日本看護協会 (助)医療情報システム開発センター (助)日本医薬情報センター (助)医療機器センター (助)医療関連サービス振興会 (社)全国自治体病院協議会 (社)全日本病院協会 (社)日本精神病院協会 (社)日本医療法人協会 全国公私病院連盟 (社)日本病院薬剤師会 (社)日本栄養士会 (社)日本放射線技師会 (社)日本臨床衛生検査技師会 (社)日本理学療法士協会 (社)日本作業療法士協会 (社)全国病院理学療法協会 (社)東京都臨床衛生検査技師会 (順不同)
- (7) 協賛 : 全国社会福祉協会 日本医療機器関係団体協議会 (社)日本エム・イー学会 (社)日本放射線機器工業会 (社)日本電子機械工業会 日本薬科機器協会 日本医科器械商工団体連合会 日本医用機器工業会 日本医療器材協会 日本人工臓器工業協会 日本理学療法器材工業会 日本医用光学機器工業会 日本分析機器工業会 (社)日本衛生検査所協会 (社)日本衛生材料工業連合会 (助)日本医療食協会 (社)日本ホームヘルスケア機器工業会 (社)日本病院寝具協会 (社)日本病院建築協会 (社)全国消防機器協会 日本保健医療情報システム工業会 日本在宅医療福祉協会 (社)東京都医療社会事業協会 (順不同)
- (8) 展示内容
1. 環境・設備関係
 2. 医療機器・医療材料関係
 3. 医療情報システム・事務機器関係
 4. 院内物流システム関係

5. ホームヘルスケア・リハビリ機器関係
6. 患者サービス関係
7. 人材教育・その他

(9) 特別企画事業

医療機器・医療情報・ホームケア3部門の委員の合同による企画展示

テーマ：「医療と生活をつなげる－21世紀への保健、医療、福祉の展開」

展示内容：〔保健ゾーン〕個人健康情報管理システムや、セルフチェック機器など

〔医療ゾーン〕在宅医療機器や、医療教育情報システムなど

〔福祉ゾーン〕福祉相談支援システムや、形状記憶ポリマーによる自助具など

更に、各種の施設、サービス、施策などの紹介、医薬品に関する課題などについてもパネル展示

(10) セミナー

1. セミナー（主催・社日本病院会）
 - ① 病院情報センターワークショップ
 - ② 病院医療の質を考えるセミナー
2. セミナー（主催・社日本経営協会）
 - ① これからの病院を考える－医療と生活をつなげる病院とは
 - ② 医療廃棄物問題セミナー
 - ③ 高齢化社会への動き－在宅ケアの展開

(11) 展示規模

'94	157社／7,000㎡（展示面積 2,600㎡）
'93	149社／6,500㎡（展示面積 2,700㎡）
'92	157社／7,700㎡（展示面積 3,200㎡）
'91	176社／7,700㎡（展示面積 3,450㎡）

※輸入製品展示について

日本国内で取り扱っている海外製品及び海外直接出展製品が下記の在日大使館の協力を得て展示された。

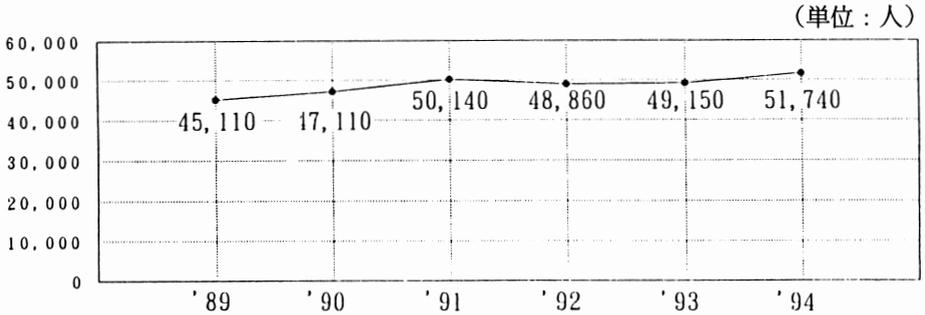
USトレードセンター・イギリス大使館・オランダ大使館・スウェーデン大使館・デンマーク大使館・ドイツ商工会議所・イタリア大使館（順不同）

(12) 来場者数

総入場者数：51,740人（昨年49,150人）

※ 団体見学（医療専門学校）17校 2,512人（昨年 18校 1,682人）

国際モダンホスピタルショウ来場者推移



	'94（第21回）	人 数	'93（第20回）	人 数
第1日	7月7日(木)	16,530	7月8日(木)	16,280
第2日	7月8日(金)	21,660	7月9日(金)	18,800
第3日	7月9日(土)	13,550	7月10日(土)	14,070
	合 計	51,740	合 計	49,150

(13) パブリシティ活動・成果

主催者ならびに出展社から、病院関係者、ユーザーに対し40万部の招待状が発送されたほか、種々の媒体を通じ'94国際モダンホスピタルショウのPR、そしてニュースリリース、各種印刷物を作成し積極的なパブリシティ活動を展開した。

また、日本テレビによる取材、海外メディアからの取材も受けた。

(1) ポスター（制作部数：3,000部）

全国の病院および出展社・協賛団体を中心に配布。

(2) ポスターの掲示

サンシャインシティ周辺常設掲示板および営団地下鉄7路線20駅

- ①銀座線……………神田
- ②丸の内線……………池袋・後楽園・東京・銀座・赤坂見附・四谷・新宿三丁目
- ③日比谷線……………日比谷・六本木
- ④東西線……………高田馬場
- ⑤千代田線……………大手町・明治神宮前

⑥半蔵門線……………表参道

⑦有楽町線……………営団成増・要町・東池袋・飯田橋・市ヶ谷・有楽町

(3) 特別招待状（制作部数：1,000部）

出展社、後援・協賛団体、主催団体会員等に配布。

(4) 招待状（制作部数：400,000部）

(株)日本病院会会員病院、ホスピタルショー後援・協賛団体、委員会委員、出展社および社会福祉施設・保健所等に配布。

第18 1994年国際病院連盟汎地域会議

- | | |
|-----------|---|
| 1. 会議のテーマ | ヘルスケア —その理想と現実 |
| 2. 会 期 | 平成 6年10月 6日（木）～ 8日（土） 3日間 |
| 3. 会 場 | パシィフコ横浜
神奈川県横浜市西区みなとみらい一丁目1番1号 |
| 4. 主 催 | 社団法人日本病院会 |
| 5. 共 催 | 国際病院連盟（International Hospital Federation）
アジア病院連盟（Asian Hospital Federation） |
| 6. 後 援 | 厚生省
文部省
日本学術会議
日本医師会
神奈川県
横浜市 |

7. 参加者数 453名 同伴者69名 計522名
 (内、海外157名 同伴者45名 計202名)

8. 参加国数 37ヶ国

8-2. 参加国 同内訳

	本人	同伴者		本人	同伴者
アルゼンチン	6		ケニア	1	
オーストラリア	8	3	韓国	12	6
ベルギー	2	1	モンゴル	1	
ブラジル	2	1	オランダ	8	4
カナダ	4	1	ナイジェリア	1	
中国	5		ノルウェー	1	
キューバ	1		パキスタン	1	
デンマーク	1		フィリピン	3	1
フィンランド	2	1	ポーランド	3	1
フランス	7		ポルトガル	1	2
ドイツ	6	3	南アフリカ	1	
ギリシャ	1		スペイン	9	3
ホンコン	15	1	スウェーデン	4	
ハンガリー	2	1	スイス	1	
インド	1	1	台湾	12	2
インドネシア	8	1	アラブ首長国連邦	2	
イスラエル	3	2	英国	6	2
イタリア	2	1	米国	14	7
日本	*296	24			
			計	453	69

注) * 留学生 8名を含むも、看護学生 296名は含まれていない。
 同伴 2名は海外参加者の同伴。

会議日程表

	10/5 (水)	10/6 (木)	10/7 (金)	10/8 (土)
8:00		メインホール (1F)	メインホール (1F)	メインホール (1F)
9:00		PL. S. 1 (9:00-10:00) 開会式	Conc. S. 1 (9:00-10:30) 医療費抑制： 管理への挑戦	Conc. S. 2 (9:00-10:30) AHF フォーラム： アジアにおける 医療保険制度
10:00		PL. S. 2 (10:00-10:45) 基調講演 1 Robert J. MAXWELL 「豊かな国の課題」		Conc. S. 3 (9:00-10:30) Part I: 治療的環境のデザイン (建築)
11:00		PL. S. 3 (11:00-11:45) 学会長講演 諸橋 芳夫 「日本の医療システム」	Conc. S. 6 (10:45-12:15) 医療管理者教育	Conc. S. 5 (10:45-12:15) 伝統医学(漢方)の 現代的役割
12:00		昼 食	Conc. S. 3 (10:45-11:30) Part II: 治療的環境のデザイン・ 高齢者のケア	PL. S. 7 (10:00-12:45) 公開シンポジウム 「あなたの明日を 誰が見る」
13:00		昼 食	Conc. S. 4 (11:30-12:15) 看護婦の新しい役割	PL. S. 8 (12:45-13:30) 閉会式
14:00		ホスピタルビジット	PL. S. 4 (13:15-16:15) パネルディベート 医療における公的、 私的部門についての ディベート	
15:00			PL. S. 5 (16:30-17:15) 特別講演 藤正 巖 「見えない機械・生体を測る」	
16:00				
17:00			バンケット (ディナークルーズ)	
18:00		ウェルカム レセプション		

登録受付

登録受付

ポスターセッション/ビデオアンドフォトセッション

登録受付

ポスターセッション/ビデオアンドフォトセッション

登録受付

ポスターセッション/ビデオアンドフォトセッション

9. 会議内容

(10月6日)

Plenary session 1 開会式 9:00~10:00

アトラクション：雅楽「陪臚」

開会宣言：河北 博文 組織委員長

学会長挨拶：諸橋 芳夫 社団法人日本病院会 会長

IHF 会長挨拶：Jur Klaus Prossdorf 国際病院連盟会長

来賓祝辞：井出 正一 厚生大臣（代理；寺松 尚健康政策局長）

村瀬 敏郎 日本医師会長

長洲 一二 神奈川県知事

高秀 秀信 横浜市長（代理；坂本信夫衛生局長）

Plenary session 2 基調講演 1 10:00 ~10:45

「豊かな国の課題：医療資源の適正かつ公正な利用」

座長：J.M.Caldeira da Silva (National School Public Health ポルトガル)

講演者：Robert J. Maxwell (キングス財団 最高執行者 イギリス)

Plenary session 3 学会長講演 11:00 ~11:45

「日本の医療システム」

座長：牧野 永城 (亀田総合病院 日本)

講演者：諸橋 芳夫 (社団法人日本病院会 会長 日本)

ホスピタルビジット 12:45 ~17:00

ウェルカムレセプション 18:00 ~20:00

アトラクション：狂言「お茶の水」

(10月 7日)

Concurrent session 1

9:00~10:30

「医療費抑制：管理への挑戦」

座 長：Sture Sjolund (Stockholm Care AB スウェーデン)

池上 直己 (慶応義塾大学医学部 日本)

講演者：

C1-1 「施設からオープン・ケアへ—2000年までのフィンランドの保健医療制度の構造的変化」

Jorma Antero Back

フィンランド地方自治体協会(フィンランド)

C1-2 「韓国全土で実施されたパフォーマンスの分析」

Youngsoo Shin

韓国医療管理研究所(韓国)

C1-3 「適正な患者数、平均在院日数と経営戦略」

濃沼 信夫

東北大学医学部(日本)

C1-4 「組織の再構築—質と責任の向上」

Michael James Scarlett

クィーン・エリザベス・センター(オーストラリア)

C1-5 「台湾で初めてのインセンティブ方式を採用したグループプラクティス」

Chin-Un Chang

Shin Kong 病院(台湾)

C1-6 「日帰り手術：ホームケアが術後の病院治療に代わる」

Evert-Jan Van Beek

T Lange Land病院(オランダ)

Concurrent session 2

9:00~10:30

「AHFフォーラム：アジアにおける医療保険制度」

座 長：Doo Jin Hahn (韓国病院協会 韓国)

北川 定謙 (財団法人食品薬品安全センター 日本)

講演者：

C2-1 「日本の医療制度の概説—世界最長の平均余命の背景」

本松 研一

宮崎県立宮崎病院(日本)

- C2-2 「韓国における健康保険制度の改革」
Ok Ryun Moon
国立ソウル大学公衆衛生学部（韓国）
- C2-3 「台湾の国民健康保険：実施にあたってのこれまでの進捗と問題」
Min-Shen Yang
中華民国病院協会（台湾）
- C2-4 「フィリピンの健康保険」
Thelma N. Clemente
フィリピン病院協会（フィリピン）
- C2-5 「インドネシアにおける医療財政改革と病院業界に対する影響」
Samsi Jacobalis
インドネシア病院協会（インドネシア）
- C2-6 「国民皆保険以後：21世紀の医療の建築に対する影響」
George J. Mann
テキサスA&M 大学建築学部（米国）

Concurrent session 3 Part I

9:00~10:30

- 「治療的環境のデザイン（建築）」
座長：R. J. Sahl（国際建築家連盟公衆衛生グループ ドイツ）
伊藤 誠（日本病院建築協会 日本）
- C3-1 「アスクレピオス神殿の治療環境－古代に学ぶ」
Sophia Chatzicocoli-Syrakou
マケドニアテッサロニキ・アリストテリオン大学建築学部（ギリシャ）
- C3-2 「ヘルスケアにおける治療環境の設計と増大するその役割」
Wayne Ruga
ヘルス・デザイン・センター（米国）
- C3-3 「治療過程を支える適切な病室環境の設計」
Andrzej Edmund Galkowski
ボズナニ工科大学（ポーランド）
- C3-4 「病棟設計の進展」
Viren Sahai
建築家、都市設計コンサルタント（イギリス）
- C3-5 「積極的な治療環境の保証」
Donald C. Axon
アメリカ建築家協会ヘルスケア部会（米国）

C3-6 「地理的環境としての病院建築」

長沢 泰

東京大学工学部建築学科（日本）

Concurrent session 3 Part II

10:45 ~11:30

「治療的環境のデザイン（建築）・高齢者のケア」

座 長：W.M.Darling （South of Tyne DHA イギリス）

長沢 泰 （東京大学工学部建築学科 日本）

講演者：

C3-7 「治療を助ける建築設計戦略」

James O. Jonassen

NBBJ社（米国）

C3-8 「病院設計における治療環境」

Moshe Zarhy

ザリー建築設計事務所（イスラエル）

C3-9 「高齢者ケアの新しい試み」

John Johnston

国際病院連盟（カナダ）

Concurrent session 4

11:30 ~12:15

「看護婦の新しい役割」

座 長：Maj-Len Sundin （Aker Hospital ノルウェー）

荒井蝶子 （聖路加看護大学 日本）

講演者：

C4-1 「日本における看護婦の役割と専門性の将来」

竹股喜代子

亀田総合病院（日本）

C4-2 「看護婦の新しい役割－財政管理者としての看護婦」

Choko Sumiyoshi

ワシントン・プロビデンス病院（米国）

C4-3 「An Interpretive Study of Everyday Practices

by Experienced Psychiatric Nurses」

中山洋子

聖路加看護大学（日本）

Concurrent session 5

10:45 ~12:15

「伝統医学（漢方）の現代的役割」

座 長：Juljan D. Czapski

（Federacao Nacional dos Estabelecimentos de Sevidos de Saude ブラジル）

高橋 勝三 （武蔵野赤十字病院 日本）

講演者：

C5-1 「西欧の近代医学における鍼療法の現状と将来の可能性」

Jean Bossy

ニーム大学病院センター（フランス）

C5-2 「台湾における漢方と西洋医学の統合に関する発展状況」

Min-Hou Hwang

Show Chwan記念病院（台湾）

C5-3 「中国における漢方の科学化の試み」

金 恩源

中日友好医院中西医結合研究室（中国）

C5-4 「なぜ 日本人医師は漢方を処方するのか」

小林 登

国立小児病院（日本）

C5-5 「中国における漢方医学の現状と展望」

李 文瑞

北京医院 漢方医科（中国）

C5-6 「現代における伝統医学の役割－鍼灸医学の立場から」

矢野 忠

明治鍼灸大学（日本）

Concurrent session 6

10:45 ~12:15

「医療管理者教育」

座 長：Youngsoo Shin （韓国医療管理研究所 韓国）

紀伊國献三 （東京女子医科大学 日本）

講演者：

C6-1 「文化の最前線：医師向け病院経営教育の再編」

Jane Elizabeth Shaw

英国子供救済基金パキスタンノース・ウエスト・フロンティア政府保健省
（パキスタン）

- C6-2 「中国における医療経営教育」
Zhixing Chen
上海第二医科大学（中国）
- C6-3 「病院医師に対する管理教育」
大津正典
旭中央病院（日本）
- C6-4 「ポーランドにおける医療経営教育と改革」
Danuta Wiewiora-Pilecka
ワルシャワ大学院医療センター（ポーランド）
- C6-5 「日本の病院管理者のマネジメント教育に関する調査」
大道 久
日本大学医学部（日本）
- C6-6 「Changing Hospital Administration Education
for a Changing Healthcare System」
David B. Starkweather
カルフォルニア大学 バークレー校（米国）

Plenary Session 4 パネルディベート

13:15 ～16:15

「医療における公的、私的部門についてのディベート」

座長：Alain de Wever（Glaxo Belgium S.A. ベルギー）
河北博文（河北総合病院 日本）

講演者：

- P4-1 「健康的な未来へ向けて」
John Wyn Owen
（オーストラリア）
- P4-2 「インドネシアにおける政府規制と市場競争の最適化と統合」
H. Soejoga
WHO/インドネシア保健省（インドネシア）
- P4-3 「オランダの医療システム：調整の過渡期中断か」
Ton Krol
オランダ保健医療団体連合会（オランダ）
- P4-4 「スペインの医療システム：計画と市場の間」
Ricard Marti Gutierrez
カタロニア赤十字（スペイン）

P4-5 「日本の保健医療分野での公私の役割の再定義」

池上直己

慶応義塾大学医学部（日本）

P4-6 「市場に基く改革の例を示す先導者として」

Fred Millis

ミズーリ・バプテスト医療センター（米国）

P4-7 「分権化された利益センター組織における費用抑制」

Arne Bjornberg

北スウェーデン大学病院（スウェーデン）

P4-8 「医師への資源管理の分権」

York Y.N. Chow

クィーン・エリザベス病院（香港）

Plenary Session 5 特別講演

16:30 ~17:15

「見えない機械・生体を測る」

座長：小林 登 国立小児病院（日本）

講演者：藤正 巖 東京大学先端科学技術研究センター教授（日本）

(10月 8日)

Plenary Session 6 基調講演 2

9:00~9:45

「健康に老いるには：西太平洋地域における新しい試み」

座 長：Gunnar Schioeler National Board of Health (デンマーク)

講演者：Sang Tae Han 世界保健機構西太平洋地域事務局長 (韓国)

Plenary Session 7 公開シンポジウム

10:00 ~12:45

「あなたの明日を誰が見る」

座 長：行天良雄 医事評論家 (日本)

講演者：隅谷三喜男 社会保障制度審議会会長 (日本)

Robert N. Butler マウントサイナイ医科大学老年学部長 (米国)

John Johnston 国際病院連盟 (カナダ)

Nigel Martin 世界高齢者団体連盟 (IFA) 事務局長 (カナダ)

橋本大二郎 高知県知事 (日本)

閉 会 式

12:45 ~13:30

座 長：Errol Pickering (国際病院連盟事務総長)

アトラクション：琴演奏「六段の調べ」

会議総評：Errol Pickering (国際病院連盟事務総長)

挨拶：Ferdinand Siem Tjam WHO

次期会議

プロモーション：Istvan Mikola (ハンガリー)

謝 辞：Errol Pickering (国際病院連盟事務総長)

閉会宣言：牧野永城 (学術委員長)

9-2. 開 会 式

1)実施日時 10月6日(木)9:00~10:00

2)次 第 司会 田原ルツ(亀田総合病院)

9:00~9:20	雅楽「陪臚」 ^{はいろ}	*佼成雅楽会
9:25~9:28	開会宣言	河北博文組織委員長
9:28~9:33	学会長挨拶	諸橋芳夫日本病院会会長
9:33~9:40	挨拶	プロスドルフIHF会長
9:40~9:45	来賓祝辞	井出正一厚生大臣 (代理;寺松尚健康政策局長)
9:45~9:50		村瀬敏郎日本医師会会長
9:50~9:55		長洲一二神奈川県知事
9:55~10:00		高秀秀信横浜市長 (代理;坂本信夫衛生局長)

*佼成雅楽会

(舞人)高山欣也	(笙)片山浩利	(箏)植木幹雄	(龍笛)寺本恭章
長田明子	星野匡男	桃沢啓之	平原良浩
酒井廣江	宮城由章	栗山和巳	市川泰弘
吉野真代	上松利光	佐藤師子	大谷昌巳
			内田恭司

(鞆鼓)西村身知子(太鼓)村上貢一(鉦鼓)田中延枝

(その他)衣装方 大槻真一郎 進行 相沢教雄

9-3 ホスピタルビジット

1)実施日時 10月 6日(木) 12:45 ~17:00

2)見 学 病 院	引 率 者	参加者数
①神奈川県立こども医療センター	小林 登	29名
②済生会横浜市南部病院	高橋 淑郎	25名
③横浜労災病院	紀伊國 献三	26名
④済生会神奈川県病院	北原 光夫	23名
⑤横浜市立大学医学部付属病院	波多野 誠	42名
⑥横浜赤十字病院	高橋 勝三	20名
⑦東芝病院	長沢 泰	43名
⑧国際親善病院	岡本 悦司	26名
		計 234名

9-4. ウェルカムレセプション

1)実施日時 10月 6日(木) 18:00 ~20:00

2)次 第 18:00 ~18:40 *狂言「御茶の水」
18:40 ~ ウェルカムパーティ
(開会挨拶) 諸橋芳夫学会長
プロスドルフ I HF 会長
土屋章神奈川県病院協会長
19:25 ~19:30 (閉会挨拶) 高橋勝三運営委員長
*狂言「御茶の水」
(住持) 善竹圭五郎 (新発意) 南 溢 (伊茶) 南徳子
(後見) 善竹十郎

9-5. バンケット

1)実施日時 10月 7日(金) 18:00 ~21:00

2)内 容 クルージング(マリーンシャトル)

3)参加者数 202名(海外 142名)

10. 関連プログラム

- 1)ポスターセッション 12題
- 2)ビデオフォトセッション 大韓病院協会がパネル展示
- 3)展 示 16社18小間
- ①(株)トリム
 - ②サービスマスター・ジャパン(株)
 - ③(株)島津製作所
 - ④(株)サンアロー
 - ⑤(株)ビー・エム・エル
 - ⑥(株)キューアル
 - ⑦東芝メディカル(株)
 - ⑧アロカ(株)
 - ⑨オリンパス光学工業(株)
 - ⑩帝人(株)
 - 11(株)エム・アンド・シー
 - 12ジーイー横河メディカルシステム(株)
 - 13(株)日立メディコ
 - 14(株)日本電子理研
 - 15(株)開進
 - 16(株)日音医理科器械製作所

4)同伴者プログラム

10月 6日	庭園散歩と茶の湯(三溪園)	25名
7日	生花教室	14名
8日	鎌倉一日観光	17名 延べ56名

11. 特記事項

1) シンポジウム「あなたの明日を誰が見る」を一般公開

申込者	351名
出席者	202名
公開媒体	9月1日付 広報よこはま
	9月14日付 朝日新聞夕刊

2) スカラーシップの採用

① 海外	実施範囲	50ヶ国の病院協会又は政府機関に依頼
	対象者	45歳以下の病院医療の研究者、学生
	内容	旅費、宿泊費の一部援助・登録費の軽減
	参加申込	6名
	出席者数	3名 (国別/モンゴル 1 ケニア 1 ポーランド 1)
② 国内A	実施範囲	医科大学病院管理学教室、公衆衛生学教室に依頼
	対象者	45歳以下の留学生
	内容	旅費、宿泊費の実費負担・登録費の不要
	参加申込	8名
	出席者数	8名 (国別/チリ 1 中国 3 韓国 2 タンザニア 1 米国 1)

③ 国内B 実施範囲 都内、横浜市内の看護学校ならびに医療秘書学校

対象者 学生

内容 登録費の不要（授業単位の取得）

出席者数 296名（参加者総数には含まれていない）

神奈川県衛生専門学校 84名

横浜赤十字病院付属看護専門学校 36名

河北総合病院看護専門学校 40名

国際医療専門学校 136名

3)一般演題申込数と採択数

	申込数	採用数
Pl. S. 4 医療における公的、私的部門についてのディベート	11	8
Conc. S. 1 医療費抑制：管理への挑戦	20	6
Conc. S. 2 AHFフォーラム：アジアにおける医療保険制度	7	6
Conc. S. 3 治療的環境のデザイン（建築）	20	9
Conc. S. 4 看護婦の新しい役割	3	3
Conc. S. 5 伝統医学（漢方）の現代的役割	8	6
Conc. S. 6 医療管理者教育	11	6
計	80	44

12. 取材媒体 17社 21名

13. 今回の会議にご援助いただいた団体・会社

阿部建設株式会社	北陸製薬株式会社
株式会社秋山愛生館	ホシ伊藤株式会社
アロカ株式会社	財団法人茨城県メディカルセンター
アマシャム株式会社	国際医療管理専門学校
アトム株式会社	岩淵薬品株式会社
株式会社ビーエムエル	岩淵薬品株式会社 医療器械部
カールツァイス株式会社	財団法人岩手県予防医学協会
財団法人化学及血清療法研究所	株式会社岩戸紙店
株式会社千葉興業銀行	財団法人日本医療食協会
株式会社チャク	株式会社自治体病院共済会
千代田メディカル株式会社	医療法人社団裕健会神田クリニック
中和印刷株式会社	財団法人関西労働保健協会
株式会社中薬	キッセイ薬品工業株式会社
財団法人結核予防会 第一健康相談所	有限会社近畿調理機
医療法人同友会	財団法人高知県総合保健協会
ダイナボット株式会社	高知検診クリニック
株式会社ダスキン	株式会社江東微生物研究所
株式会社ダスキンヘルスケア	コニカメディカル株式会社
日本イーライリリー株式会社	有限会社興和社
富士メディカルシステム株式会社	クラヤ薬品株式会社
株式会社フジタ医科器械	共立医科器械株式会社
フクダ電子株式会社	財団法人京都工場保健会
福神株式会社	協和醗酵工業株式会社
財団法人結核予防会福岡県支部	協和医科器械株式会社
財団法人福岡労働衛生研究所	財団法人九州健康総合センター
株式会社福山医科	日本レダリー株式会社
GE横河メディカルシステム株式会社	株式会社眼科器械のマキノ
財団法人八戸市総合健診センター	松本薬品株式会社
林薬品株式会社	株式会社松本医科器械
平成薬品株式会社	明治乳業株式会社
久光製薬株式会社	株式会社三郷興業
株式会社日立製作所 日立総合病院 日立総合健診センター	株式会社三菱油化ビーシーエル
株式会社日立メディコ	森永乳業株式会社
ヘキストジャパン株式会社	株式会社モロオ

村中医療器株式会社
有限会社武蔵野レンズ研究所
名古屋簡易保険総合健診センター
中北薬品株式会社
株式会社ニデック販売
株式会社日本病院共済会
日本光電工業株式会社
株式会社日本トリム
日本ユニシス株式会社
社団法人新潟県健康管理協会
日研化学株式会社
日機装株式会社
社団法人日本経営協会
日本ロシュ株式会社
株式会社日音医理科器械製作所
株式会社のいり
お茶の水医療秘書歯科助手専門学校
大森薬品株式会社
大崎衛生材料株式会社
大分県地域成人病検診センター
岡山中央診療所健康管理センター
オリンパス販売株式会社
 オリンパスソフトウェア株式会社
 株式会社 オリンパスメディカルエンジニアリング
 株式会社イワケン
大ヶ池診療所
大阪医薬品協会
 武田薬品工業株式会社
 塩野義製薬株式会社
 田辺製薬株式会社
 藤沢薬品工業株式会社
 大日本製薬株式会社
 小野薬品工業株式会社
 株式会社ミドリ十字
 住友製薬株式会社
 吉富製薬株式会社

株式会社大塚製薬工場
日本新薬株式会社
扶桑薬品工業株式会社
森下ルセル株式会社
日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社
日本シェーリング株式会社
バイエル薬品株式会社
日本チバガイギー株式会社
参天製薬株式会社
ロート製薬株式会社
興和新薬株式会社
マリオン・メレル・ダウ株式会社
日本臓器製薬株式会社
マルホ株式会社
丸石製薬株式会社
藤沢アストラ株式会社
菱山製薬株式会社
東和薬品株式会社
新日本薬品株式会社
シェリング・ブラウ株式会社
 沢井製薬株式会社
株式会社小沢酸素
パラマウントベッド株式会社
株式会社サンアイ
株式会社エスアールエル
サンド薬品株式会社
株式会社三清社
株式会社三星堂
参天製薬株式会社
船員保険福岡健康管理センター
生化学工業株式会社
有限会社精工医科器械店
株式会社島津製作所
清水眼科
有限会社進英プリント
昭和薬品株式会社

雪印乳業株式会社
株式会社スズケン
株式会社大正堂
高砂熱学工業株式会社
武田薬品工業株式会社
株式会社田中三誠堂
株式会社帝人バイオ・ラボラトリーズ
テルモ株式会社
財団法人日本予防医学協会
株式会社千葉銀行
大東京火災海上保険株式会社
社団法人日本医薬品卸業連合会
株式会社ミドリ十字
全国医療秘書教育協会
株式会社京葉銀行
社団法人東京医薬品工業協会
旭化成工業株式会社
萬有製薬株式会社
中外製薬株式会社
第一製薬株式会社
エーザイ株式会社
グレラン製薬株式会社
岩城製薬株式会社
科研製薬株式会社
鐘紡株式会社
杏林製薬株式会社
協和醗酵工業株式会社
明治製菓株式会社
持田製薬株式会社
株式会社模範薬品研究所
日本製薬株式会社
日本化薬株式会社
大塚製薬株式会社
ファイザー製薬株式会社
エスエス製薬株式会社
三共株式会社

佐藤製薬株式会社
昭和薬品化工株式会社
大鵬薬品工業株式会社
大正製薬株式会社
帝国臓器製薬株式会社
株式会社ツムラ
東京田辺製薬株式会社
鳥居薬品株式会社
富山化学工業株式会社
わかもと製薬株式会社
山之内製薬株式会社
戸田建設株式会社
安田火災海上保険株式会社
東邦薬品株式会社
学校法人秋葉学園東京セクリ-専門学校
東京医薬品株式会社
東京基準寝具株式会社
富田薬品株式会社
東レメディカル株式会社
東芝メディカル株式会社
財団法人告原記念健康医学センター
潮田三国堂薬品株式会社
株式会社バレオ
和光堂株式会社
ワイス・エーザイ株式会社
株式会社八神製作所
ヤリタ医療衛材株式会社
ゼネカ薬品株式会社
健康保険組合連合会
神奈川県
横浜市

学会主催団体は含んでおりません。

14. 会計報告

1994年国際病院連盟汎地域会議収支決算書

(収入の部)

(単位：円)

事 項	金 額
1. 自 己 資 金	9,000,000
2. 会 費	17,696,329
3. 寄 付 金	64,884,952
4. 雑 収 入	334,741
計	91,916,022

(支出の部)

事 項	金 額
1. 人 件 費 (謝金)	1,900,000
2. 旅 費 交 通 費	10,544,423
3. 物 品 費	4,980,263
4. 印 刷 製 本 費	15,438,095
5. 通 信 運 搬 費	6,851,755
6. 会 場 借 料	14,122,257
7. 会 議 費	15,038,036
8. 業 務 委 託 費	18,041,194
9. そ の 他	4,999,999
計	91,916,022

委員会委員

学 会 長		諸橋 芳夫	(社団法人 日本病院会会長) (千葉・総合病院国保旭中央病院長)
組織委員会	(委員長)	河北 博文	(社団法人 日本病院会副会長) (東京・河北総合病院理事長)
	(副委員長)	紀伊國 献三	(東京・東京女子医科大学客員教授)
	(委 員)	高橋 勝三	(東京・武蔵野赤十字病院長)
		牧野 永城	(千葉・亀田総合病院診療統括副院長)
		中山 耕作	(静岡・総合病院聖隷浜松病院長)
		Dr. Errol Pickering	(国際病院連盟事務総長)
		登内 真	(茨城・総合病院土浦協同病院長)
		依田 忠雄	(岡山・岡山赤十字病院長)
		吉野 晶雄	(東京・厚生科学研究所長)
学術委員会	(委員長)	牧野 永城	
	(副委員長)	紀伊國 献三	
	(委 員)	波多野 誠	(東京・日経B P 社診療所長)
		池上 直己	(東京・慶應義塾大学 総合政策部教授)
		川淵 孝一	(東京・国立医療・病院管理研究所研究員)
		長澤 泰	(東京・東京大学工学部教授)
		岡崎 通	(三重・国立津病院名誉院長)
		竹内 正也	(茨城・社会保険いばらき健康管理センター長)
運営委員会	(委員長)	高橋 勝三	
	(副委員長)	吉野 晶雄	
	(委 員)	川淵 孝一	
		小山 秀夫	(東京・国立医療・病院管理研究所部長)
		南 溢	(奈良・秋津鴻池病院理事長)
		許山 隆	(山梨・許山胃腸病院長)
		岡本 悦司	(大阪・近畿大学医学部公衆衛生学講師)
		瀧田 克孝	(東京・社会保険中央総合病院長)
		高橋 淑郎	(カナダ・トロント大学医学部助教授)
		土屋 章	(神奈川・澁野辺総合病院長)
財務委員会	(委員長)	河北 博文	
	(委 員)	伊藤 研	(愛知・医療法人大雄会会長)
		牧野 永城	
		中山 耕作	
		岡崎 通	
		大道 學	(大阪・医療法人大道会理事長)
		高橋 勝三	

第19 アジア病院連盟

1. 理事会開催 1994年10月7日(金) パシフィコ横浜

2. 同会議議事録

MINUTES OF THE AHF BOARD OF GOVERNOR'S MEETING

HELD IN YOKOHAMA, JAPAN ON FRIDAY 7 OCTOBER 1994 AT PACIFICO YOKOHAMA

1 Members present

Indonesia: Dr. Jacobalis, Samsi
Korea: Dr. Han, Doo Jin
Dr. Cho, Woon-Hae
Dr. Ha, Ho Uk
Philippines: Dr. Clemente, Thelma
Taiwan, ROC: Mr. Chang, Chin-Un
Dr. Yang Min Sheng
Dr. Chan C. Steve
Mr. Ming, Wang You
Prof. Yang Sze-Piao
Japan: Dr. Morohashi, Yoshio (President)
Dr. Kawakita Hirobumi
Dr. Takahashi, Katsumi
Dr. Kiikuni, Kennzo
Dr. Eiki Makino (Secretary General)

Observers: Mrs. Desales, Carmina (Philippines)
Dr. Nakayama, Kosaku (Japan)
Dr. Tonouchi, Shin (Japan)
Dr. Yoda, Tadao (Japan)

2 Call to order

Dr. Morohashi, the President of AHF, called the meeting to order and addressed the welcome remarks to the members present and indicated that Dr. Makino, the Secretary General of the AHF would conduct the meeting as acting chairman on his behalf. The proposal was supported without objection.

3 The acting chairman then commented that the situation of the Board remains the same as last year until the revised constitution comes into effect. Then, it was proposed that if a situation arises to need voting for decision, the same provisional rule as of the last year, allowing three voting rights including proxy votes for each member state is to be followed. The proposal was agreed unanimously.

- 4 Minutes of the previous Meeting.
The minutes of the Board of Governors' Meeting held in Morioka, Japan on 18 June 1993 had been sent to each member state shortly after the Meeting. The minutes were confirmed without amendment.
- 5 Financial report for (Dec)1993-(Nov)1994
Total income has been US\$ 2000, including the US\$500 annual fees from four member states. Dr. Jacobalis stated that fee for Indonesia would be paid shortly after this Meeting was over.
Expenditure amounted to US\$ 2500, spent mostly for the tour of AHF member delegates and Board of Governor's Meeting. The report was noted.
- 6 Final approval of the revised Constitution and the date of coming into effect.
The draft amendment of the Constitution prepared by the Secretary General had been discussed and approved after revising several points at the Board Meeting held in Morioka last year.
The final draft was presented and revised part of the Constitution was confirmed and was finally approved unanimously.
The acting chairman then proposed for the new Constitution to come into effect at the end of the Yokohama IHF Pan-Regional Conference which was to close on the next day of this Board Meeting, eighth of October, 1994. The proposal was supported unanimously.
Dr. Clemente then commented that a document stating the process of the amendment should be attached to the Constitution and undersigned by the representatives of the delegates who participated the amendment. There was no objection.
- 7 1994 IHF Pan-Regional Conference in Yokohama.
A word of appreciation was expressed by the acting chairman for the cooperations and assistance of the member states extended to the 1994 IHF Pan-Regional Conference which was being hosted by the Japan Hospital Association.
- 8 Nomination of the new President of the Asian Hospital Federation.
The acting chairman stated that Dr. Morohashi's presidential term is to end on the 30th of October, 1994 and a new president is to be nominated at this meeting. The list of the names of the past presidents was distributed for consideration in nominating the

incoming president. The acting chairman then commented that in reviewing the list of the past presidents, it appeared that Taiwan, ROC had the right to claim for the next presidential office, if the sequential turn was to be followed. However, in actual act, no such sequential turn had been followed in the past history of the organization, albeit it was so stated in the existing constitution. Moreover, it had been the understanding of the Korean delegates that Korea's turn was the implicit consent among the delegates of member states.

Views from both Taiwan and Korean delegates were expressed on this matter. After the exchange of some discussions from both sides, Dr. Jacobalis proposed to settle the matter by voting and Dr. Clemente seconded this. The proposal was supported unanimously. The acting chairman then expressed his desire that the friendship which had been maintained firmly among the member states throughout the history of AHF should not be injured by such a trivial matter.

Immediately before the voting slips were distributed, Dr. Chang expressed the wish of Taiwan ROC to withdraw their claim in the interest of friendship among the member countries. All the members present were very grateful to the delegates of Taiwan, ROC for their generous and courageous decision. Then Dr. Han was nominated as the President Designate by unanimous support.

- 9 Dr. Han addressed his greetings to the members as the President Designate and expressed his hope to increase memberships to AHF during his tenure.
- 10 Dr. Morohashi expressed his deep appreciation to all the members for the cooperations and supports given to him during the tenure of his Presidency.

The meeting adjourned.

CONSTITUTION

of the Asian Hospital Federation

Article I. Aims and Objectives

1. The Asian Hospital Federation (hereinafter referred to as the Federation) is an independent, non-political body, organized by national hospital associations in Asia, who are concerned in pursuance of the following objectives.

a. Maintenance of an efficient liason among the members and the other hospital associations in the region.

b. Coordination of the activities of hospital associations in Asia for the attainment of a high standard of health care.

c. Establishment and promotion of a system for an exchange of information on every aspect of hospital services, and patient care and the latest medical information.

2. To endeavor to achieve the highest attainable standard of hospital administration.

3. To promote and maintain friendly relations and mutual assistance among the people of member countries in the region.

Article II. Membership

1. There shall be three categories of members of the Federation as follows:

Category A. -- Any national hospital association duly constituted in accordance with the laws of the respective country where located, and the Ministry of Health or its equivalent.

Category B. -- Any hospital in countries or areas of Asia where national hospital associations are not yet organized.

Category C. -- Any national organization allied to and/or directly concerned with hospital activities which meet the qualification standards set up by the Board of Governors of the Federation

2. All memberships of the Federation shall subject to the approval of the Board of Governors.

Article III. Administration

1. Board of Governors

a. The Federation shall be administered by the Board of Governors (hereinafter referred to as the Board), which consists of three representatives nominated by each member country and approved by the Board.

The members of the Board shall serve for a term of four years each and shall be eligible for reappointment at the end of his/her term.

b. If a vacancy in the Board occurs other than by expiration of a member's term of office, the Board shall fill it by co-opting a member of the Federation of the same nationality. The co-opted member shall hold office for the term of four years.

c. The President shall be chosen from among the members of the Board and the Presidency shall be rotated among the member countries in any sequence on biennial basis. The president may serve longer with the approval of the Board, but not to exceed four years including the first term.

d. The members of the Board of Governors shall meet at least once a year at a time to be determined by the Board, and at any other time when convened by the President or requested by a majority of the members of the Board.

e. The President of the Federation shall preside at the meeting of the Board of Governors. In his absence, the chairman shall be chosen among the members of the Board.

f. The quorum for a meeting of the Board shall be two thirds of the countries present at the meeting and proxy vote among the members of the same country, allowing three voting rights for each member country to be accepted.

Its decisions shall be taken by a simple majority vote.

g. The headquarter of the Federation shall be a mobile one, rotating among the countries where the President lives.

2. The Secretary General shall be appointed by the Board concurrently with the appointment of the President. The term of his office shall be the same as that of the President.

The Secretary General shall be responsible for the affairs of the Federation, the proper execution of the policies of the Board of Governors, and such activities as he may be required or authorized to undertake. He shall also be responsible for keeping records of the meetings of the Federation.

He shall receive a compensation to be determined by the Board.

Article №. Subscription

1. The annual subscription of the members of the Federation shall be determined by the Board of Governors.

2. Subscriptions are due on admission of membership and subsequently on the 1st of July each year.

Article V. Amendments

This Constitution may be amended at the Meeting of the Board of Governors by the two thirds majority vote of members present and entitled to vote, provided that any proposal to alter this Constitution must be submitted to the Secretary General in writing at least three months before the meeting.

Article VI. Accounts

The Secretary General shall submit accounts of the Federation to the Board of the Governors annually.

When a balance on income and expenditure accounts produce a surplus at the end of the tenure of Presidency, it shall be deposited by the office of incumbent president.

Article VII Official Languages

The official language of the Federation shall be English and such other languages as may be authorized by the Board of Governors.

Article VIII Voting by Correspondence

When a decision is required on a matter which cannot be delayed until the next meeting of the Board, the Secretary General may be authorized by the President to ascertain by correspondence the opinions of the members of the Board and take any necessary action in accordance with the majority opinion.

Article IX. Coming into effect

This revised Constitution replaces the existing Constitution of 26th of September, 1971 and comes into effect on the eighth of October, 1994.

Note:

Because of the presence of a numbers of items in the existing Constitution which are incompatible with the present status of the Asian Hospital Federation, revision of the Constitution was decided at the Board of Governors' Meeting held in Osaka, Japan, on the nineteenth of June,1992. A draft amendment of the Constitution was prepared by the Secretary General and was discussed at the Board Meeting held in Morioka, Japan on the eighteenth of June,1993 and several revisions were made. The final draft was presented at the Board Meeting held in Yokohama on the seventh of October,1994 and was approved unanimously.

第20 他団体との連絡協議及び連合

〔全国病院団体連合〕

1. 総 会

期 日 平成6年4月27日

場 所 ダイヤモンドホテル

出席者 役員7名、会員19団体31名

来賓（職能団体）3名

- 議 題
- ① 平成5年度事業報告及び決算報告について
 - ② 平成6年度事業計画(案)及び予算(案)について
 - ③ 今回の診療報酬改定と今後の対応について
 - ④ 消費税について
 - ⑤ その他

2. 常任幹事会

期 日 平成6年11月25日

場 所 日本病院会会議室

出席者 7名

- 議 題
- ① 全病団連の今後の活動の進め方について
 - ② 消費税問題について
 - ③ 病院機能評価機構について
 - ④ 医療費・医薬品について
 - ⑤ 医療法の一部改正について
 - ⑥ 診療報酬改定後の病院経営について
 - ⑦ その他

期 日 平成7年2月16日

場 所 東條会館

出席者 6名+病院大会関係者6名

議 題 病院大会の運営について

3. 要望書

- ① 臨床研修病院の医療法位置付け、診療報酬の大幅引上げ、消費税の病院負担解消など5項目を要望（5月12日、厚生省当局へ）
- ② 平成7年度予算に関する要望（社会保険診療報酬の改定、病院の増改築（医療施設近代化施設整備）に対する国庫補助金の増額と確保）及び消費税に関する要望について、平成6年8月23日関係当局へ

4. 病院大会

1. 名称 「国民医療を守る全国病院大会」
2. 主催 全国病院団体連合
3. 日時 平成7年2月16日(木) 午後2時～3時30分
4. 会場 東條会館1階ホール
5. 次第
 1. 開 会
 2. 開会あいさつ
 3. 協賛団体紹介
 4. 来賓紹介
 5. 来賓祝辞
 6. 祝電披露
 7. 議長団選出
 8. 協 議
 - (1) 診療報酬について
 - (2) 阪神大震災について
 - (3) 民間病院に対する助成について
 - (4) 病院が負担している消費税について
 9. 決 議
 10. 陳 情
陳情団代表あいさつ
 11. 閉会あいさつ
6. 参加者数 一般参加者 397名
来 賓 27名
報道関係 15名
来賓内訳

各党代表

自由民主党	衛 藤 晟 一	衆議院
日本社会党	今 井 澄	衆議院
新党さきがけ	荒 井 聰	衆議院
新 進 党	石 田 祝 稔	衆議院

本人出席

代理出席

祝 電

稲垣 実男 衆議院	栗屋 敏信 衆議院	網岡 雄 衆議院
高橋 辰夫 衆議院	小沢 辰男 衆議院	岩垂寿喜男 衆議院
竹内 黎一 衆議院	越智 伊平 衆議院	大島 慶久 参議院
福島 豊 衆議院	小野 晋也 衆議院	大浜 方栄 参議院
堀之内久男 衆議院	斎藤 十朗 参議院	勝木 健司 参議院
前島英三郎 参議院	塩崎 恭久 衆議院	五島 正規 衆議院
榎屋 敬悟 衆議院	鈴木 俊一 衆議院	清水嘉与子 参議院
森井 忠良 衆議院	戸井田三郎 衆議院	塚田 延充 衆議院
柳田 稔 衆議院	松浦 功 参議院	宮崎 秀樹 参議院
山口 俊一 衆議院	三浦 朝彦 衆議院	山本 孝史 衆議院
	宮下 創平 衆議院	
	持永 和見 衆議院	
	森 英介 衆議院	

5. 会 員

平成7年3月末現在25団体（中央12、地方13）

〔医療法人制度に関する懇談会〕

5月19日(木) 第5回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

8月26日(金) 第6回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

9月20日(火) 第7回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

10月14日(金) 第8回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

11月28日(月) 第9回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

1月13日(金) 第10回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

2月23日(木) 第11回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

3月22日(木) 第12回 医療法人制度に関する懇談会

◎ 医療法人制度について

いずれも伊藤 研常任理事が出席

厚生省の医療法人制度検討委員会が12月1日報告書をまとめたが、医療法改正に向けて引続き病院団体代表による懇談会を持つこととした。

第21 日本病院会政治連盟会務報告

平成6年

- 6月29日 第129通常国会会期末、村山政権誕生。自民・社会・さきがけの連立新政権
- 8月26日 衆院・小沢辰男議員が名古屋で懇談会。日病愛知県支部役員等地元から4人が出席
- 10月26日 日本医師連盟から参議院選挙の対応について、日医会館で会合招集、大浜議員の辞退表明など説明
- 12月10日 新党（新進党）結成大会がパンフィコ横浜で開かれ、諸橋会長が招待、出席
- 12月21日 諸橋会長、中山・河北副委員長が年末挨拶に旧顧問議員団（自民15名、新進2名）を訪問
- 2月27日 日本医師連盟が参議院選挙の対応について、武見敬三氏の推せんを説明、日医会館にて
- 3月30日 自民党から統一地方選における東京など激選区の知事選支援要請を受け、6候補に推せん状交付

第22

要 望 · 提 言

要 望 書

一、医療法に臨床研修病院を位置付けること。

臨床研修病院は、設備・人員等非常に厳しい指定基準からみて、病院の機能は、特定機能病院と同等あるいはそれ以上と思われる。医師法に規定されている臨床研修病院を医療法上明確にし臨床研修医の待遇を改善して、臨床研修の充実を図る必要がある。

二、診療報酬を大幅に引き上げること。

今回の診療報酬の改定について、我々は療養環境整備や建て替えなど拡大再生産の費用（キヤピタルコスト）を含めて一〇・一％の要求をした。しかしながら、実質二・七％では病院職員の人件費増も踏えない。少なくとも人件費分ぐらいは毎年引き上げるべきである。

また、「病院かかりつけ医」の二百床までの制限。平均在院日数を短くせよといっておきながら特三類の要件を二五日から三〇日に延ばし、平均在院日数が短いものへの評価がない。そして公立病院の室料差額二割制限、など問題点も多い。

さらに、患者給食の一部負担の導入などは、先進国では例がなく、病院は少しも潤うところが膨大な利益を上げている矛盾した構造を早急に改めるべきである。仮に財源がないというのなら、医療周辺産業が今後高齢化社会が進み、国民の求める、より質の高い病院医療の提供を行うために、さらなる診療報酬の引き上げを要望するものである。

三、消費税が病院負担とならないような措置を講ずること。

平成元年度に導入された消費税は、本来最終消費者が負担するのが原則である。特例として医療費のうち社会保険診療報酬分野が非課税となっている。このため医薬品などの材料費、経費、委託費などが消費者である患者に転嫁できない仕組みで病院の負担となっている。

消費税については、社会保険診療報酬の一点単価に消費税率アップ分を明らかに上乘せし、患者への例外なき課税を行う（現状では一点一〇・三元とする）か、または病院負担となる消費税の全額還付を行うかどちらかの方法を講ずること。

四、中央社会保険医療協議会（中医協）に病院団体の代表を参加させること。

医療費の中の七〇％を占める病院の代表が中医協に入っていない。この際、委員の定数増を図り特に高度医療、医師の卒後研修などを行っている病院の代表を中医協に参加させ、また審議を公開すべきである。

五、医療保険審議会委員に病院代表委員を任命すること。

現在、医療保険審議会に学識経験者として病院団体より参加している委員を引き続き委員に任命すること。

平成六年五月十二日

全国病院団体連合
代表幹事 諸 橋 孝 夫



平成6年6月20日

政府税制調査会
会長 加藤 寛 殿

社団法人 日 本 病 院
会 長 諸 橋 芳



医療機関をめぐる消費税並びにその負担に関する要望書

社会保険医療は、国民皆保険という国の施策に基づき、極めて高度な公共性と制約性を有しており、保険医療機関は、社会保険診療報酬という低廉かつ公定価格のもとに国民に対し必要な医療を提供しております。

平成元年4月に導入・実施された消費税法では、社会政策的な配慮に基づき社会保険医療を非課税取引とし、最終消費者への税の転嫁を行っておりません。仕入れに係わる消費税分は、社会保険診療報酬に上乘せされているといわれておりますが、医療機関としては経営上の負担になっているといわざるを得ません。

高齢化に伴う社会保障負担増や直間比率の見直し等に対処するため、消費税率の引き上げが予想されており、このままでは転嫁されない消費税が財政逼迫に陥っている医療機関の経営を一段と窮地に追い込むこととなります。

上記の実情をご理解頂き、国民の健康に係わる地域医療及び国民医療の質的低下を防止するためにも、医療機関をめぐる消費税並びにその負担に関し次に掲げる要望事項の実現を強く望みます。

[要 望]

- 非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。
- 消費税法の改正が行われず、社会保険医療の非課税措置が存続するのであれば、薬剤購入、委託費、経費等の支払い、建物・医療器械等の購入等仕入れに係わる消費税分を社会保険診療報酬において負担していることを明瞭にすること。
具体的には、診療報酬に上乘せされる仕入れに係わる消費税の算定根拠の開示と当該部分の別建別払い制の導入。

以 上

平成6年6月20日



啓 伍 殿

社団法人 日 本 病 院 会
会 長 諸 橋 芳



医療機関をめぐる消費税並びにその負担に関する要望書

社会保険医療は、国民皆保険という国の施策に基づき、極めて高度な公共性と制約性を有しており、保険医療機関は、社会保険診療報酬という低廉かつ公定価格のもとに国民に対し必要な医療を提供しております。

平成元年4月に導入・実施された消費税法では、社会政策的な配慮に基づき社会保険医療を非課税取引とし、最終消費者への税の転嫁を行っておりません。仕入れに係わる消費税分は、社会保険診療報酬に上乘せされているといわれておりますが、医療機関としては経営上の負担になっているといわざるを得ません。

高齢化に伴う社会保障負担増や直間比率の見直し等に対処するため、消費税率の引き上げが予想されており、このままでは転嫁されない消費税が財政逼迫に陥っている医療機関の経営を一段と窮地に追い込むこととなります。

上記の実情をご理解頂き、国民の健康に係わる地域医療及び国民医療の質的低下を防止するためにも、医療機関をめぐる消費税並びにその負担に関し次に掲げる要望事項の実現を強く望みます。

[要 望]

- 非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。
- 消費税法の改正が行われず、社会保険医療の非課税措置が存続するのであれば、薬剤購入、委託費、経費等の支払い、建物・医療器械等の購入等仕入れに係わる消費税分を社会保険診療報酬において負担していることを明瞭にすること。
具体的には、診療報酬に上乘せされる仕入れに係わる消費税の算定根拠の開示と当該部分の別建別払い制の導入。

以 上

平成6年6月24日

社団法人 日本医師会
会長 木村 溧 殿

社団法人 日本私立医科大学協会
会長 吉岡 守



社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳



医療機関をめぐる消費税並びにその負担に関する要望書

社会保険医療は、国民皆保険という国の施策に基づき、極めて高度な公共性と制約性を有しており、保険医療機関は、社会保険診療報酬という低廉かつ公定価格のもとに国民に対し必要な医療を提供しております。

平成元年4月に導入・実施された消費税法では、社会政策的な配慮に基づき社会保険医療を非課税取引とし、最終消費者への税の転嫁を行っておりません。厚生省は仕入れに係わる消費税分は、社会保険診療報酬に上乘せしているといわれておりますが不明確で、医療機関としては経営上の負担になっているといわざるを得ません。

高齢化に伴う社会保障負担増や直間比率の見直し等に対処するため、消費税率の引き上げが予想されており、このままでは転嫁されない消費税が財政逼迫に陥っている医療機関の経営を一段と窮地に追い込むこととなります。

上記の実情をご理解頂き、国民の健康に係わる地域医療及び国民医療の質的低下を防止するためにも、医療機関をめぐる消費税並びにその負担に関し次に掲げる要望事項の実現を強く望みます。

[要 望]

- 非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。
- 消費税法の改正が行われず、社会保険医療の非課税措置が存続するのであれば、薬剤購入、委託費、経費等の支払い、建物・医療器械等の購入等仕入れに係わる消費税分を社会保険診療報酬において負担していることを明瞭にすること。
具体的には、診療報酬に上乘せされる仕入れに係わる消費税の算定根拠の開示と当該部分の別建別払い制の導入。

以上

平成七年度予算に関する要望

一、社会保険診療報酬の改定について

社会保険診療報酬は、医療機関の経営の基礎をなすものである。昭和六十年医療法改正付則に医療機関の経営基盤安定化として、地域における適正な医療を確保するために医療機関が果たしている社会的な重要性にかんがみ、医療機関の経営基盤の安定・業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられている。

然るに今年四月一日に医療費の改定が行われたが、その後の病院経営の現状は、各病院の懸命なる努力にも拘らず、医療の高度化、週休二日制実施による人件費増、医療廃棄物処理、エイズ・肝炎・M.R.S.A（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）などの感染症予防対策費、医療の質及び患者サービスの向上などによる経費の増、新薬価制度による影響もあつて、特に民間病院は倒産・廃院の危機に直面している。

今後ますます要求が強くなるであろう「良質な医療と看護サービスの提供」を継続していくためには、医療の根幹を構成する「人件費」「物品費」「資本的費用」それぞれについては診療報酬制度の原点に戻り、原価を補償する方式とすべきである。人件費については、人事院勧告にそつた改定の実施、物品費・資本的費用については、整備基準と消費者物価指数にそつた改定を別途に実施されることを要望する。

二、病院の増改築に伴う資本的費用に対する公共投資を含めた公的補助金の増額・確保について

生活大国にふさわしい療養環境の整備及び国民の医療ニーズの多様性に伴い、今後拡大するアメニティ分野に対応するための病院の整備充実を図るためには多額の投資が必要である。

人件費の増大、建築費の高騰している現在、現行の診療報酬では資本的費用をまかなうのは不可能である。

病院の増改築に要する費用について、公共投資を含めた公的補助を増額・確保されるよう要望する。

三、看護婦等養成所に係る補助金の増額・確保について

病院における看護ケアの拡大、労働時間短縮と週休二日制の導入、老人保健施設の整備、地域ケア活動に伴う訪問看護事業の推進などのために、看護職員の不足は一層激化しており、増員対策は焦眉の急務と考える。

看護婦等の養成については、国立及び公・私立の医療機関等が鋭意推進しているところであるがこれら養成に要する経費は、一部貴重な診療報酬の中から賄われ、健全な病院経営が損なわれている現状である。

看護婦等養成に係る補助金を大幅に増額・確保されるよう要望する。

平成六年八月二日

社団法人 日本
会 長 諸 橋 病 院



自由民主党全国組織委員会

委員長 平 沼 赴 夫 殿
国民生活局長 松 浦 孝 治 殿

消費税に関する要望

社会保険医療は、国民皆保険という国の施策に基づき、極めて高度な公共性と制約性を有しており、保険医療機関は、社会保険診療報酬という低廉かつ公定価格のもとに国民に対し必要な医療を提供しております。

平成元年4月に導入・実施された消費税法では、社会政策的な配慮に基づき社会保険医療を非課税取引とし、最終消費者への税の転嫁を行っておりません。仕入れに係わる消費税分は、社会保険診療報酬に上乘せられているといわれていますが、医療機関としては経営上の負担になっているといわざるを得ません。

高齢化に伴う社会保険負担増や直間比率の見直し等に対処するため、消費税率の引き上げが予想されており、このままでは転嫁されない消費税が財政逼迫に陥っている医療機関の経営を一段と窮地に追い込むこととなります。

右記の実情をご理解頂き、国民の健康に係わる地域医療及び国民医療の質的低下を防止するためにも、医療機関をめぐる消費税の負担に関し次に掲げる要望事項の実現を強く望みます。

○非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。

平成六年八月二日

社団法人 日本病院
会 長 諸 橋



自由民主党全国組織委員会

委員長 長 平 沼 越 夫 殿
国民生活局長 松 浦 孝 治 殿

平成七年度税制に関する要望

- 一、医療法人については、公益法人の収益事業と同様の法人税率を適用するとともに、特定医療法人については、非課税とすること。
- 二、社会保険診療報酬に対する事業税課税の特例措置を存続すること。
- 三、医療法人については事業税に関する特別法人として事業税の軽減措置を存続すること。
- 四、個人が法人化する場合の軽減措置（土地や建物を一人、または二人医療法人設立のために、現物出資した場合の現物出資分に係わる譲渡所得の軽減処置の創設）をすること。
- 五、法人成りした場合の税制上の軽減措置（中小医療法人の医療施設構造改善準備金制度の創設または特別償却制度の創設。医療関係者が、医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の額が増加した場合等の法人税額の特別控除の創設をすること。
- 六、医療法人の承継時の軽減措置（一般中小法人に適用されている類似業種比準方式の適用）をすること。
- 七、医療施設に関する相続税制度の改善及び納税猶予制度を創設すること。
- 八、休日・夜間等の救急医療・予防接種・乳幼児検診等各種検診への報酬について、非課税とすること。
- 九、病院・診療所用の建物、付属設備及び医療機器の耐用年数を短縮すること。
- 十、事業基盤強化税制の対象となる医療機器を追加すること。

十一、老人保健施設に係わる税制上の特例措置を創設すること。

十二、医師の研修、研究費について、必要経費の範囲の拡大及び所得税額の特別控除制度を適用すること。

十三、生涯教育制度を推進するため、必要経費の範囲の拡大をすること。

十四、医療法人に企業法人に認められている試験・研究費の特別控除制度の適用をすること。

十五、へき地医療を確保する観点から、へき地医療を担う医師に特別控除等の税制上の配慮を行なうこと。

十六、看護婦等の人材確保のため次の措置を行うこと。

① 給与所得の非課税限度額の引き上げ。

② 夜勤手当の非課税措置。

③ 看護婦養成施設に対する寄付金に係わる措置の適用範囲の拡大。

十七、病院・老健施設等に設置された在宅介護支援センターの整備を促進するため、固定資産税の非課税措置を創設すること。

十八、民間病院の直接その用に供する固定資産については、保健医療が公共性が高い事業である点に鑑み、公的医療機関と同様に固定資産税の非課税措置を創設すること。

平成六年八月二日

社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳



自由民主党全国組織委員会

委員 長 平 沼 勉 夫 殿
国民生活局長 松 浦 孝 治 殿

消費税に関する要望

社会保険医療は、国民皆保険という国の施策に基づき、極めて高度な公共性と制約性を有しており、保険医療機関は、社会保険診療報酬という統制・公定価格のもとに国民に対し必要な医療を提供しております。

平成元年四月に導入・実施された消費税法では、社会政策的な配慮に基づき社会保険医療を非課税取引とし、最終消費者への税の転嫁を行っておりません。仕入れに係わる消費税分は、社会保険診療報酬に上乘せられているといわれておりますが、現実には医療機関の経営上の負担になっております。

高齢化に伴う社会保障負担増や直間比率の見直し等に対処するため、消費税率の引き上げが予想されており、このままでは転嫁されない消費税が医療機関側の負担となり、その経営を一段と窮地に追い込むこととなります。

右記の実情をご理解頂き、国民の健康に係わる地域医療及び国民医療の質的低下を防止するためにも、医療機関をめぐる消費税の負担に関し次に掲げる要望事項の実現を強く望みます。

○非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること
（いわゆるゼロ税率制度）。

平成六年八月二十三日

全国病院団体連合会

代表幹事 諸橋 芳



- 日本病院連盟
- 全国公私病院連盟
- 全国自治体病院協議会
- 全国公立病院連盟
- 全国厚生農業協同組合連合会
- 日本赤十字社病院長連盟
- 全国済生会病院長会
- 日本私立病院協会
- 全国国民健康保険診療施設協議会
- 日本医学協会の
- 日本結核病院協会
- 全国病院栄養士協議会
- 神奈川県病院協会
- 新潟県病院協会
- 富山県公的病院長協議会
- 静岡県病院協会
- 愛知県病院協会
- 滋賀県私立病院協会
- 京都府病院協会
- 京都私立病院協会
- 奈良県病院協会
- 岡山県病院協会
- 愛媛県病院協会
- 横浜市病院協会
- 川崎市病院協会

平成6年10月14日

自由民主党
政務調査会 殿
全国組織委員会 殿

社団法人 日本病院
会長 諸 橋 芳



平成7年度税制に関する要望

1. 消費税については、非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。
2. 医療法人については、公益法人の収益事業と同様の法人税率を適用するとともに、特定医療法人については、非課税とすること。
3. 社会保険診療報酬に対する事業税課税の特例措置を存続すること。
4. 医療法人については事業税に関する特別法人として事業税の軽減措置を存続すること。
5. 個人が法人化する場合の軽減措置（土地や建物を一人、または二人医療法人設立のために、現物出資した場合の現物出資分に係る譲渡所得の軽減処置の創設）をすること。
6. 法人成りした場合の税制上の軽減措置（中小医療法人の医療施設構造改善準備金制度の創設または特別償却制度の創設。医療関係者が、医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の額が増加した場合等の法人税額の特別控除の創設をすること）。
7. 医療法人の承継時の軽減措置（一般中小法人に適用されている類似業種比準方式の適用）をすること。

8. 医療施設に関する相続税制度の改善及び納税猶予制度を創設すること。
9. 休日・夜間等の救急医療・予防接種・乳幼児検診等各種検診への報酬について、非課税とすること。
10. 病院・診療所用の建物、付属設備及び医療機器の耐用年数を短縮すること。
11. 事業基盤強化税制の対象となる医療機器を追加すること。
12. 老人保健施設に係わる税制上の特例措置を創設すること。
13. 医師の研修、研究費について、必要経費の範囲の拡大及び所得税額の特別控除制度を適用すること。
14. 生涯教育制度を推進するため、必要経費の範囲の拡大をすること。
15. 医療法人に企業法人に認められている試験・研究費の特別控除制度の適用をすること。
16. へき地医療を確保する観点から、へき地医療を担う医師に特別控除等の税制上の配慮を行なうこと。
17. 看護婦等の人材確保のため次の措置を行うこと。
 - ① 給与所得の非課税限度額の引き上げ。
 - ② 夜勤手当の非課税措置。
 - ③ 看護婦養成施設に対する寄付金に係わる措置の適用範囲の拡大。
18. 病院・老健施設等に設置された在宅介護支援センターの整備を促進するため、固定資産税の非課税措置を創設すること。
19. 民間病院の直接その用に供する固定資産については、保健医療が公共性が高い事業である点に鑑み、公的医療機関と同様に固定資産税の非課税措置を創設すること。

自治省消防庁予防課
課長 小林 弘明 殿

社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳
防災対策部 会長
織本 正



規制緩和に関する意見・要望について

(はじめに)

貴課よりの依頼について、本来なら十分検討のうえ意見・要望を提出すべきですが、急遽当部会に諮り、意見の集約に努め下記にまとめました。

意見・要望内容が法律用語と一般用語が混在し、全体の論旨に一貫性が乏しく趣意がお汲み取りにくい点もあろうかと存じますがよろしくご高覧頂き、弊会が防火対象物(六)のイ(病院)に該当する特殊事情についても併せてご賢察頂きたくお願い申し上げます。

記

1. 制度等についての総括的意見

(1) 今日、諸外国(特に欧米)から求められている規制緩和は各法律において、基本法のみとし施行令、施行規則、条例、省令、各種基準、通知、通達などは廃止すべきとの基本的なスタンスがあるとされている。

条例、省令、各種基準、通知、通達などは国民生活の安全を確保し・保障に大変役立っているのは理解するが、より解りやすく周知徹底するためには主要な部分は「基本法」に取り入れるなり整理すべきである。

また実際問題として、消防行政には通達および内規類が多く、消防行政庁の行為(指示)が当会会員の端ばしまで消化されないのが実情であり、この際通達等の普及策を国においても考察すべきと考える。

(2) 地方公共団体機関が行う処分で、法の規定に基づいて行うものは法を適用するが、条例または規則の規定による処分等は法の趣旨を生かした措置を講ずる努力をすることとなっている。消防の場合、国は火災予防条例を準則で示し地方公共団体機関を事実上統べている。この際準則を廃止するか、最小限に止め、病院など特別防火対象物からの願出・届出の多きを削除されたい。また届出は文書様式からFAX受理を可とし省力化すべきと考える。

(3)防災に関する法は（法律－義務－違反－罰則）ではなく（法律－啓発－適合－評価）に、法の趣旨・理念を改めるべきと考える。

例えば、スプリンクラーの設置義務期間一つをとっても、消防行政は地域によって異なり、また各地方公共団体によっても補助金もしくは低利融資の格差が歴然としている現状から一律に期間を決定せず、各地域の実情を考慮すべきと考える。

特に病院は営利目的では設立できず、極めて公共性が高く、しかも収入は殆どが診療報酬（公定価格）に依存していることから、啓発＝税法上の恩典等が必要と考える。

2. 制度等について

(1)年2回の消防設備保守点検について

1回は防火管理者の点検・報告（目視等）を認め、年1回の総合点検と併せて年2回に緩和すること。

(2)防災シール表示制度の再検討について

例えば、消防法施行規則第四条の四の防災表示はシールでなく、製品に刻印するなどの簡略化をすること。（製品価格の引下効果）

また、高輝度誘導灯の認定マークは、他の表示に例えば「製造者、製造年月日等」に併せて記載すること。（機器の低価格効果）

次に、カーテン等はクリーニングをしても防災効果が減退しないものか、できればデータを示して頂きたい、他に救助袋の布寿命も同様にデータを示して頂きたい。

(3)「消火設備等にかかる技術上の規格を定める省令」に基づく基準等は省令によらず、例えば、公益法人または民間団体等により技術上の標準規格を定める制度とする。

(4)消防用機械器具等の検定制度を簡素化（届出化等）し、製造販売価格を低額化すると共に諸外国の防災機器が輸入しやすいように制度を改めること。

3. その他について

(1)消防法施行令の昭和63年4月の改正により3,000㎡以上の病院にはスプリンクラー設置が義務付けられ、期限は平成8年3月31日までとされるが、「平成8年3月31日までに改築・大修繕工事計画が提出された場合は、当該工事が完成される日まで延期することができる」と付記すること。

(2)防災マスクと消火栓では、所管が「日本消火設備安全センター」と「日本消防検定協会」に分かれている。合併して一本化したほうが購入者・利用者にわかりやすいと考える。

(3)消火器の失効による負担を軽減するため、リース等も明示すること。

(4)消防設備点検と火災保険料の割引について

病院が火災保険料の割引を受けるためには、例えば自動火災報知設備割引（5%引）を適用する場合は、損害保険協会が定めた基準（年4回保守点検）を満たさなければならず、法定点検（年2回）と著しく相違する。消防庁予防課にて調整して頂くこと。

4. 規制緩和とは別の意見として

身体不自由者等いわゆる災害弱者（入院患者）が避難するためには、医療職員はもとより近隣消防団員、居住者の献身的な協力が不可欠であるため、自治会、町内会等が一体となって日頃から避難・救出・搬送などの訓練を継続実施して、病院と地域ぐるみの人命安全協力体制を法令化し、協力者の補償制度を明らかにすること。

平成6年11月1日

新党さきがけ
政策調査会 殿

社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳



平成7年度税制に関する要望

1. 消費税については、非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。
2. 医療法人については、公益法人の収益事業と同様の法人税率を適用するとともに、特定医療法人については、非課税とすること。
3. 社会保険診療報酬に対する事業税課税の特例措置を存続すること。
4. 医療法人については事業税に関する特別法人として事業税の軽減措置を存続すること。
5. 個人が法人化する場合の軽減措置（土地や建物を一人、または二人医療法人設立のために、現物出資した場合の現物出資分に係わる譲渡所得の軽減処置の創設）をすること。
6. 法人成りした場合の税制上の軽減措置（中小医療法人の医療施設構造改善準備金制度の創設または特別償却制度の創設。医療関係者が、医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の額が増加した場合等の法人税額の特別控除の創設をすること。
7. 医療法人の承継時の軽減措置（一般中小法人に適用されている類似業種比準方式の適用）をすること。

8. 医療施設に関する相続税制度の改善及び納税猶予制度を創設すること。
9. 休日・夜間等の救急医療・予防接種・乳幼児検診等各種検診への報酬について、非課税とすること。
10. 病院・診療所用の建物、付属設備及び医療機器の耐用年数を短縮すること。
11. 事業基盤強化税制の対象となる医療機器を追加すること。
12. 老人保健施設に係わる税制上の特例措置を創設すること。
13. 医師の研修、研究費について、必要経費の範囲の拡大及び所得税額の特別控除制度を適用すること。
14. 生涯教育制度を推進するため、必要経費の範囲の拡大をすること。
15. 医療法人に企業法人に認められている試験・研究費の特別控除制度の適用をすること。
16. へき地医療を確保する観点から、へき地医療を担う医師に特別控除等の税制上の配慮を行なうこと。
17. 看護婦等の人材確保のため次の措置を行うこと。
 - ①給与所得の非課税限度額の引き上げ。
 - ②夜勤手当の非課税措置。
 - ③看護婦養成施設に対する寄付金に係わる措置の適用範囲の拡大。
18. 病院・老健施設等に設置された在宅介護支援センターの整備を促進するため、固定資産税の非課税措置を創設すること。
19. 民間病院の直接その用に供する固定資産については、保健医療が公共性が高い事業である点に鑑み、公的医療機関と同様に固定資産税の非課税措置を創設すること。

平成七年度予算に関する要望

一、社会保険診療報酬の改定について

社会保険診療報酬は、医療機関の経営の基礎をなすものである。昭和六十年医療法改正付則に医療機関の経営基盤安定化として、地域における適正な医療を確保するために医療機関が果たしている社会的な重要性にかんがみ、医療機関の経営基盤の安定業務の円滑な継続を図るための必要な措置を講ずることが掲げられている。

然るに今年四月・十月に診療報酬の改定が行われたが、その後の病院経営の現状は各病院の懸命なる努力にも拘らず、医療の高度化、週休二日制実施による人件費増、医療廃棄物処理、エイズ・肝炎・M R S A（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）などの感染症予防対策費、医療の質及び患者サービスの向上などによる経費の増、新薬価制度による影響もあつて、特に民間病院は倒産・廃院の危機に直面している。

今後ますます要求が強くなるであろう「良質な医療と看護サービスの提供」を継続していくためには、医療の根幹を構成する「人件費」「物品費」「資本的費用」それぞれについては診療報酬制度の原点に戻り、原価を補償する方式とすべきである。

「人件費」については、人事院勧告にそつた改定の実施、「物品費」・「資本的費用」については、整備基準と消費者物価指数にそつた改定を別途に実施されることを要望する。

二、病院の増改築に伴う資本的費用に対する公共投資を含めた公的補助金の増額・確保について

生活大国にふさわしい療養環境の整備及び国民の医療ニーズの多様性に伴い、今後拡大するアメニティ分野に対応するための病院の整備充実を図るためには多額の投資が必要である。

人件費の増大、建築費の高騰している現在、現行の診療報酬では資本的費用をまかなうのは不可能である。

病院の増改築に要する費用について、公共投資を含めた公的補助を増額・確保されるよう要望する。

三、看護婦等養成所に係る補助金の増額・確保について

病院における看護ケアの拡大、労働時間短縮と週休二日制の導入、老人保健施設の整備、地域ケア活動に伴う訪問看護事業の推進などのために、看護職員の不足は一層激化しており、増員対策は焦眉の急務と考える。

看護婦等の養成については、国立及び公・私立の医療機関等が鋭意推進しているところであるがこれら養成に要する経費は、一部貴重な診療報酬の中から賄われ、健全な病院経営が損なわれている現状である。

看護婦等養成に係る補助金を大幅に増額・確保されるよう要望する。

平成六年十一月十七日

社団法人 日本病院
会 長 諸 橋



「改革」政策委員長 中野 寛 殿
厚生部会長 野 呂 昭 彦 殿
担当主査 石 田 祝 稔 殿

平成七年度税制に関する要望

- 一、医療法人については、公益法人の収益事業と同様の法人税率を適用するとともに、特定医療法人については、非課税とすること。
- 二、社会保険診療報酬に対する事業税課税の特例措置を存続すること。
- 三、医療法人については事業税に関する特別法人として事業税の軽減措置を存続すること。
- 四、個人が法人化する場合の軽減措置（土地や建物を一人、または二人医療法人設立のために、現物出資した場合の現物出資分に係わる譲渡所得の軽減処置の創設）をすること。
- 五、法人成りした場合の税制上の軽減措置（中小医療法人の医療施設構造改善準備金制度の創設または特別償却制度の創設。医療関係者が、医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の額が増加した場合等の法人税額の特別控除の創設をすること。
- 六、医療法人の承継時の軽減措置（一般中小法人に適用されている類似業種比準方式の適用）をすること。
- 七、医療施設に関する相続税制度の改善及び納税猶予制度を創設すること。
- 八、休日・夜間等の救急医療・予防接種・乳幼児検診等各種検診への報酬について、非課税とすること。
- 九、病院・診療所用の建物、付属設備及び医療機器の耐用年数を短縮すること。
- 十、事業基盤強化税制の対象となる医療機器を追加すること。

十一、老人保健施設に係わる税制上の特例措置を創設すること。

十二、医師の研修、研究費について、必要経費の範囲の拡大及び所得税額の特別控除制度を適用すること。

十三、生涯教育制度を推進するため、必要経費の範囲の拡大をすること。

十四、医療法人に企業法人に認められている試験・研究費の特別控除制度の適用をすること。

十五、へき地医療を確保する観点から、へき地医療を担う医師に特別控除等の税制上の配慮を行なうこと。

十六、看護婦等の人材確保のため次の措置を行うこと。

①給与所得の非課税限度額の引き上げ。

②夜勤手当の非課税措置。

③看護婦養成施設に対する寄付金に係わる措置の適用範囲の拡大。

十七、病院・老健施設等に設置された在宅介護支援センターの整備を促進するため、固定資産税の非課税措置を創設すること。

十八、民間病院の直接その用に供する固定資産については、保健医療が公共性が高い事業である点に鑑み、公的医療機関と同様に固定資産税の非課税措置を創設すること。

平成六年十一月十七日

社団法人 日本病院
会 長 諸 橋 芳



「改革」	政策委員長	中野寛成 殿
	厚生部会長	野呂昭彦 殿
担当主査	石田祝稔	殿

消費税に関する要望

社会保険医療は、国民皆保険という国の施策に基づき、極めて高度な公共性と制約性を有しており、保険医療機関は、社会保険診療報酬という低廉かつ公定価格のもとに国民に對し必要な医療を提供しております。

平成元年四月に導入・実施された消費税法では、社会政策的な配慮に基づき社会保険医療を非課税取引とし、最終消費者への税の転嫁を行っております。仕入れに係わる消費税分は、社会保険診療報酬に上乘せられているといわれておりますが、医療機関としては経営上の負担になつているといわざるを得ません。

高齢化に伴う社会保障負担増や直間比率の見直し等に対処するため、消費税率の引き上げが予想されており、このままでは転嫁されない消費税が財政逼迫に陥っている医療機関の経営を一段と窮地に追い込むこととなります。

右記の実情をご理解頂き、国民の健康に係わる地域医療及び国民医療の質的低下を防止するためにも、医療機関をめぐる消費税の負担に関し次に掲げる要望事項の実現を強く望みます。

○非課税とされている社会保険医療を課税とし、ゼロ・パーセント税率を適用すること（いわゆるゼロ税率制度）。

平成六年十一月十七日

社団法人 日本病院
会長 諸橋



「改革」政策委員長 中野寛成 殿
厚生部会長 野呂昭彦 殿
担当三查 石田祝穂 殿

平成7年2月8日

自由民主党政務調査会
社会部会長 待 野 隆 一 殿

社団法人 日本病院
会 長 諸 橋 芳



要 望 書

——地域医療の再建をめざして——

本年1月17日未明、兵庫県南部を襲った阪神大震災は、2月7日現在、死者・不明者5,279名、負傷者26,815名、倒・損壊家屋109,464棟に上り、被害総額は9兆5千億円を越える史上空前、戦後最大の火災事となった。

その中で病院の被害状況は2月6日現在、342調査病院のうち「全半壊・焼失等の大被害」が13病院、「軽度被害」が190病院に及び、診療所にいたっては「診療不可能」が961箇所にとんでおり（厚生省調査）、地域医療を担う民間医療機関は壊滅的打撃を蒙った。

また、病院被害概算総額は300億円に上っており、医療機関は激甚災害法の補助対象にも入っておらず、政府はじめ諸機関は財源をどこから手当てするか議論百出とのことで未だ方針らしいものがでてこないのは誠に遺憾である。

このような中で、医師をはじめ医療関係者は被災患者を1人でも多く救済しようと獅子奮迅の努力を続けているが、一方で民間病院の施設復興の展望は、未だ全く見出だされないのが現状である。

以上のことにより、震災復興のため、新聞で報道されている建設国債の発行、所得減税の圧縮、消費税率の見直し等による復興財源の検討を含め、早急な特別立法を強く要望し、下記事項の早急な実現を要望するものであり、いまこそ21世紀にむけた、「民あるがゆえに国あり」という原点に立った政治を望むものであります。

記

1. 激甚災害法の一部改正を行い、社会資本である医療機関は公私を問わず指定し、補助対象にすること。
2. 医療施設復旧は急務であり、1日でも早い地域医療体制の確立が望まれる中で、医療施設近代化施設整備事業費の枠を拡大し、被災地域民間医療施設に振り分け、補助条件を大幅に緩和すること。
また、地震に強い建築工法を採用することを新たに条件にする。
3. 被災地域の医療機関に対し、社会福祉・医療事業団等は復興に要する全額を無利子融資すること（5年間据え置き30年の年賦償還等）。
4. 被災地域の医療機関に対し、社会保険診療報酬について、1月診療分の請求時期を遅らせ、また翌月概算払い等行うなど特別の配慮を行うこと。

- 5.医療機関特に、被災民間病院が順調な経営に達するまで、税制面の優遇措置を講ずること。
- (1)被災した減価償却資産に関する特別償却および税額控除制度の創設（国税）
被災した病院建物等を建て直した場合、あるいは、破損した医療用機器等を買替えた場合には、一定期間・一定率の特別償却および税額控除を適用すること。
- (2)被災病院の繰越欠損金については、損金の額に算入できる期間を延長すること。
- (3)被災した減価償却資産および敷地に対する特例措置
- ①登録免許税の免除（国税）
被災した病院建物等を建て直した場合の登記に要する登録免許税を免除すること。
- ②不動産取得税の免除（都道府県民税）
被災した病院建物等を建て直した場合の不動産取得税を免除すること。
- ③固定資産税の免除（市町村民税）
被災した病院建物等の建直しにより取得した家屋、破損した医療用機器等の買い替えにより取得した償却資産、被災した病院の敷地に関する固定資産税を一定期間免除すること。
- (4)被災した病院等の移転に伴う土地の譲渡所得の免除
被災した病院等の移転に伴い譲渡した、病院等の敷地に係る譲渡所得を非課税とすること。
- (5)被災病院の寄付金収入については非課税とすること。
同様に、被災病院に対する寄付金は全額損金とすること。
- 6.将来の地震災害に備えるため、政府は医療機関の「地震保険制度」「地震共済制度」等早急に確立すること。
- 7.自衛隊、警察、消防、医療機関が共通の情報にて活動できる災害医療体制を早急に確立すること。

以 上

県内病院の被害状況と現状

区 域	病 院 数	調 査 病 院 数	被 害 状 況		診 療 実 施 病 院	
			全 半 壊 焼失等大被害	軽度被害	入 院	外 来
神 戸 市	1 1 2	1 0 2	1 0	8 8	9 3	9 6
東 灘 区	5	4	1	3	3	3
灘 区	8	5	1	4	4	4
中 央 区	2 2	1 9	1	1 8	2 1	2 2
長 田 区	1 2	1 2	3	9	7	9
兵 庫 区	1 2	1 1	2	1 0	9	9
須 磨 区	1 2	1 2	1	8	1 1	1 0
垂 水 区	7	7		7	7	7
西 区	1 6	1 5		1 3	1 5	1 5
北 区	1 8	1 7	1	1 6	1 6	1 7
西 宮 市	2 2	2 2	1	2 1	2 1	2 1
芦 屋 市	5	3	1	1	3	3
伊 丹 市	9	9	1	5	9	9
宝 塚 市	5	3		3	3	3
尼 崎 市	2 8	2 8		1 5	2 8	2 8
川 西 市	9	9		4	9	9
川 辺 郡						
三 田 市	8	7			7	7
明 石 市	2 1	2 1			2 1	2 1
高 砂 市	1	1			1	1
加 古 川	1 7	1 7		1 5	1 7	1 7
加 古 郡						
西 脇 市						
多 可 郡	4	4		3	4	4
小 野 市						
加 東 郡	6	6		4	6	6
三 木 市						
美 夙 郡	6	6		2		

※ 全半壊・焼失等大被害：病院あるいは病棟が使用できない状態にある施設

軽度被害：壁の亀裂や高架水槽の破損等被害の比較的軽い施設

※ 兵庫県医師会の調査による

区 域	病 院 数	調 査 病 院 数	被 害 状 况		診 療 実 施 病 院	
			全 半 壊 焼 失 等 大 被 害	軽 度 被 害	入 院	外 来
加 西 市	2	2		1	2	2
姫 路 市	4 6	4 6		1 5	4 6	4 6
神 崎 郡						
神 戶 郡	4	4		2	4	4
竜 野 市	9	9			9	9
揖 保 郡						
作 用 郡	3	3			3	3
穴 栗 郡	1	1			1	1
赤 穂 市	4	4			4	4
相 生 市	5	5		1	5	5
豊 岡 市	3	3		1	3	3
出 石 郡	1	1		1	1	1
城 崎 郡	2	2			2	2
朝 来 郡						
養 父 郡	5	5		2	5	5
美 方 郡	4	4			4	4
水 上 郡	4	4		1	4	4
多 紀 郡	3	3			3	3
洲 本 市	2	2		2	2	2
津 名 郡	1	1		1	1	1
三 原 郡	5	5		2	5	5
合 計	3 5 7	3 4 2	1 3	1 9 0	3 2 6	3 2 9

兵庫県南部地震に伴う医療施設被災状況台帳

地区名	番号	医療施設名	所在地	開設者	病床数	被災内容等	現状
神戸	1	宮地病院	神戸市東灘区	医療法人明倫会	199	半壊。倒壊の恐れがあり、全体使用不能	
	2	金沢病院	灘区	医療法人愛和会	188	倒壊のおそれあり、入院患者全員避難	
	3	上田病院	中央区	上田 緑 郎	52	同 上	
	4	荻原みさき病院	兵庫区	医療法人一輝会	120	同 上	
	5	中山病院	兵庫区	医療法人社団大有会	68	全 焼	
	6	高橋病院	長田区	高 橋 諄	112	半 焼	近日中に、一部 外来・入院再開 予定
	7	神戸市立西市民病院	長田区	神 戸 市	370	半 壊	救急外来のみ対 応
	8	相信病院	須磨区	医療法人紫明会	101	倒壊のおそれあり、入院患者全員避難	
阪神	9	上ヶ原病院	西宮市	医療法人財団樹徳会	116	全 壊	
	10	西宮渡辺病院	西宮市	医療法人高明会	192	半壊。検査部門等全面使用不可	一部、外来・入 院実施
	11	芦屋セントマリア病院	芦屋市	登 根 孝 之	70	倒壊のおそれあり、入院患者全員避難	
	12	渡辺産婦人科病院	芦屋市	渡 辺 二三男	22	倒壊のおそれあり、入院患者全員避難	
	13	常岡病院	伊丹市	常 岡 豊	111	半壊。本館は使用不能	一部、外来・入 院実施

兵庫県南部震災による病院の被害状況調査報告

区 分	被 害 病院数	診療施設の被害状況		設備機器の被害状況		被 害 額 合 計 概 算 金 額 百万円
		概 算 金 額 百万円	設備概算金額 百万円	機器概算金額 百万円		
神戸市	102	14,988	1,014	4,072	20,619	
東灘区	5	2,175	10	060	2,845	
灘 区	8	787	80	883	1,180	
中央区	18	2,894	91	1,297	4,282	
兵庫区	12	3,238	25	218	8,476	
北 区	18	600	91	138	824	
長田区	12	8,491	6	1,440	4,948	
須磨区	10	1,294	152	560	2,006	
垂水区	7	77	80	0	157	
西 区	12	427	529	0	850	
西宮市	21	8,369	215	680	4,214	
芦屋市	5	365	24	185	574	
伊丹市	8	578	154	111	838	
宝塚市	5	126	45	164	885	
尼崎市	28	1,209	196	30	1,429	
川西市	4	30	7	8	40	
淡 路	5	11	108	1	120	
合 計	178	80,610	1,788	5,796	28,189	

兵庫県私立病院協会の調べによる



平成7年3月22日

厚生大臣

井出 正一 殿

社団法人 日本病院
会長 諸 橋 芳



阪神・淡路大震災に係る地域医療の復旧・確保について（要望）

戦後、未曾有の大惨事となった阪神・淡路大震災は、発生後2月が過ぎようとしているにも拘らず、いまなお10万人に近い市民が避難所生活を余儀なくされている。

不自由な生活からくる肉体的・精神的苦痛は被災者に様々な変調をきたし、更には、未だかつて経験のない災害のショックを基因として、今後、予想だにしない精神的障害を誘発する恐れがある。

これらに対処するためにも、一日も早く完全な医療体制の復旧、確保をし、地域住民の健康の維持、増進に務めなければならない。

市民生活の根幹となる病院の復興のため、次の事項について、より一層の措置を早急に講じられるよう強く要望する。

要 望 事 項

1. 無利子長期融資を実施されたい。
2. 民間医療施設を社会資本として認識され、国庫補助の拡充を図られたい。

役職名	氏名	住所	〒	連絡先	TEL
顧問	左奈田 幸夫	システム総合開発研究所顧問	160	東京都新宿区大京町29 御苑プラザビル402号	03-3359-8941
		自宅	155	東京都世田谷区代田4-10-16	03-3328-0830
"	小野田 敏郎	佼成病院 名誉院長	176	東京都練馬区中村南3-24 (自宅)	03-3990-9589
"	内藤 景岳	総合病院南大阪病院 院長	559	大阪府大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18	06-685-0221
"		自宅	558	大阪府大阪市住吉区帝塚山中1-8-9	06-673-4130
"	遠山 豪	遠山病院 名誉院長	514	三重県津市南新町17-22	0592-27-6171
"		自宅	607	京都府京都市山科区御陵封じ山町3-22	075-581-3327
"	岡山 義雄	東海記念病院 理事長	487	愛知県春日井市廻間町大字大洞681-47	0568-88-0568
"		自宅	461	愛知県名古屋市中区泉1-17-3 第2オレンジビル8F-A	052-951-2420
"	若月 俊一	佐久総合病院 総長	384-03	長野県南佐久郡臼田町大字臼田197	0267-82-3131
"		自宅	384-03	長野県南佐久郡臼田町大字臼田2211-2	0267-82-2045
"	財津 晃	長浜赤十字病院 名誉院長	522	滋賀県彦根市大藪町225-143 (自宅)	0749-26-2277
"	小野 肇	大口東総合病院 理事長	221	神奈川県横浜市神奈川区入江2-19-1	045-401-2411
"		自宅	231	神奈川県横浜市中区石川町2-78	045-641-4879
"	村瀬 敏郎	日本医師会 会長	113	東京都文京区本駒込2-28-16	03-3946-2121
"	大浜 方栄	参議院 議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館733号室	03-3581-3111 内5733
"		衆議院 議員	100	東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院議員第2議員会館231号室	03-3581-5111 内7231
"	宮崎 秀樹	参議院 議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館313号室	03-3581-3111 内5313
参与	高久 史磨	国立国際医療センター 総長	162	東京都新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181
		自宅	176	東京都練馬区旭ヶ丘1-43-40	03-3953-9833
"	行天 良雄	医事評論家	240	神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘1-5-22 (自宅)	045-331-2938
"	牧野 永城	元聖路加国際病院 院長	247	神奈川県横浜市栄区庄戸5-17-2 (自宅)	045-894-0672
"		岡崎 通	国立津病院 名誉院長	514	三重県津市洪見町770-35 (自宅)
"	寺田 守	公立陶生病院 名誉院長	489	愛知県瀬戸市西追分町160	0561-82-5101
"	内田 卿子	前聖路加国際病院 副院長	336	埼玉県浦和市東岸町18-18 パークハイム浦和511号 (自宅)	048-886-3745
"		岩崎 榮	日本医科大学 医療管理学 教授	113	東京都文京区千駄木1-1-5
"	見藤 隆子	自宅	121	東京都足立区六月1-36-20-306	03-3860-2747
"		日本看護協会 会長	150	東京都渋谷区神宮前5-8-2	03-3400-8331
"	齋藤 侑也	日本病院薬剤師会 会長	150	東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念会館304号	03-3406-0485
"		元杏林大学 医学部 教授	113	東京都文京区本郷5-29-13-704 (自宅)	03-3814-3027
"	海北 幸男	医療法人きっこう会 事務局長	550	大阪府大阪市西区境川1-2-31 総合病院多根病院内	06-581-1071
"		自宅	650	兵庫県神戸市中央区港島中町6-14	078-302-8927

役員

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病 院 所 在 地	T E L
会 長	千葉県	諸 橋 芳 夫	総合病院国保旭中央病院	市 町 村	289-25	旭市イの1326	0479-63-8111
						F A X	0479-62-0330
					289-25	旭市イの1863	0479-62-0368
					153	目黒区中目黒1-1-17 恵比寿苑211	03-3711-6604
副 会 長	静岡県	中 山 耕 作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人	430	浜松市住吉2-12-12	053-474-2222
						F A X	053-475-7596
"	茨城県	登 内 真	総合病院土浦協同病院	厚 生 連	433	浜松市幸2-17-1	053-474-6867
					300	土浦市真鍋新町11-7	0298-23-3111
"	岡山県	依 田 忠 雄	総合病院岡山赤十字病院	日 赤	161	新宿区中落合3-29-6	0298-23-1160
					700	岡山市青江65-1	03-3951-1982
"	東京都	河 北 博 文	河北総合病院	医療法人	700	岡山市丸の内2-1-28	086-222-8811
					166	F A X	086-222-8841
					180	杉並区阿佐谷北1-7-3	03-3339-0330
					180	F A X	03-3338-2005
常 任 理 事	北海道	西 村 昭 男	日 鋼 記 念 病 院	医療法人	051	武蔵野市吉祥寺南町3-4-12	0422-43-4253
						F A X	0422-43-4253
"	岩手県	小 山 田 恵	岩手県立中央病院	都道府県	051	室蘭市新富町1-5-13	0143-24-1331
					020	F A X	0143-24-1064
"	埼玉県	原 田 充 善	川口市立医療センター	市 町 村	020	室蘭市母恋北町2-9-14	0143-24-1331
					020	F A X	0196-53-1151
"	東京都	小 林 登	国立小児病院	国	020	盛岡市上田1-4-1	0196-53-2528
					333	F A X	0196-22-0401
"	東京都	高 橋 勝 三	武蔵野赤十字病院	日 赤	333	川口市大字西新井宿180	048-287-2525
					112	F A X	048-280-1566
"	"	伊 賀 六 一	東京都済生会中央病院	済 生 会	154	東京都文京区小石川2-5-9	03-3811-5937
					158	F A X	03-3414-8121
"	"	高 橋 勝 三	武蔵野赤十字病院	日 赤	154	世田谷区太子堂3-35-31	03-3419-0381
					180	F A X	03-3700-6286
"	"	伊 賀 六 一	東京都済生会中央病院	済 生 会	180	世田谷区瀬田5-1-9	0422-32-3111
					184	F A X	0422-32-3525
"	"	伊 賀 六 一	東京都済生会中央病院	済 生 会	184	武蔵野市境南町1-26-1	0423-83-1968
					108	F A X	0423-83-1968
"	"	高 橋 勝 三	武蔵野赤十字病院	日 赤	108	港区三田1-4-17	03-3451-8211
					150	F A X	03-3457-7949
"	"	伊 賀 六 一	東京都済生会中央病院	済 生 会	150	渋谷区広尾1-7-7-307	03-3407-6794
					169	F A X	03-3364-0251
"	"	高 橋 勝 三	武蔵野赤十字病院	日 赤	169	新宿区百人町3-22-1	03-3364-5663
					152	F A X	03-3710-1615
"	"	高 橋 勝 三	武蔵野赤十字病院	日 赤	204	目黒区鷹番1-13-20-206	03-3710-1615
					204	F A X	0424-91-2121
"	神奈川県	土 屋 章	湘野辺総合病院	医療法人	177	清瀬市旭が丘1-261	0424-91-1441
					229	F A X	0424-91-1441
"	神奈川県	土 屋 章	湘野辺総合病院	医療法人	229	練馬区東大泉3-38-10	03-3922-1271
					229	F A X	0427-54-2222
"	新潟県	小 澤 寛 二	国立療養所新潟病院	国	229	相模原市湘野辺3-2-8	0427-57-4170
					945	F A X	0427-52-5193
"	新潟県	小 澤 寛 二	国立療養所新潟病院	国	945	相模原市湘野辺1-8-7	0427-52-5193
					910	F A X	0257-22-2126
"	福井県	藤 沢 正 清	福井県済生会病院	済 生 会	910	柏崎市赤坂町3-52	0257-24-9812
					910	F A X	0776-23-1111
					910	福井市和田中町舟橋7-1	0776-28-8527
					910	F A X	0776-21-2033

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
常任理事	愛知県	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜1-9-9	0586-72-1211
				自宅	491	一宮市東島町2-40	FAX 0586-71-0017 0586-73-6110
"	大阪府	大道 學	大道病院	医療法人	536	大阪市城東区東中浜1-3-17	06-967-7111
				自宅	659	芦屋市三条町23-5	FAX 06-963-2233 0797-34-0126
"	大阪府	中後 勝	医療法人愛仁会本部	医療法人	530	大阪市北区免我野町4-12	06-315-0576
				自宅	662	西宮市愛宕山15-42	ニューナショナルビル5F FAX 06-315-6186 0798-73-7278
"	兵庫県	北村 行彦	優生病院	個人	660	尼崎市杭瀬本町2-19-15	06-488-1851
				自宅	664	伊丹市鈴原町7-49-2	FAX 06-488-1854 0727-81-1785
"	広島県	高科 成良	広島総合病院	厚生連	738	廿日市市地御前1-3-3	0829-36-3111
				自宅	731-51	広島市佐伯区吉見園23-11	FAX 0829-36-5573 0829-21-4829
"	山口県	村田 寿太郎	村田博愛病院	医療法人	747	防府市お茶屋町2-12	0835-22-2310
				自宅	747	防府市三田尻1-35	FAX 0835-25-1675 0835-22-3888
"	長崎県	福井 順	長崎記念病院	医療法人	851-03	長崎市深堀町1-11-54	0958-71-1515
				自宅	850	長崎市江川町448-7	FAX 0958-71-1510 0958-78-3512
"	沖縄県	廣田 耕三	大浜第一病院	医療法人	902	那覇市安里1-7-3	098-866-5171
				自宅	902	那覇市繁多川5-3-3 グランシャトレ繁多川305	FAX 098-864-1874 098-835-1882
理事	北海道	芝木 秀俊	総合病院北見赤十字病院	日赤	090	北見市北6条東二丁目	0157-24-3115
				自宅	090	北見市幸町1-3-8	0157-23-3365
"	秋田県	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	日赤	010	秋田市中通1-4-36	0188-34-3361
				自宅	010	秋田市高陽青柳町14-2	0188-24-4484
"	"	林 雅人	平鹿総合病院	厚生連	013	横手市駅前町1-30	0182-32-5121
				自宅	013	横手市旭川3-3-31	0182-32-1725
"	福島県	遠藤 良一	白河厚生総合病院	厚生連	961	白河市横町114	0248-22-2211
				自宅	961	白河市昭和町249-3	0248-22-1659
"	"	屋 源之助	総合会津中央病院	公益法人	965	会津若松市鶴賀町1-1	0242-25-1515
				自宅	965	会津若松市日新町6-17	0242-27-9087
"	埼玉県	横田 修	大宮赤十字病院	日赤	338	与野市上落合903	048-852-1111
				自宅	336	浦和市曲本1-6-15	048-861-9277
"	千葉県	柏戸 正英	柏戸病院	医療法人	260	千葉市中央区長洲2-21-8	043-227-8366
				自宅	260	千葉市中央区長洲2-21-16	043-222-3759
"	東京都	中川 三与三	九段坂病院	共済及び連合	102	千代田区九段南2-1-39	03-3262-9191
				自宅	185	国分寺市富士本1-31-1	0425-72-4687
"	"	高山 肇	高山整形外科病院	医療法人	125	葛飾区金町3-4-5	03-3607-3260
				自宅	271	松戸市二十世紀ヶ丘萩町196-2	0473-62-0655
"	"	須藤 祐司	嬉泉病院	医療法人	125	葛飾区東金町1-35-8	03-3600-9001
				自宅	125	葛飾区東金町6-18-16	03-3608-0016
"	神奈川県	宗雪 武	横浜赤十字病院	日赤	231	横浜市中区根岸町2-85	045-622-0101
				自宅	235	横浜市磯子区洋光台4-5-3	045-833-7616
"	"	加藤 英夫	国際親善総合病院	その他法人	245	横浜市泉区西が岡1-28-1	045-813-0221
				自宅	158	東京都世田谷区上用賀2-5-1-707	03-3420-4879

職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
事	新潟県	木村 明	新潟市民病院	市町村 自宅	950	新潟市紫竹山2-6-1	025-241-5151
					950-11	西蒲原郡黒崎町大字金巻966-1	025-379-1385
"	"	桑名 昭治	桑名病院	医療法人 自宅	950	新潟市寺古川町6-4	025-273-2251
					951	新潟市二葉町1-820	025-223-3741
"	富山県	舘野 政也	富山県立中央病院	市町村 自宅	930	富山市西長江2-2-78	0764-24-1531
					930	富山市長江新町4-1-23	0764-24-6775
"	山梨県	許山 隆	許山胃腸病院	医療法人 自宅	400	甲府市中央1-12-6	0552-33-5107
					961	甲府市中央1-12-6	0552-23-0534
"	岐阜県	須原 邦和	岐阜県立岐阜病院	都道府県 自宅	500	岐阜市野一色4-6-1	0582-46-1111
					501-31	岐阜市静が丘町14	0582-42-0459
"	"	木澤 彰	木澤記念病院	医療法人 自宅	505	美濃加茂市古井町下古井590	0574-25-2181
					505	美濃加茂市古井町下古井590	0574-25-2181
"	愛知県	六鹿 直視	半田市立半田病院	市町村 自宅	475	半田市東洋町2-29	0569-22-9881
					492	稲沢市正明寺2-5-14	0587-32-1975
"	"	福田 浩三	上飯田第一病院	医療法人 自宅	462	名古屋市北区飯田北町2-70	052-991-3111
					462	名古屋市北区山田北町2-28-5	052-914-4048
"	三重県	安保 喜久郎	山本総合病院	医療法人 自宅	511	桑名市寿町3-11	0594-22-1211
					511	桑名市船馬町11	0594-22-5897
"	京都府	橋本 勇	京都第一赤十字病院	日 赤 自宅	605	京都市東山区本町15-749	075-561-1121
					606	京都市左京区下鴨東森ヶ前町10-1	075-781-1003
"	"	武田 隆男	武田総合病院	医療法人 自宅	601-13	京都市伏見区石田森南町28-1	075-572-6331
					600	京都市下京区木津屋橋通油好事 東入南町507番地	075-371-2765
"	大阪府	豊島 正忠	中津医療福祉センター	済生会 自宅	530	大阪市北区芝田2-10-39	06-372-0333
					565	吹田市古江台1-20-10	06-831-1145
"	"	武田 惇	大阪府済生会泉尾病院	済生会 自宅	551	大阪市大正区北村3-4-5	06-552-0091
					573	枚方市楠葉美咲3-12-20	0720-55-0461
"	"	加納 繁美	総合加納病院	医療法人 自宅	531	大阪市北区天神橋7-5-26	06-351-5381
					662	西宮市霞町4-17	0798-36-6000
"	"	岸口 繁	府中病院	医療法人 自宅	594	和泉市肥子町1-10-17	0725-41-1646
					589	大阪狭山市大野台2-25-6	0723-66-6555
"	兵庫県	宮地 知男	宮地病院	医療法人 自宅	658	神戸市東灘区本山中町4-1-8	078-451-1221
					658	神戸市東灘区岡本6-1-26	078-431-1088
"	"	荒尾 素次	はりま病院	医療法人 自宅	675	加古川市尾上町長田525	0794-23-2123
					675	加古川市尾上町池田769-1	0794-23-5619
"	奈良県	南 溢	秋津鴻池病院	医療法人 自宅	639-22	御所市大字池の内1064	07456-2-2058
					639-22	御所市大字柏原1604	07456-2-2765
"	和歌山県	遠藤 香苗	和歌浦中央病院	医療法人 自宅	641	和歌山市塩屋6-2-70	0734-44-1600
					642	海南市日方1188	07348-2-8035
"	"	中村 了生	中村病院	医療法人 自宅	640	和歌山市友田町2-32	0734-31-0351
					640	和歌山市新内217	0734-22-5138
"	岡山県	上野 英高	津山中央病院	公益法人 自宅	708	津山市二階町67	0868-22-6111
					708	津山市椿高下16	0868-22-3496
"	広島県	伊藤 剛二	伊藤胃腸科病院	個人 自宅	734	広島市南区皆美町6-15-7	082-254-0311
					734	広島市南区皆美町6-18-31	082-251-0633
"	愛媛県	重松 授	愛媛県立中央病院	都道府県 自宅	790	松山市春日町83	0899-47-1111
					790	松山市土居田町600-1	0899-71-5716
"	高知県	長崎 彬	高知赤十字病院	日 赤 自宅	780	高知市新本町2-13-51	0888-22-1201
					780	高知市薊野2018	0888-22-7660

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
理事	高知県	田中 稔 正	田中整形外科病院	医療法人 自宅	780	高知市上町3-2-6	0888-22-7660
					780	高知市上町3-1-6	0888-75-5309
"	福岡県	井手 道 雄	総合病院聖マリア病院	医療法人 自宅	830	久留米市津福本町422	0942-35-3322
					830	久留米市西町712	0942-33-2809
"	長崎県	寺本 成 美	国立長崎中央病院	国 自宅	856	大村市久原2-1001-1	0957-52-3121
					850	長崎市田上町413-1	0958-26-0168
"	熊本県	志摩 清	熊本市市民病院	市町村 自宅	862	熊本市湖東1-1-60	096-365-1711
					862	熊本市保田窪本町778-5	096-382-6636
"	大分県	肥田木 孜	大分県立病院	都道府県 自宅	870	大分市豊鏡476	0975-46-7112
					870	大分市春日町1-14	0975-34-6369
"	宮崎県	本松 研 一	宮崎県立宮崎病院	都道府県 自宅	880	宮崎市北高松町5-30	0985-24-4181
					880	宮崎市船塚1-106	0985-22-3305

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
監事	東京都	星 和 夫	青梅市立総合病院	市町村 自宅	198	青梅市東青梅4-16-5	0428-22-3191
					176	練馬区向山4-12-18	F A X 0428-24-5126
"	千葉県	梶原 優	板倉病院	医療法人 自宅	273	船橋市本町2-10-1	03-3999-4078
					273	船橋市本町2-10-1	F A X 0474-31-2662 0474-32-8578 0474-33-4566

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
代議員会 議長	福井県	向野 榮	福井赤十字病院	日 赤 自宅	910	福井市月見2-4-1	0776-36-3630
					910	福井市月見2-4-1	F A X 0776-36-4133 0776-36-0268
代議員会 副議長	東京都	加藤 正 弘	江戸川病院	その他法人 自宅	133	江戸川区東小岩2-24-18	03-3673-1221
					133	江戸川区東小岩3-6-5	F A X 03-3673-1229 03-3659-8122

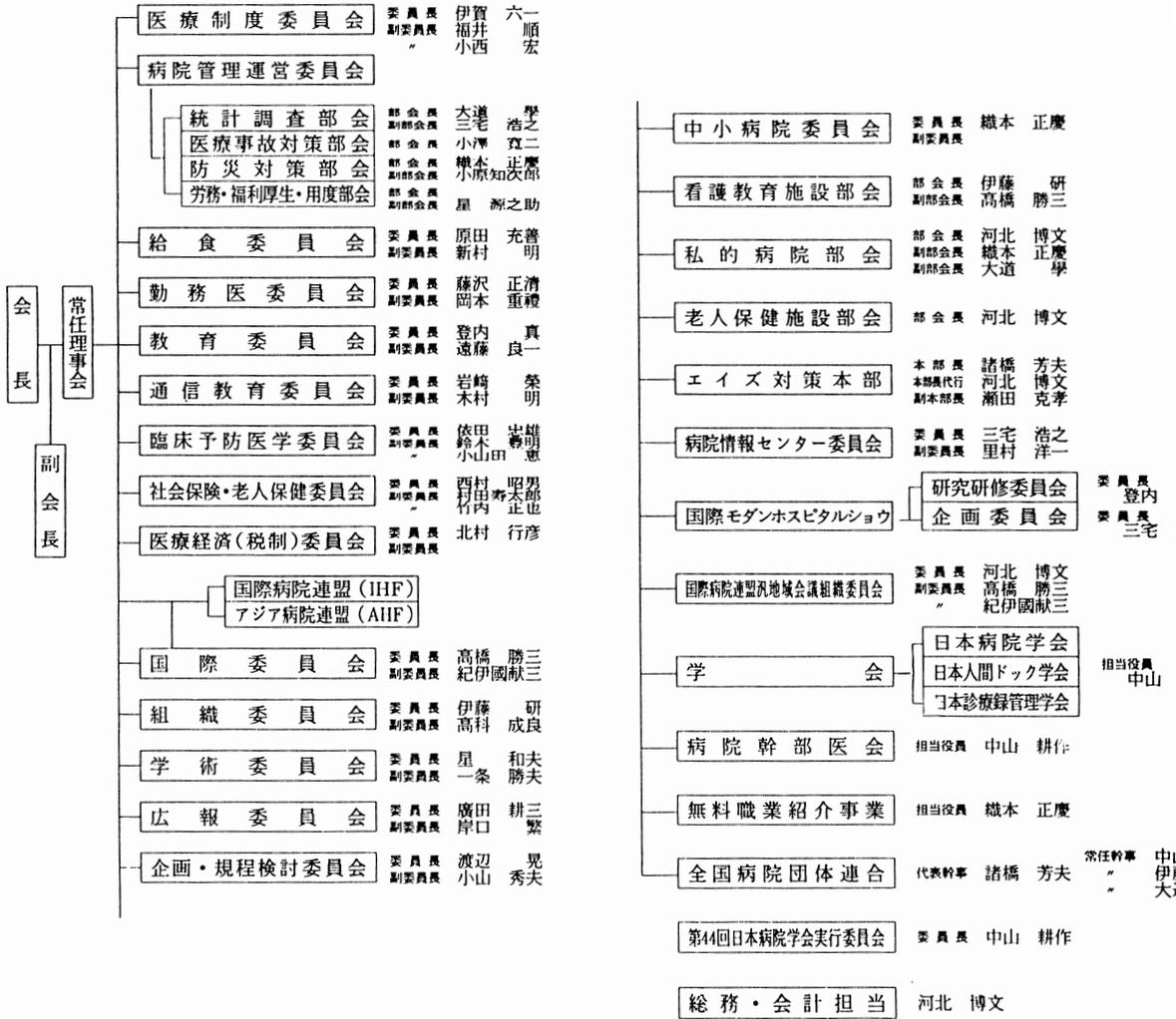
代 議 員

交 職 名	都 道 府 県 名	氏 名	病 院 名	経営主体	〒	病 院 所 在 地	T E L
代 議 員	北 海 道	南 須 原 浩 一	砂 川 市 立 病 院	市 町 村	073-01	砂 川 市 西 四 条 北 2 - 6 - 1	01255-4-2131
"	"	幸 田 和 男	釧 路 赤 十 字 病 院	日 赤	085	釧 路 市 新 栄 町 21 - 14	0154-22-7171
"	青 森 県	津 嶋 恵 輔	国 立 弘 前 病 院	国	036	弘 前 市 大 字 富 野 町 1 番 地	0172-32-4311
"	"	中 村 登 喜 雄	中 村 整 形 外 科 病 院	個 人	037	五 所 川 原 市 宇 一 ツ 谷 160	0173-34-3315
"	岩 手 県	金 谷 春 之	北 上 濟 生 会 病 院	濟 生 会	024	北 上 市 花 園 町 1 - 6 - 8	0197-64-7722
"	"	遠 山 美 知	遠 山 病 院	医 療 法 人	020	盛 岡 市 下 ノ 橋 町 6 - 14	0196-51-2111
"	宮 城 県	佐 々 木 陸 郎	宮 城 健 康 保 険 病 院	全 社 連	982	仙 台 市 太 白 区 長 町 2 - 4 - 18	022-248-0161
"	"	富 永 忠 弘	仙 台 オ ー プ ン 病 院	公 益 法 人	983	仙 台 市 宮 城 野 区 鶴 ヶ 谷 5 - 22 - 1	022-252-1111
"	秋 田 県	岸 部 隆	北 秋 中 央 病 院	厚 生 連	018-33	北 秋 田 郡 鷹 巣 町 花 園 町 10 - 5	0186-62-1455
"	"	瀬 戸 泰 士	中 通 病 院	医 療 法 人	010	秋 田 市 南 通 み そ の 町 3 - 15	0188-33-1122
"	山 形 県	仁 科 盛 章	三 友 堂 病 院	公 益 法 人	992	米 沢 市 中 央 6 - 1 - 219	0238-24-3700
"	福 島 県	本 宿 尚	公 立 藤 田 総 合 病 院	市 町 村	969-17	伊 達 郡 国 見 町 大 字 塚 野 目 字 三 本 木 14	0245-85-2121
"	"	渡 辺 正 光	渡 辺 内 科 胃 腸 科 病 院	医 療 法 人	960	福 島 市 北 町 1 - 40	0246-22-4421
"	茨 城 県	會 澤 孝	大 洗 海 岸 病 院	医 療 法 人	311-13	東 茨 城 郡 大 洗 町 大 貫 町 915	0292-67-2191
"	"	石 岡 国 春	総 合 病 院 水 戸 協 同 病 院	厚 生 連	310	水 戸 市 宮 町 3 - 2 - 7	0292-67-2371
"	栃 木 県	奈 良 昌 治	足 利 赤 十 字 病 院	日 赤	326	足 利 市 本 城 3 - 2100	0284-21-0121
"	"	長 谷 川 嗣 夫	自 治 医 科 大 学 附 属 病 院	学 校 法 人	329-04	河 内 郡 南 河 内 町 葉 師 寺 3311 - 1	0285-44-2111
"	群 馬 県	長 洋	前 橋 赤 十 字 病 院	日 赤	371	前 橋 市 朝 日 町 3 - 21 - 36	0272-24-4585
"	"	山 崎 学	慈 光 会 病 院	医 療 法 人	370	高 崎 市 上 佐 野 町 786 - 7	0273-47-1177
"	埼 玉 県	春 日 善 男	社 会 保 険 埼 玉 中 央 病 院	全 社 連	336	浦 和 市 北 浦 和 4 - 9 - 3	048-832-4951
"	"	井 上 寿 一	上 福 岡 総 合 病 院	医 療 法 人	356	上 福 岡 市 大 字 福 岡 931	0492-66-0111
"	"	漆 原 彰	大 宮 共 立 病 院	個 人	330	大 宮 市 大 字 片 柳 1550	048-686-7151
"	千 葉 県	森 博 志	国 立 千 葉 病 院	国	260	千 葉 市 中 央 区 椿 森 4 - 1 - 2	043-251-5311
"	"	奥 山 武 雄	船 橋 市 立 医 療 セ ン タ ー	市 町 村	273	船 橋 市 金 杉 1 - 21 - 1	0474-38-3321
"	"	三 橋 稔	習 志 野 第 一 病 院	医 療 法 人	275	習 志 野 市 津 田 沼 5 - 5 - 25	0474-54-1511
"	"	早 田 正 敏	山 之 内 病 院	医 療 法 人	297	茂 原 市 町 保 3	0475-25-1131
"	東 京 都	中 根 晃	都 立 梅 ヶ 丘 病 院	都 道 府 県	156	世 田 谷 区 松 原 6 - 37 - 10	03-3323-1621
"	"	高 畠 弘	都 立 台 東 病 院	都 道 府 県	111	台 東 区 千 束 3 - 20 - 5	03-3874-7441
"	"	金 地 嘉 夫	金 地 病 院	医 療 法 人	114	北 区 中 里 1 - 5 - 6	03-3821-6433
"	"	加 藤 正 弘	江 戸 川 病 院	他 法 人	133	江 戸 川 区 東 小 岩 2 - 24 - 18	03-3673-1221
"	"	村 上 義 次	日 暮 里 上 宮 病 院	他 法 人	116	荒 川 区 東 日 暮 里 2 - 29 - 8	03-3891-5291
"	神 奈 川 県	荏 原 光 夫	高 田 中 央 病 院	個 人	223	横 浜 市 港 北 区 高 田 町 342	045-592-5557
"	新 潟 県	小 山 真	県 立 新 発 田 病 院	都 道 府 県	957	新 発 田 市 大 手 町 4 - 5 - 48	0254-22-3121
"	"	荒 井 奥 弘	長 岡 赤 十 字 病 院	日 赤	940	長 岡 市 日 赤 町 2 - 6 - 1	0258-35-3600
"	"	平 沢 由 平	信 楽 園 病 院	他 法 人	950-21	新 潟 市 西 有 明 町 1 - 27	025-267-1251
"	富 山 県	川 岸 一 郎	万 葉 病 院	医 療 法 人	933	高 岡 市 西 海 老 坂 字 大 坪 362	0766-24-2163
"	石 川 県	杉 岡 五 郎	国 立 金 沢 病 院	国	920	金 沢 市 石 引 3 - 1 - 1	0762-62-4161
"	"	仲 井 信 雄	辰 口 芳 珠 記 念 病 院	医 療 法 人	923-12	能 美 郡 辰 口 町 字 下 開 発 11 - 1	0761-51-5551
"	福 井 県	向 野 榮	福 井 赤 十 字 病 院	日 赤	910	福 井 市 月 見 2 - 4 - 1	0776-36-3630
"	"	大 滝 秀 穂	大 滝 病 院	個 人	910	福 井 市 日 光 1 - 1 - 1	0776-23-3215
"	山 梨 県	守 亮 三	大 月 市 立 中 央 病 院	市 町 村	401	大 月 市 大 月 町 花 咲 1225	0554-22-1251

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
代議員	“	中澤忠明	加納岩総合病院	医療法人	405	山梨市上神内川1309	0553-22-2511
“	長野県	島田 憲	諏訪赤十字病院	日 赤	392	諏訪市小和田19-5	0266-52-6111
“	“	前田恒雄	相 澤 病 院	医療法人	390	松本市本庄2-5-1	0263-33-8600
“	岐阜県	井戸豊彦	岐阜赤十字病院	日 赤	502	岐阜市岩倉町3-36	0582-31-2266
“	“	松波英一	松波総合病院	医療法人	501-61	羽島郡笠松町田代185-1	05838-8-0111
“	静岡県	荻原正雄	富士市中央病院	市町村	417	富士市高島町50	0545-53-1131
“	“	福田 栄	静岡赤十字病院	日 赤	420	静岡市追手町8-2	054-254-4311
“	“	新居昭紀	総合病院聖隷三方原病院	その他法人	433	浜松市三方原町3453	053-436-1251
“	愛知県	鈴木一男	豊橋市民病院	市町村	440	豊橋市松葉町3-1	0532-52-6311
“	“	吉井才司	碧南市民病院	市町村	447	碧南市平和町3-6	0566-48-5050
“	“	青山健夫	青 山 病 院	医療法人	489	瀬戸市南山町1-53	0561-21-1118
“	“	佐藤太一郎	八千代病院	医療法人	446	安城市東栄町1-10-13	0566-97-8518
“	三重県	柳 瀬 恒 範	柳 瀬 病 院	個 人	514	津市乙部5-3	0592-27-5585
“	滋賀県	藤田 仁	大津赤十字病院	日 赤	520	大津市長等1-1-35	0775-22-4131
“	“	加藤 明	琵琶湖病院	医療法人	520-01	大津市坂本1-8-5	0775-78-2023
“	京都府	藤田洋一	公立南丹病院	市町村	629-01	船井郡八木町大字八木小字上野25	07714-2-2510
“	“	大川原康夫	山 科 病 院	公益法人	607	京都市山科区竹鼻四丁野町19-4	075-594-2323
“	“	中野 進	京都四条病院	医療法人	600	京都市下京区東堀川通四条下ル 四条堀川町272-6	075-361-5471
“	大阪府	木村正治	市立豊中病院	市町村	560	豊中市岡上の町2-1-1	06-843-0101
“	“	内野治人	大阪赤十字病院	日 赤	543	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53	06-771-5131
“	“	辻本兵博	愛 染 橋 病 院	その他法人	556	大阪市浪速区日本橋東3-1-11	06-633-2801
“	“	中野博光	中野小児病院	医療法人	535	大阪市旭区新森4-13-17	06-952-4771
“	“	川合弘毅	若草第一病院	医療法人	579	東大阪市若草町1-6	0729-8-1409
“	兵庫県	塩見文俊	神戸市立西市民病院	市町村	653	神戸市長田区一番町2-4	078-576-5251
“	“	岡田康男	姫路赤十字病院	日 赤	670	姫路市龍野町5-30-1	0792-94-2251
“	“	安田俊吉	広野高原病院	医療法人	673-02	神戸市西区北山台3-1-1	078-994-1155
“	“	松浦梅春	姫路第一病院	医療法人	671-02	姫路市御国野町国分寺143	0792-52-0581
“	奈良県	松本 功	西奈良中央病院	医療法人	631	奈良市百楽園5-2-6	0742-43-3333
“	“	巽 典 三	巽 病 院	医療法人	634	橿原市見瀬町11-1	07442-7-1115
“	和歌山県	藤田一郎	海南市民病院	市町村	642	海南市日方1272-3	0734-82-4521
“	“	濱 正 純	浜 病 院	医療法人	640	和歌山市吹上2-4-7	0734-36-2141
“	“	月山和男	月 山 病 院	個 人	640	和歌山市小松原通1-3	0734-23-2300
“	鳥取県	野島丈夫	野 島 病 院	医療法人	682	倉吉市瀬崎町2714-1	0858-22-6231
“	島根県	高橋 勝	松江赤十字病院	日 赤	690	松江市母衣町200	0852-24-2111
“	“	杉原徹彦	松江記念病院	医療法人	690	松江市上乃木町3-4-1	0852-27-8111
“	岡山県	浅野健夫	岡山市立市民病院	市町村	700	岡山市天瀬6-10	086-225-3171
“	“	木田恵三	新見中央病院	医療法人	718	新見市新見827-1	086-772-2110
“	“	滝沢千之助	水島第一病院	医療法人	712	倉敷市神田2-3-33	086-444-5333
“	広島県	岩 森 茂	広島市立安佐市民病院	市町村	731-02	広島市安佐北区可部南2-1-1	082-815-5211
“	“	高杉敬久	博 愛 病 院	個 人	737	呉市本通6-2-4	0823-23-8911
“	山口県	波多野光紀	小野田市立病院	市町村	756	小野田市大字東高泊1863-1	08368-3-2355
“	“	西田健一	阿知須同仁病院	医療法人	754-12	吉敷郡阿知須町4241-4	0836-65-2130

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	TEL
代議員	徳島県	松森 茂	小松島赤十字病院	日赤	773	小松島市中田町字新開28-1	08853-2-2555
"	香川県	美馬 恭一	香川県済生会病院	済生会	760	高松市桜町1-16-4	0878-33-1551
"	"	大林 幸	キナシ大林病院	医療法人	761	高松市鬼無町佐藤54-1	0878-81-3631
"	愛媛県	桑島 恵一	松山赤十字病院	日赤	790	松山市文京町1	0899-24-1111
"	"	宮田 信熙	松山市民病院	公益法人	790	松山市大手町2-6-5	0899-43-1151
"	高知県	山本 彰芳	高知市立市民病院	市町村	780	高知市丸の内1-7-45	0888-22-6111
"	"	細木 秀美	細木病院	医療法人	780	高知市大膳町37	0888-22-7211
"	福岡県	武谷 溶	九州中央病院	共済及び連合	815	福岡市南区塩原3-23-1	092-541-4936
"	"	佐々木 勇之進	福岡病院	医療法人	811-32	宗像郡福岡町向山2310	0940-42-0145
"	"	安藤 精彌	西福岡病院	医療法人	814	福岡市西区生の松原3-18-8	092-881-1331
"	佐賀県	花田 基典	唐津赤十字病院	日赤	847	唐津市二夕子1-5-1	0955-72-5111
"	"	山口 弾之	至誠会病院	医療法人	840	佐賀市田代2-7-24	0952-24-5325
"	長崎県	高木 忠一郎	十善会病院	その他法人	850	長崎市籠町7-18	0958-21-1214
"	熊本県	松金 秀暢	熊本赤十字病院	日赤	862	熊本市長嶺町2255-209	096-384-2111
"	"	高野 正博	高野病院	医療法人	862	熊本市帯山4-2-88	096-384-1011
"	大分県	家永 奮	国立別府病院	国	874-01	別府市亀川内竈1473	0977-67-1111
"	"	清田 正司	大分赤十字病院	日赤	870	大分市千代町3-2-37	0975-32-6181
"	宮崎県	千代反田 泉	千代田病院	医療法人	883	日向市鶴町2-9-20	0982-52-7111
"	鹿児島県	新村 健	鹿児島赤十字病院	日赤	891-01	鹿児島市平川町2545	0992-61-2111
"	"	崎元 哲郎	花倉病院	個人	892	鹿児島市吉野町9846	0992-47-7320
"	沖縄県	比嘉 實	沖縄赤十字病院	日赤	900	那覇市古波蔵4-11-1	0988-53-3134
"	"	大山 朝弘	敬愛会中頭病院	医療法人	904-21	沖縄市字知花723	09893-9-1300

委 員 会 等 所 掌 一 覧 表



委員会委員名簿

(7年3月31日現在)

医療制度委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-8211
副委員長	福井順	長崎記念病院	理事長	長崎県	0958-71-1515
〃	小西宏	(元・済生会神奈川 県支部)		神奈川県	045-311-3550 (自宅)
	天本宏	天本病院	院長	東京都	0423-75-9581
	荒井蝶子	聖路加看護大学	教授	東京都	03-3543-6391
	池上直己	慶應義塾大学	教授	東京都	03-3353-1211
	石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-3839-5960
	今井重信	湘南中央病院	副理事長	神奈川県	0466-36-8151
	岩崎榮	日本医科大学医療管理学教室	教授	東京都	03-3822-2131
	大道久	日本大学医学部医療管理学教室	教授	東京都	03-3972-8111
	大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
	嶋崎佐智子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-8331
	星和夫	青梅市立総合病院	院長	東京都	0428-22-3191
	星源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515

病院管理運営委員会

1) 統計調査部会 (担当副会長 依田忠雄)

部会長	大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
副部会長	三宅浩之	(財)日本医薬情報センター	理事長	東京都	03-5466-1810
	梅里良正	日本大学医学部	助教授	東京都	03-3972-8111
	関田康慶	東北大学医学部	助手	宮城県	022-274-1111
	田辺俊男	医療法人大道会	企画調査室 室長	大阪府	06-962-9621
	中後勝	医療法人愛仁会	理事長	大阪府	06-315-0576
	宮崎柏	栃木県済生会宇都宮病院	名誉院長	栃木県	0286-36-6702

2) 医療事故対策部会 (担当副会長 登内 真)

部会長	小澤寛二	国立療養所新潟病院	院長	新潟県	0257-22-2126
	遠藤良一	白河厚生総合病院	院長	福島県	0248-22-2211
	佐藤とく	東京警察病院	総看護婦長	東京都	03-3263-1371

林 茂 聖	バルナバ病院	院長	大阪府	06-779-1
藤森 暢路 藤 森	病院	理事長	兵庫県	0792-24-1
前田 マスヨ	(前・東海大学医療技術短期大学学部長)		神奈川県	0463-93-1 (自)
森 光 徳子	日本赤十字社医療センター	看護部長	東京都	03-3400-1

3) 防災対策部会 (担当副会長 登内 真)

部会長	織本 正慶	織本病院	会長	東京都	0424-91-2
副部会長	小原 知次郎	小原病院	院長	兵庫県	078-521-1
	石田 貞治	医療法人財団慈啓会	常務理事	神奈川県	045-401-2
	上林 三郎	聖路加国際病院	事務部顧問	東京都	03-3542-9
	倉持 一雄	学校法人順天堂	本館建設本部 前事務局	東京都	0472-44-3
顧問	岡山 義雄	東海記念病院	理事長	愛知県	0568-88-0

4) 労務・福利厚生・用度部会 (担当副会長 依田忠雄)

部会長

副部会長	星 源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1
	梅津 勝男	日比谷病院	事務次長	東京都	03-3502-7
	大塚 暢	聖隷福祉事業団	専務理事	静岡県	0534-73-2
	緒方 廣市	武蔵野赤十字病院	事務部長	東京都	0422-32-3
	藺部 雅一	(前・兵庫医科大学理事)		兵庫県	0797-22-0 (自)
	本宿 尚	公立藤田総合病院	院長	福島県	0245-85-2

3. 給食委員会 (担当副会長 依田忠雄)

委員長	原田 充善	川口市立医療センター	院長	埼玉県	048-287-2
副委員長	新村 明	篠ノ井総合病院	名誉院長	長野県	0262-92-2
	宇井 美代子	榑聖路加国際病院	栄養科長	東京都	03-3717-5 (自)
	佐藤 一義	新潟県立吉田病院	給食課長	新潟県	0256-92-5
	吉野 節子	吉祥院病院	給食部長	京都府	075-672-1
	米山 貞治	東京衛生病院	栄養科長	東京都	03-3738-8
	山本 辰芳	H D S 研究所	所長	東京都	03-3818-3

勤務医委員会(担当副会長 中山耕作)

委員長	藤沢正清	福井県済生会病院	院長	福井県	0776-36-3630
副委員長	岡本重禮	聖路加国際病院	副院長	東京都	03-3541-5151
	有賀徹	昭和大学附属病院	救急センター長	東京都	03-3784-8437
	安東三郎	いなみ野病院	院長	兵庫県	078-941-1730
	楢塚登喜郎	福岡赤十字病院	名誉院長	福岡県	092-521-1211
	佐々英達	佐々総合病院	理事長	東京都	0424-61-1535
	笹森典雄	牧田総合病院	副院長	東京都	03-3762-4671

教育委員会(担当副会長 中山耕作)

委員長	登内真	総合病院土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
副委員長	遠藤良一	白河厚生総合病院	院長	福島県	0248-22-2211
	松林恵子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-8331
	三宅浩之	(財)日本医薬情報センター	理事長	東京都	03-5466-1811
	宗雪武	横浜赤十字病院	院長	神奈川県	045-622-0101
	澤島政行	横浜船員保険病院	院長	神奈川県	045-331-1251
	北林悦子	九段坂病院	看護部長	東京都	03-3262-9191

通信教育委員会(担当副会長 中山耕作)

委員長	岩崎榮	日本医科大学医療管理学教室	主任教授	東京都	03-3822-2131
副委員長	木村明	新潟市民病院	院長	新潟県	025-241-5151
	竹本吉夫	秋田赤十字病院	院長	秋田県	0188-34-3361
	一条勝夫	病院管理研究協会	常任理事	東京都	03-3202-0791
	黒田幸男	国家公務員等共済組合連合会	参与	東京都	03-3222-1841
	長澤哲夫	北里大学東病院	病歴室長	神奈川県	0427-48-9111
	中村彰吾	聖路加国際病院	事務長	東京都	03-3541-5151

臨床予防医学委員会(担当副会長 依田忠雄)

委員長	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-8811
副委員長	鈴木豊明	東京警察病院検診センター	顧問	東京都	03-3263-1371
〃	小山田恵	岩手県立中央病院	院長	岩手県	0196-53-1151
	安藤幸夫	聖路加国際病院	名誉医長	東京都	03-3541-5151
	宇津典彦	(財)国立久留米病院	院長	福岡県	0942-21-4571

大川 日出夫	日本鋼管病院	副院長	神奈川県	044-333-559
小関 忠尚	明治鍼灸大学附属病院	院長	京都府	07717-2-122
金澤 鉄男	公立七戸病院	院長	青森県	0176-62-210
清瀬 闊	新東京病院	顧問	千葉県	0473-66-700
笹森 典雄	牧田総合病院附属健診センター	院長	東京都	03-3762-467
田中 剛二	総合高津中央病院	副院長	神奈川県	044-822-612
田村 政紀	PL東京健康管理センター	所長	東京都	03-3469-116
寺田 由紀夫	大阪赤十字病院	健診部	大阪府	06-771-513
日野原 茂雄	聖路加国際病院予防医療センター	所長	東京都	03-3541-515
松岡 研	PL病院	副院長	大阪府	07212-4-310
三木 徹	丸山病院	院長	兵庫県	078-642-103

8. 社会保険・老人保健委員会（担当副会長 河北博文）

委員長	西村 昭男	日鋼記念病院	院長	北海道	0143-24-133
副委員長	村田 寿太郎	村田博愛病院	院長	山口県	0835-22-231
〃	竹内 正也	社会保険 いばらき健康管理センター	センター長	茨城県	0292-43-622
	安藤 高夫	永生病院	理事長	東京都	0426-61-410
	梅津 勝男	日比谷病院	事務次長	東京都	03-3502-723
	川淵 孝一	国立医療病院管理研究所 医療経済研究部	主任研究員	東京都	03-3203-532
	児玉 博行	大原記念病院	院長	京都府	075-744-312
	櫻井 裕	防衛医科大学校公衆衛生学教室	講師	埼玉県	0429-95-121
	嶋崎 佐智子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-833
	千葉 兼三	千葉病院	事務長	東京都	03-3471-757
	益子 邦洋	日本医科大学救急医学科	助教授	東京都	03-3822-213
	三宅 祥三	武蔵野赤十字病院	副院長	東京都	0422-32-311

—医療費財源小委員会—

	河北 博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-213
	岩本 晋	山口大学医学部公衆衛生学	講師	山口県	0836-22-231
	児玉 博行	大原記念病院	院長	京都府	075-744-312
	嶋崎 佐智子	(社)日本看護協会	常任理事	東京都	03-3400-833
	益子 邦洋	日本医科大学救急医学科	助教授	東京都	03-3822-213

—医療費体系小委員会—

竹内正也	社会保険 いばらき健康管理センター	センター長	茨城県	0292-43-6220
飯田修平	練馬総合病院	院長	東京都	03-3972-1001
川淵孝一	国立医療病院管理研究所 医療経済研究部	研究員	東京都	03-3203-5327
濃沼信夫	東北大学医学部病院管理学	教授	宮城県	022-274-1111
千葉兼三	千葉病院	事務長	東京都	03-3471-7578
米満弘之	熊本機能病院	院長	熊本県	096-345-8111

医療経済（税制）委員会（担当副会長 河北博文）

委員長	北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
	飯田修平	練馬総合病院	院長	東京都	03-3972-1001
	石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-3839-5960
	岩本晋	山口大学医学部公衆衛生学	講師	山口県	0836-22-2316
	海北幸男	多根病院	事務長	大阪府	06-581-1071
	濃沼信夫	東北大学医学部病院管理学	教授	宮城県	022-274-1111
	中橋彌光	西陣病院	顧問	京都府	075-461-8800
	米満弘之	熊本機能病院	院長	熊本県	096-345-8111
	元原利武	明舞中央病院	院長	兵庫県	078-917-2020

—医療費改定小委員会—

	北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
	梅津勝男	日比谷病院	事務次長	東京都	03-3502-7231
	中橋彌光	西陣病院	顧問	京都府	075-461-8800
	三宅祥三	武蔵野赤十字病院	副院長	東京都	0422-32-3111
	元原利武	明舞中央病院	院長	兵庫県	078-917-2020

—医療税制小委員会—

	石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-3839-5960
	海北幸男	多根病院	事務長	大阪府	06-581-1071
	村田寿太郎	村田博愛病院	院長	山口県	0835-22-2310

10. 国際委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-311
副委員長	紀伊國 献三	東京女子医科大学	学長付 客員教授	東京都	03-3353-811
	高橋 淑郎	トロント大学医学部	助教授	東京都	03-3326-673 (自宅)
	竹内 正也	社会保険 いばらき健康管理センター	センター長	茨城県	0292-43-622
	長澤 泰	東京大学工学部	助教授	東京都	03-3812-211
	波多野 誠	日経 B P 社診療所	所長	東京都	03-5210-840
	牧野 永城	亀田総合病院	副院長	千葉県	04709-2-221

11. 組織委員会 (担当副会長 依田忠雄)

委員長	伊藤 研	医療法人大雄会	会長	愛知県	0586-71-121
副委員長	高科 成良	廣島総合病院	院長	広島県	0829-36-311
	北村 行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-185
	西能 正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-248
	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-311
	廣田 耕三	大浜第一病院	院長	沖縄県	098-866-517
	南 溢	秋津鴻池病院	理事長	奈良県	07456-3-060

12. 学術委員会 (担当副会長 中山耕作)

委員長	星 和夫	青梅市立総合病院	院長	東京都	0428-22-319
副委員長	一条 勝夫	病院管理研究協会	常任理事	東京都	03-3202-079
	岩 渕 勉	河北総合病院附属クリニック	副センター長	東京都	03-5377-251
	岡崎 通	(前・国立津病院)	院長	三重県	05925-6-265 (自宅)
	佐野 忠弘	青山病院	院長	東京都	03-3400-721
	高橋 政祺	杏林大学医学部	教授	東京都	0422-47-551
	三宅 浩之	(助)日本医薬情報センター	理事長	東京都	03-5466-181

13. 広報委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	廣田 耕三	大浜第一病院	院長	沖縄県	098-866-517
副委員長	岸口 繁	府中病院	理事長	大阪府	0725-41-164
	奥山 武雄	船橋市立医療センター	院長	千葉県	0474-38-332
	須藤 祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-3600-900
	須磨 忠昭	メディアーク経営研究所	所長	大阪府	06-324-331

	高木安雄	社会保障研究所	調査部長	東京都	03-3589-1381
	名原剛	日本生命保険相互会社	東海営業 総局長	愛知県	052-952-7841
参 与	行天良雄	医事評論家		神奈川県	045-331-2938 (自宅)

4. 企画・規程検討委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	渡辺晃	秦病院長	院長	茨城県	0294-36-2551
副委員長	小山秀夫	国立医療・病院管理研究所 医療経済研究部	部長	東京都	03-3203-5327
	中山耕作	総合病院聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
	登内真	総合病院土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
	依田忠雄	岡山赤十字病院	院長	岡山県	086-222-8811
	荒尾素次	はりま病院	理事長	兵庫県	0794-23-2123
	桑名昭治	桑名病院	院長	新潟県	025-273-2251
	中後勝	医療法人愛仁会	理事長	大阪府	0726-81-3801
	瀬田克孝	社会保険中央総合病院	院長	東京都	03-3364-0251
	山口昇	公立みつき総合病院	院長	広島県	08487-6-1111
	井出健	日本病院会	事務局長	東京都	03-3265-0077

5. 中小病院委員会 (担当副会長 中山耕作)

委員長	織本正慶	織本病院	会長	東京都	0424-91-2121
	川合弘毅	若草第一病院	理事長	大阪府	0729-85-5482
	中川三与三	九段坂病院	院長	東京都	03-3262-9191
	中村仁	国保八日市場市民総合病院	院長	千葉県	0479-72-1525
	木村篤人	立川中央病院	院長	東京都	0425-22-7171
	岡田玲一郎	社会医療研究所	所長	東京都	03-3914-5565
	関田康慶	東北大学医学部病院管理学教室	助手	宮城県	022-274-1111

〔 部 会 〕

1. 看護教育施設部会 (担当副会長 中山耕作)

会長	諸橋芳夫	国保旭中央病院	院長	千葉県	0479-63-8111
部会長	伊藤研	医療法人大雄会	会長	愛知県	0586-72-1211
副部会長	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	院長	東京都	0422-32-3111

常任幹事	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
〃	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-8211
〃	小澤寛二	国立療養所新潟病院	院長	新潟県	0257-22-2126
〃	星源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515
〃	木村明	新潟市民病院	院長	新潟県	025-241-5151

2. 私的病院部会 (担当副会長 河北博文)

部会長	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-2121
副部会長	織本正慶	織本病院	理事長	東京都	0424-91-2121
〃	大道學	大道病院	理事長	大阪府	06-962-9621
	伊藤研	医療法人大雄会	会長	愛知県	0586-72-1211
	西能正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
	佐藤真杉	佐藤病院	院長	大阪府	0720-50-8711
	竹川節男	竹川病院	院長	東京都	03-3966-8781
	西島英利	小倉蒲生病院	理事長	福岡県	093-961-3238
	福井順	長崎記念病院	理事長	長崎県	0958-71-1515
	中山耕作	総合病院聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222

3. 老人保健施設部会 (担当副会長 河北博文)

部会長	河北博文	河北総合病院	理事長	東京都	03-3339-2121
	伊藤研	医療法人大雄会	会長	愛知県	0586-72-1211
	南溢	秋津鴻池病院	院長	埼玉県	048-686-7151
	漆原彰	大宮共立病院	院長	埼玉県	048-686-7151
	寺田一郎	水原郷病院	名誉院長	新潟県	05250-62-2780

4. エイズ対策本部 (担当副会長 河北博文)

本部長	諸橋芳夫	日本病院会	会長	東京都	03-3265-0077
本部長代行	河北博文	日本病院会	副会長	東京都	03-3265-0077
副本部長	瀬田克孝	社会保険中央総合病院	院長	東京都	03-3364-0251
	登内真	日本病院会	副会長	東京都	03-3265-0077
	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-3451-8211
	伊藤研	医療法人大雄会	会長	愛知県	0586-72-1211
	岩崎榮	日本医科大学	医療管理学教授	東京都	03-3822-2131

岡崎 通	(前・国立津病院 院長)	三重県	05925-6-2651 (自宅)
島田 馨	東京大学医科学研究所 付属病院 院長	東京都	03-3443-8111
須藤 祐司	嬉 泉 病 院 院 長	東京都	03-3600-9001
高橋 勝三	武蔵野赤十字病院 院長	東京都	0422-32-3111
田所 昌夫	河北総合病院 院長	東京都	03-3339-2121
星 和夫	青梅市立総合病院 院長	東京都	0428-22-3191
渡辺 晃	秦 病 院 院 長	茨城県	0294-36-2551

(オブザーバー)

相川 直樹	慶應義塾大学	医学部救急部 教授	東京都	03-3353-1211
大江 健二	国保旭中央病院	中央検査科 検査長	千葉県	0479-63-8111
尾 崎 新平	厚生省保健医療局	エイズ結核 感染症課長	東京都	03-3503-1711
菅野 治重	千葉大学医学部付属病院	検査部感染症 部門講師	千葉県	043-222-7171
紀伊國 献三	東京女子医科大学	学部長 付	東京都	03-3353-8111
斎藤 毅	日本歯科医師会 HIV調査検討委員会	座長	東京都	03-3219-8000
嵯峨 清喜	嵯峨法律事務所	弁護士	東京都	03-3496-5120
高柳 和江	日本医科大学	医療管理学 助教授	東京都	03-3822-2131

特別委員会]

1. 病院情報センター委員会 (担当副会長 河北博文)

委員長	三宅 浩之	(働)日本医薬情報センター	理事長	東京都	03-5466-1810
副委員長	里村 洋一	千葉大学附属病院	部長	千葉県	0472-22-7171
	青木 禧和	千代田病院	事務長	宮崎県	0982-52-7111
	一条 勝夫	病院管理研究協会	理事	東京都	03-3202-0791
	大道 久	日本大学医学部医療管理学教室	教授	東京都	03-3972-8111
	土井 義行	舞子台病院	事務長	兵庫県	078-782-0055
	谷口 正和	(前・N T T データ通信(株))		東京都	03-5343-2011

2. 国際モダンホスピタルショウ (担当副会長 登内 真)

担当副会長	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
研究研修 委員長	登内 真	〃	〃	〃	〃
企画委員長	三宅 浩之	関東通信病院	顧問	東京都	03-3448-6537

3. 国際病院連盟汎地域会議 組織委員会 (担当副会長 河北博文)

会 長	諸 橋 芳 夫	日 本 病 院 会	会 長	東 京 都	03-3265-007
委 員 長	河 北 博 文	河 北 総 合 病 院	理 事 長	東 京 都	03-3339-212
副 委 員 長	紀 伊 國 献 三	東 京 女 子 医 科 大 学	学 長 付 客 員 教 授	東 京 都	03-3353-811
	高 橋 勝 三	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	院 長	東 京 都	0422-32-311
委 員	中 山 耕 作	総 合 病 院 聖 隷 浜 松 病 院	院 長	静 岡 県	0534-74-222
	依 田 忠 雄	岡 山 赤 十 字 病 院	院 長	岡 山 県	0862-22-881
	牧 野 永 城	亀 田 総 合 病 院	副 院 長	千 葉 県	04709-2-221
	吉 野 晶 雄	厚 生 科 学 研 究 所	所 長	東 京 都	03-3470-466
	エロル・ピカリング	国 際 病 院 連 盟 本 部	事 務 局 長	ロンドン	

国際病院連盟汎地域会議 運営委員会

委 員 長	高 橋 勝 三	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	院 長	東 京 都	0422-32-311
副 委 員 長	吉 野 晶 雄	厚 生 科 学 研 究 所	所 長	東 京 都	03-3470-466
	小 山 秀 夫	国 立 医 療 ・ 病 院 管 理 研 究 所	部 長	東 京 都	03-3203-532
	川 渕 孝 一	国 立 医 療 ・ 病 院 管 理 研 究 所	主 任 研 究 員	東 京 都	03-3203-532
	高 橋 淑 郎	ト ロ ン ト 大 学 医 学 部	助 教 授	東 京 都	03-3326-673 (自宅)
	岡 本 悦 司	近 畿 大 学 医 学 部	助 手	大 阪 府	0723-66-022

国際病院連盟汎地域会議 学術委員会

委 員 長	牧 野 永 城	亀 田 総 合 病 院	副 院 長	千 葉 県	04709-2-221
副 委 員 長	紀 伊 國 献 三	東 京 女 子 医 科 大 学	学 長 付 客 員 教 授	東 京 都	03-3353-811
委 員	長 澤 泰	東 京 大 学 工 学 部	助 教 授	東 京 都	03-3812-211
	池 上 直 己	慶 應 義 塾 大 学	教 授	東 京 都	03-3353-121
	川 渕 孝 一	国 立 医 療 ・ 病 院 管 理 研 究 所	主 任 研 究 員	東 京 都	03-3203-532
	竹 内 正 也	社 会 保 険 い ば ら き 健 康 管 理 セ ン タ ー	セ ン タ ー 長	茨 城 県	0292-43-622
	波 多 野 誠	日 経 B P 社 診 療 所	所 長	東 京 都	03-5210-840
	岡 崎 通	(前 ・ 国 立 津 病 院 院 長)		三 重 県	05925-6-265 (自宅)

国際病院連盟汎地域会議 財務委員会

委 員 長	河 北 博 文	河 北 総 合 病 院	理 事 長	東 京 都	03-3339-212
-------	---------	-------------	-------	-------	-------------

研究会委員名簿 （7年3月31日現在）

1. 診療システム研究会

顧問	嶋田和正	都立広尾病院	顧問	(03)3489-7901 (自宅)
委員長	澤島政行	横浜船員保険病院	院長	(045)331-1251
編集委員	杉浦昌也	都立広尾病院	院長	(03)3444-1181
副委員長	岡庭弘	東京日立病院	院長	(03)3831-2181
	加藤正弘	江戸川病院	院長	(03)3673-1221
	諏訪城三	神奈川県立こども医療センター	院長	(045)711-2351
	園崎秀吉	都立台東病院	副院長	(03)3874-7441
	新納憲司	大口東総合病院	院長	(045)401-2411
	星和夫	青梅市立総合病院	院長	(0428)22-3191
	松本泰二	日暮里上宮病院	院長	(03)3891-5291
	浜田一美	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0077

2. 事務管理研究会

顧問	益田啓作	(前)横浜赤十字病院	事務部長	(045)771-3002 (自宅)
顧問	上林三郎	聖路加国際病院	事務部長	(03)3542-9746
委員長	安田尚之	順天堂大学医学部附属順天堂医院	事務部長	(03)3813-3111
副委員長	山本敏博	聖隷福祉事業団	常務理事	(053)473-2150
	海北幸男	医療法人きっこう会	事務局長	(06) 581-1071
	黒田幸男	国家公務員等共催組合連合会	参与	(03)3222-1841
	佐々木和男	河北総合病院	本部長	(03)3339-2121
	竹田秀	竹田総合病院	副理事長	(0242)27-5511
編集委員	田中實	足利赤十字病院	事務部長	(0284)21-0121
	中村彰吾	聖路加国際病院	事務長	(03)3541-5151
	平野栄次	東十条病院	事務長	(03)3911-5511
	山下昭雄	杏雲堂病院	事務長	(03)3292-2051
	大内全	(株)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

3. 医事研究会

顧問	加藤雄二	病院システム研究会	代表	(0423)26-3898
顧問	三上晃	(株)エムエム21	代表取締役	(03)3862-9111
委員長	船津浩	虎の門病院	医事課長	(03)3588-1111
副委員長	石坂恵介	虎の門病院分院	総務課長	(044)877-5111
	岩瀬英二	織本病院	医事課顧問	(0424)91-2121
編集委員	武田匡弘	横浜総合病院	医事課入院係長	(045)902-0001
	大内全	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

4. 総務研究会

顧問	青山博	(元)三井記念病院	総務課長	(03)3759-5347 (自宅)
委員長	石山稔	(株)聖路加サービスセンター	常務取締役	(03)3542-9746
副委員長	松田詔	西東京警察病院	医事課長	(0423)21-2031
	篠塚功	河北総合病院	人事課長	(03)3339-2121
	田島誠一	総合病院聖隷三方原病院	事務長	(053)436-1251
	中永久光	西能病院	常務理事	(0764)41-2481
	渡辺謙太郎	亀田総合研究所	副所長	(04709)2-2211
	一之瀬秀樹	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

5. 用度研究会

委員長	塩山雅英	聖路加国際病院	事務次長	(03)3543-7307
副委員長	梅津勝男	日比谷病院	事務次長	(03)3502-7231
編集委員	大石洋司	練馬総合病院	事務長	(03)3972-1001
	中村明良	三楽病院	職員係長	(03)3292-3981
	平林和玄	公立昭和病院	経理課長	(0424)61-0052
	松島雅夫	北里研究所病院	用度課長	(03)3444-6161
	山口敏雄	日通健保東京病院	経理課長	(03)3946-5151
	中田彬	(社)日本病院会	企画調整課	(03)3265-0077

6. 施設研究会

顧問	上林三郎	聖路加国際病院	事務部顧問	(03)3541-5151
委員長	倉持一雄	前・学校法人順天堂	本館建設本部事務局	(0422)44-3433 (自宅)
副委員長	中島昭二郎	北品川総合病院	施設課長	(03)3474-1831
	小峰建二	武蔵野赤十字病院	施設課長	(0422)32-3111
	佐藤辰夫	虎の門病院	施設課長	(03)3588-1111
編集委員	瀬川篤宏	河北総合病院	財団本部長	(03)3339-2121
	中西照緑	都立豊島病院	主事	(03)3961-3281
	千須和美直	(社)日本病院会	企画調整課	(03)3265-0077

7. 会計経理研究会

顧問	酒泉春雄	(前)河北総合病院	財団事務局顧問	(03)3337-0029 (自宅)
委員長	小沢武男	東大和病院	顧問	(0425)62-1411
副委員長 編集委員	別府勇	虎の門病院分院	事務部長	(044)877-5111
	徳野雅彦	三楽病院	財政課係長	(03)3292-3981
	横山達治	聖路加国際病院	管財課長	(03)3541-5151
	太刀川東吾 白杵豊	(社)日本病院会	会計課	(03)3265-0077

8. 人事労務研究会

顧問	稲垣武	(社)全国病院理学療法協会	事務所長	(03)3494-1948
委員長	西浦捷裕	東京衛生病院	人事課長	(03)3392-6151
副委員長	斉藤正夫	石和温泉病院	統括企画室長	(0552)63-0111
	阿部宏子	虎の門病院	総務課長	(03)3588-1111
	大塚辰雄	賛育会病院	総務課長	(03)3622-9191
	酒井武	賛育会病院	事務長	(03)3622-9191
	垂水正紀	(社)東京都教職員互助会	互助事業課	(03)3293-9022
	一之瀬秀樹	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

9. 看護管理研究会

顧問	内田 卿子	(前) 聖路加国際病院	副 院 長	(048)886-3745 (自宅)
委員長	北林 悦子	九 段 坂 病 院	看 護 部 長	(03)3262-9191
副委員長	家入 秀子	港区立特養老人ホーム・高齢者 在宅サービスセンター白金の森	看護・介護課長	(03)3449-9611
	大久保 和恵	練馬総合病院	総 婦 長	(03)3972-1001
	木部 玲子	北里研究所病院	副看護部長	(03)3444-6161
	達子 房	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	看護部長	(0473)53-3111
	竹内 幸枝	日本赤十字社医療センター	婦 長	(03)3400-1311
	嶋崎 佐智子	(社) 日本看護協会	常任理事	(03)3400-8331
	長谷川 スミ子	癌研究会附属病院	総 婦 長	(03)3918-0111
編集委員	宮越 和子	都立府中病院	看護部長	(0423)23-5111
	由井 尚美	社会保険横浜中央病院	総 婦 長	(045)641-1921
	浜田 一美	(社) 日本病院会	事業課	(03)3265-0077

10. 薬事管理研究会

顧問	片山 孝一	聖路加国際病院	薬 局 長	(03)3541-5151
委員長	佐野 寿夫	日本赤十字社医療センター	薬 剤 部 長	(03)3400-1311
副委員長	八木下 将也	同愛記念病院	薬 剤 科 長	(03)3625-6381
編集委員	樺山 照一	杏林大学医学部付属病院	薬 剤 科 長	(0422)47-5511
	飯沼 弘義	都立神経病院	薬 剤 科 長	(0423)23-5110
	石井 漱一	国立がんセンター東病院	薬 剤 部 長	(0471)33-1111
	磯崎 貞夫	東京逋信病院	薬 剤 部 長	(03)3238-7167
	海老沼 廣	東京警察病院	薬 剤 部 長	(03)3263-1371
	永井 昇	東京厚生年金病院	薬 剤 部 長	(03)3269-8111
	大内 全	(社) 日本病院会	事業課	(03)3265-0070

11. 栄養管理研究会

顧問	馬場 昂	エアロビクスクリニック	栄養室長	(0423)43-1573 (自宅)
委員長	佐藤 節夫	順天堂大学医学部附属順天堂医院	栄養部長	(03)3813-3111
副委員長	長崎 洋三	健保川崎中央病院	栄養課長	(044)288-2601
副委員長	米山 貞治	東京衛生病院	栄養科長	(03)3392-6151
	宇井 美代子	(前) 聖路加国際病院	栄養科長	(03)3717-5390 (自宅)
	下 房子	関越病院	栄養科	(0492)85-3161
編集委員	住田 佳寿子	心臓血管研究所附属病院	栄養科管理室長	(03)3408-2151
	中川 渉男	江東病院	栄養課長	(03)3685-2166
	中西 靖子	河北総合病院	栄養科長	(03)3339-2121
	水上 美津子	横浜赤十字病院	栄養課長	(045)622-0101
	吉田 美津子	都立府中病院	栄養科長	(0423)23-5111
	浜田 一美	(株) 日本病院会	事業課	(03)3265-0077

12. 調理研究会

委員長	佐藤 亘	東邦大学医学部附属大森病院	調理上席室長	(03)3762-4151
副委員長	小林 武夫	都立駒込病院	栄養科技能長	(03)3823-2101
	杉本 和治	(元) 三楽病院	調理主任	(044)411-5254 (自宅)
編集委員	倍賞 玉之助	東京衛生病院	調理主任	(03)3392-6151
	吉川 恒司	国立療養所東京病院	調理師	(0424)91-2111
	浜田 一美	(株) 日本病院会	事業課	(03)3265-0077

13. 診療録管理研究会

委員長	木村 明	新潟市民病院	院長	(025)241-5151
副委員長	三竹 年世子	済生会神奈川県病院	病歴室顧問	(045)432-1111
編集委員	有坂 馨	(助) 松村看護専門学校	事務長	(0246)22-9961
	大島 京子	北里研究所病院	病歴室主任	(03)3444-6161
	小泉 智子	杏林大学医学部付属病院	病歴室主任	(0422)47-5511
	桜井 勉	慶応義塾大学病院	中央病歴室 課長代理	(03)3353-1211
	武田 純子	松戸市立病院	診療記録管理室主任	(0473)63-2171
	西野 泰吉	東京医科大学病院	中央病歴室 課長補佐	(03)3342-6111
	丸林 葉子	順天堂大学医学部附属順天堂医院	診療録管理室係長	(03)3813-3111

吉崎悦子 濟生会神奈川県病院 病歴図書室係長 (045)432-1111
 北川芳兼 (株)日本病院会 通信教育課 (03)3265-0079

14. 病院管理総合研究会

顧問 小林保吉 川病院 企画室長 (03)3967-6011
 委員長 矢作忠政 京浜総合病院 理事長 (044)777-3254
 副委員長 金地嘉夫 金地病院 理事長 (03)3821-6433
 伊藤勇二 新東京病院 企画室長 (0473)68-9651
 金森頼長 (株)板橋区医師会病院 事務局長 (03)3975-8151
 熊沢宏光 京浜総合病院 事務局次長 (044)777-3251
 坂本すが 関東逋信病院 副看護部長 (03)3448-6021
 高田カメ 河井病院 総婦長 (03)3951-9116
 編集委員 外池美和子 朝日生命成人病研究所附属病院 病院情報管理室長 (03)3343-2151
 中村彰吾 聖路加国際病院 事務長 (03)3541-5151
 大内全 (株)日本病院会 事業課 (03)3265-0070

15. 放射線研究会

顧問 西田義夫 (株)佼成病院 健康管理相談室長 (03)3383-1281
 顧問 隈崎達夫 日本医科大学 放射線科主任教授 (03)3822-2131
 顧問 虎渡勇二 (株)おかむら健クリニック 放射線室長 (03)3847-9051
 委員長 村越秀光 日本医科大学附属病院 副技師長 (03)3822-2131
 副委員長 佐藤尚義 (株)北品川総合病院 放射線技術部課長 (03)3474-5861
 阿部敏 東京都立駒込病院 放射線科技師長 (03)3823-2101
 大内周信 聖テレジア病院 顧問 (0467)32-4125
 栗田道雄 東京女子医科大学こう原病
 リウマチ痛風センター 技師 (03)5269-1711
 小泉美都枝 聖マリアンナ医大東横病院 放射線部係長 (044)722-2121
 杉尾敏憲 国立東京第二病院 副技師長 (03)3411-0111
 平和夫 東京都済生会中央病院 放射線科長 (03)3451-8211
 藤田功 浦和市立病院 技師 (048)873-4111
 編集委員 松元和敏 石心会狭山病院 コメディカル部長 (0429)53-6611
 一之瀬秀樹 (株)日本病院会 事業課 (03)3265-0070

16. 臨床検査管理研究会

顧問	佐藤和身	(前)駿河台日本大学病院	技術長	(045)881-3869 (自宅)
委員長	川越功	浜松赤十字病院	技師長	(053)472-1151
副委員長 編集委員	小金沢宗雄	河北総合病院	技師長	(03)3339-2121
副委員長	高橋貞嗣	済生会横浜市南部病院	技師長	(045)832-1111
	宇津木道弘	東京医科大学病院	技師長	(03)3342-6111
	川畑貞美	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	技師長	(0473)53-3111
	島袋宏明	日本大学医学部附属板橋病院	検査科主任	(03)3972-8111
	鈴木勝治	春日部市立病院	医事課長	(048)735-1261
	成田周市	板橋中央総合病院	検査科次長	(03)3967-6011
	前畑英介	三井記念病院	技師長	(03)3862-9111
	浜田一美	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0077

17. ハウスキーピング研究会

顧問	近藤英二	国際医療管理専門学校	講師	(0471)33-5307 (自宅)
委員長 編集委員	井上加代子	(前)杏林大学医学部付属病院	庶務課次長	(044)976-3988 (自宅)
副委員長	伊藤ユキ子	(元)都立府中病院	家政係長	(0422)48-2268 (自宅)
	粕谷良	(元)虎の門病院	整備課長	(0423)21-1894 (自宅)
	神山金刀	関東中央病院	保清係長	(03)3429-1171
	栗原君代	済生会横浜市南部病院	施設課ハウスキーパー	(045)832-1111
	高崎とし子	虎の門病院分院	総務課調査役	(044)877-5111
	友安直子	日本大学医学部	医療管理学教室	(03)3300-8397 (自宅)
	水野淑子	(元)順天堂医院	家政係長	(03)3307-1335 (自宅)
	箕輪町子	春日部市立病院	施設管理係	(048)735-1261
	浜田一美	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0077

18. 図書室研究会

顧問	後藤久夫	(元) 片瀬学園	園長	(0466)22-4462
委員長	石澤實枝	東京厚生年金病院	事務主任	(03)3269-8111
副委員長	篠原寿美江	川崎市立川崎病院	司書	(044)233-5521
編集委員	上原みどり	三井記念病院	事務副主任	(03)3862-9111
	有田由美子	新潟県がんセンター新潟病院	図書室主任	(025)266-5111
	飯田育子	浜松赤十字病院	主事	(0534)72-1151
	奥出麻里	川鉄健保千葉病院	司書	(0472)61-5111
	岡橋郁子	社会保険広島市民病院	総務課主事	(0822)21-2291
	直江理子	旭川市立旭川病院	事務吏員	(0166)24-3181
	吉富まち子	竹田綜合病院	事務員	(0242)27-5511
	大内全	(社)日本病院会	事業課	(03)3265-0070

19. 職場リーダー研修会

委員長	内藤均	聖路加国際病院	物品管理センター長	(03)3541-5151
副委員長	神田幸助	昭和大学病院	中央放射線部技師長	(03)3784-8418
	緒方廣市	武蔵野赤十字病院	事務部長	(0422)32-3111
	設楽正登	佼成病院	臨床検査技師長	(03)3383-1281
	平井千枝	東京医科大学病院	栄養科科长補佐	(03)3342-6111
	渡辺修孝	佼成病院	人事課係長	(03)3383-1281
	井上新一	(社)日本病院会	総務課	(03)3265-0077
	西川幸一			

会 員 状 況

平成7年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	67	石 川	21	岡 山	73
青 森	21	福 井	18	広 島	51
岩 手	18	山 梨	26	山 口	32
宮 城	24	長 野	36	徳 島	7
秋 田	27	岐 阜	37	香 川	17
山 形	17	静 岡	76	愛 媛	32
福 島	39	愛 知	139	高 知	45
茨 城	53	三 重	43	福 岡	96
栃 木	22	滋 賀	30	佐 賀	9
群 馬	41	京 都	67	長 崎	44
埼 玉	67	大 阪	188	熊 本	31
千 葉	112	兵 庫	162	大 分	14
東 京	266	奈 良	41	宮 崎	13
神 奈 川	137	和 歌 山	66	鹿 児 島	17
新 潟	69	鳥 取	17	沖 縄	12
富 山	27	島 根	13	合 計	2,480

会 員 種 別	平成7年3月31日	平成6年3月31日	増 減
正 会 員	2,480	2,474	6
賛 助 会 員 A	145	147	△ 2
" B	221	209	12
" D	68	71	△ 3
" 計	434	427	7